

Ⅲ 集計結果の分析

1. 防災・消防・救急について

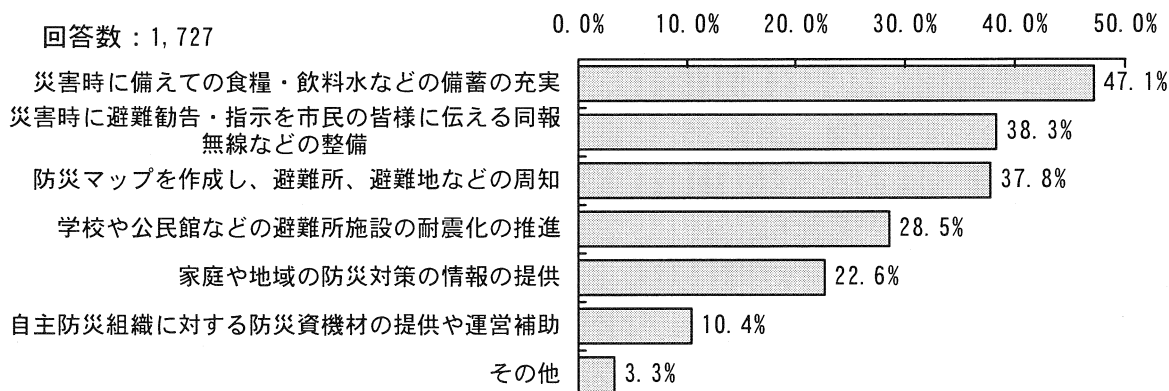
1-1 防災対策について

1-1-1 市が力を入れるべき防災対策

問1 防災対策として全てが重要ですが、市が特に力を入れるべきだと思われる取り組みはどの項目ですか。【あてはまるもの2つに○】

市が力を入れるべき防災対策は、「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が47.1%で最も多く、次いで「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様に伝える同報無線などの整備」(38.3%)、「防災マップを作成し、避難所、避難地などの周知」(37.8%)となっている。

図 市が力を入れるべき防災対策（2つ以内で複数回答）



地域別にみると、「月ヶ瀬」と「都祁」以外の全ての地域で「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が最も多く、「東部地域」では「防災マップを作成し、避難所、避難地などの周知」も最も多くなっている。回答の多い順の2番目は、「西部」と「中部」と「南部」では「防災マップを作成し、避難所、避難地などの周知」であるが、「北部」と「中央市街地」では「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様に伝える同報無線などの整備」となっている。「月ヶ瀬」と「都祁」では「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様に伝える同報無線などの整備」が最も多く、「月ヶ瀬」では「家庭や地域の防災対策の情報の提供」と「自主防災組織に対する防災資機材の提供や運営補助」も最も多くなっている。

表 地域別 市が力を入れるべき防災対策（2つ以内で複数回答）

	有効回答数	進学避難所、学校や施設の耐震化などの推進	避難所、防災マップ、避難地などの周知	災害時に避難勧告・指示を市民の皆様に伝える同報無線などの整備	家庭や地域の防災対策の情報の提供	自主防災組織に対する防災資機材の提供や運営補助	災害時に備えての食糧・飲料水の備蓄	その他
全体	1,727	28.5%	37.8%	38.3%	22.6%	10.4%	47.1%	3.3%
西部地域	769	29.9%	40.1%	39.0%	22.1%	8.5%	46.6%	4.0%
北部地域	125	30.4%	31.2%	44.0%	16.8%	8.8%	54.4%	0.8%
中部地域	114	30.7%	41.2%	39.5%	27.2%	6.1%	42.1%	0.9%
中央市街地	414	25.8%	37.4%	37.9%	22.2%	14.3%	49.8%	2.2%
南部地域	122	33.6%	36.1%	27.9%	23.0%	13.9%	47.5%	4.9%
東部地域	26	11.5%	42.3%	26.9%	19.2%	26.9%	42.3%	7.7%
月ヶ瀬地域	9	11.1%	22.2%	44.4%	44.4%	44.4%	33.3%	0.0%
都祁地域	31	29.0%	35.5%	54.8%	29.0%	9.7%	38.7%	6.5%

* 地域（無回答）：117人

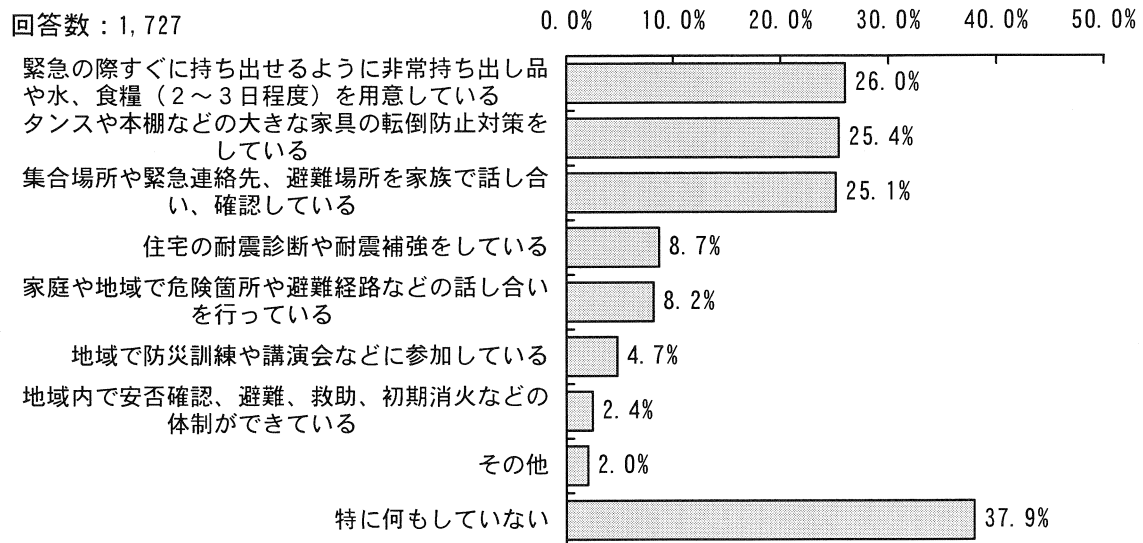
1-1-2 家庭や地域で行っている防災対策

問2 防災対策としてご家庭や地域で行っておられる取り組みは、次のうちのどの項目ですか。
【あてはまるものすべてに○】

家庭や地域で行っている防災対策は、「特に何もしていない」を除いて「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水、食糧（2～3日程度）を用意している」が26.0%で最も多く、次いで「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」（25.4%）、「集合場所や緊急連絡先、避難場所を家族で話し合い、確認している」（25.1%）となっている。

なお「特に何もしていない」は37.9%となっている。

図 家庭や地域で行っている防災対策（複数回答）



何を行っているか家族構成別にみると、「二世帯世帯（本人と子ども）」では「集合場所や緊急連絡先、避難場所を家族で話し合い、確認している」（27.8%）が最も多く、「二世帯世帯（本人と親）」では「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」（23.7%）が最も多くなっている。他構成世帯ではいずれも「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水、食糧（2～3日程度）を用意している」が最も多くなっている。

表 家族構成別 家庭や地域で行っている防災対策（複数回答）

	合計	緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水、食糧（2～3日程度）を用意している	集合場所や緊急連絡先、避難場所を家族で話し合い、確認している	タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている	住宅の耐震診断や耐震補強をしている	家庭や地域で危険箇所や避難経路などの話し合いを行っている	地域で防災訓練や講演会などに参加している	地域内で安否確認、避難、救助、初期消火などの体制ができている	その他	特に何もしていない
全体	1,727	26.0%	25.1%	25.4%	8.7%	8.2%	4.7%	2.4%	2.0%	37.9%
家族構成										
単身	134	26.9%	17.9%	17.9%	3.0%	4.5%	3.7%	3.7%	2.2%	45.5%
夫婦のみ	430	29.8%	27.0%	29.1%	8.8%	8.6%	4.9%	2.3%	2.3%	33.3%
二世帯世帯（本人と子ども）	580	25.5%	27.8%	26.6%	9.5%	8.1%	4.7%	2.1%	1.9%	36.2%
二世帯世帯（本人と親）	249	20.9%	20.9%	23.7%	6.4%	8.8%	4.0%	2.4%	0.8%	45.8%
三世帯世帯	210	25.7%	24.3%	22.4%	13.3%	8.1%	6.7%	3.3%	1.4%	37.1%
その他	31	29.0%	25.8%	25.8%	9.7%	12.9%	12.9%	3.2%	6.5%	35.5%

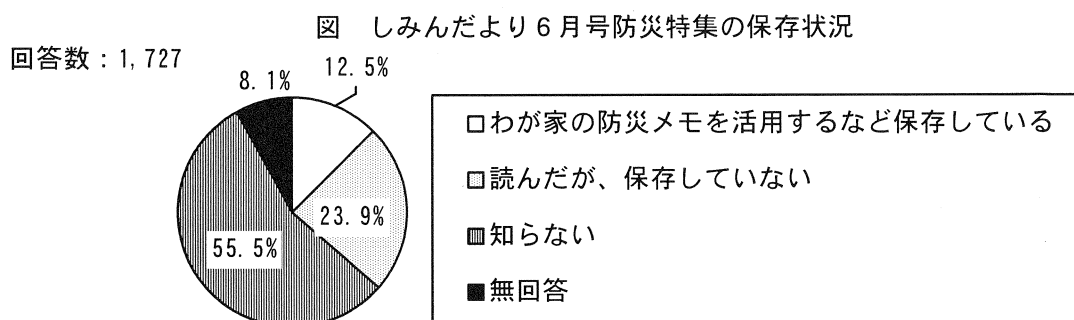
* 家族構成（無回答）：93人

1-2 しみんだより 6月号防災特集について

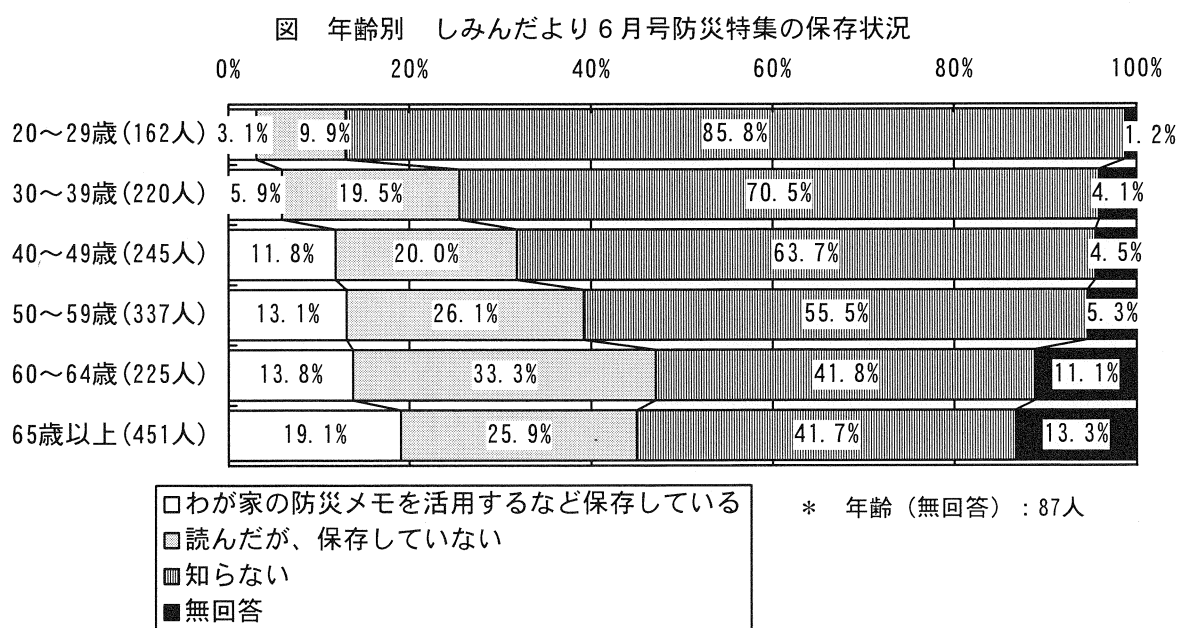
1-2-1 しみんだより 6月号防災特集の保存状況

問3 今年のしみんだより 6月号防災特集（保存版）についてお聞きします。【あてはまるものの1つに○】

しみんだより 6月号防災特集の保存状況は、「知らない」が 55.5%で過半数を超えており、次いで「読んだが、保存していない」が 23.9%となっている。



年齢別にみると、「知らない」は「20～29歳」が 85.8%で最も高く、次いで「30～39歳」（70.5%）、「40～49歳」（63.7%）となっており、年齢が下がる程認知度が低くなっている。また、「読んだが、保存していない」は「60～64歳」（33.3%）で最も高く、「わが家の防災メモを活用するなど保存している」では「65歳以上」（19.1%）で最も高くなっている。



1-2-2 しみんだより6月号防災特集に対する感想

問3-1 問3で「1. わが家の防災メモを活用するなど保存している」または「2. 読んだが、保存していない」と答えた方はご意見、ご感想をお聞かせください。

しみんだより6月号防災特集を「わが家の防災メモを活用するなど保存している」または「読んだが、保存していない」方の内、239人（38.1%）からしみんだより6月号防災特集に対する感想をえた。分類すると、「防災特集について」は177人、「災害に対する備え・心構えについて」は58人から回答をえた。防災特集について、「災害用に大切に保存」が27人で最も多く、次いで「満足している」（19人）、「保存しているが、活用できていない」（17人）となっている。災害に対する備え・心構えについて、「災害に対して実感がない」が19人で最も多く、次いで「今後、災害に備えたい」（11人）となっている。なお、自由記述は複数回答のため、回答数の合計と全体は一致しない。

表 しみんだより6月号防災特集に対する感想

大分類	小分類	回答数	構成比
防災特集について	災害用に大切に保存	27	11.3%
	満足している	19	7.9%
	保存しているが、活用できていない	17	7.1%
	災害時に防災特集を活かせるか不安	15	6.3%
	内容を具体的かつ簡潔にしてほしい	14	5.9%
	定期的に発行してほしい	13	5.4%
	紛失した	13	5.4%
	内容について覚えていない	11	4.6%
	防災特集を元に非常持ち出し品等を準備したい	9	3.8%
	避難場所を確認できた	7	2.9%
	小冊子・別冊にしてほしい	6	2.5%
	読んでいない	6	2.5%
	防災マップや避難場所のマップが欲しい	4	1.7%
	その他	3	1.3%
	時々読み返している	3	1.3%
	目立つよう工夫してほしい	3	1.3%
	冷蔵庫等に貼れる形にしてほしい	3	1.3%
	内容についてもう一度確認したい	2	0.8%
	防災の大切さがわかった	2	0.8%
	計	177	74.1%
災害に対する備え・心構え	災害に対して実感がない	19	7.9%
	今後、災害に備えたい	11	4.6%
	その他	10	4.2%
	非常持ち出し品等の備えができていない	8	3.3%
	地域の防災組織の強化	4	1.7%
	備えは必要だが、実行していない	4	1.7%
	災害情報は意識して入手している	2	0.8%
	計	58	24.3%
その他	防災についての周知徹底	11	4.6%
	避難場所が少ない・遠い	6	2.5%
	帰宅困難者への対応の周知が必要	2	0.8%
	計	19	7.9%
全体		239	100.0%

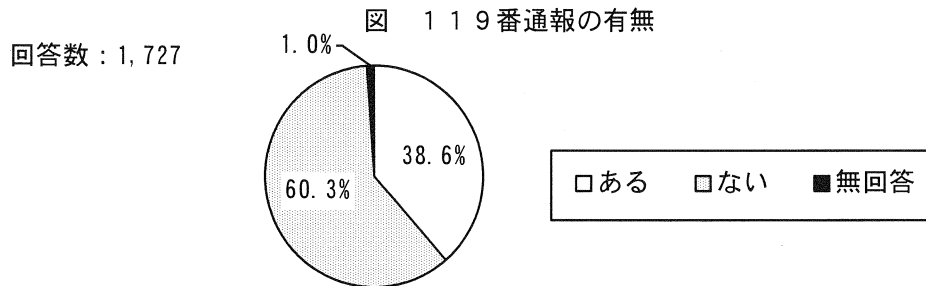
1-3 119番通報について

1-3-1 119番通報の有無

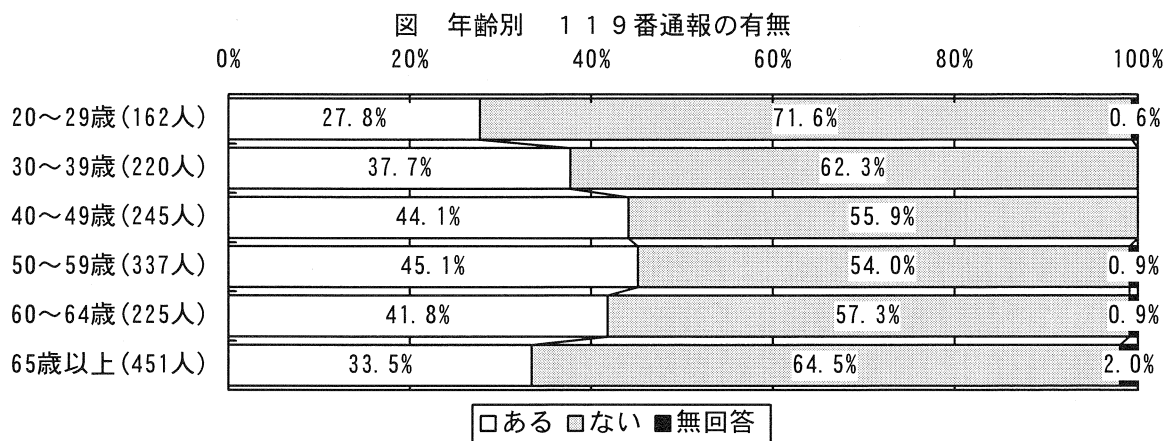
問4 あなたは、いままでに119番通報をされたことがありますか。

【あてはまるもの1つに○】

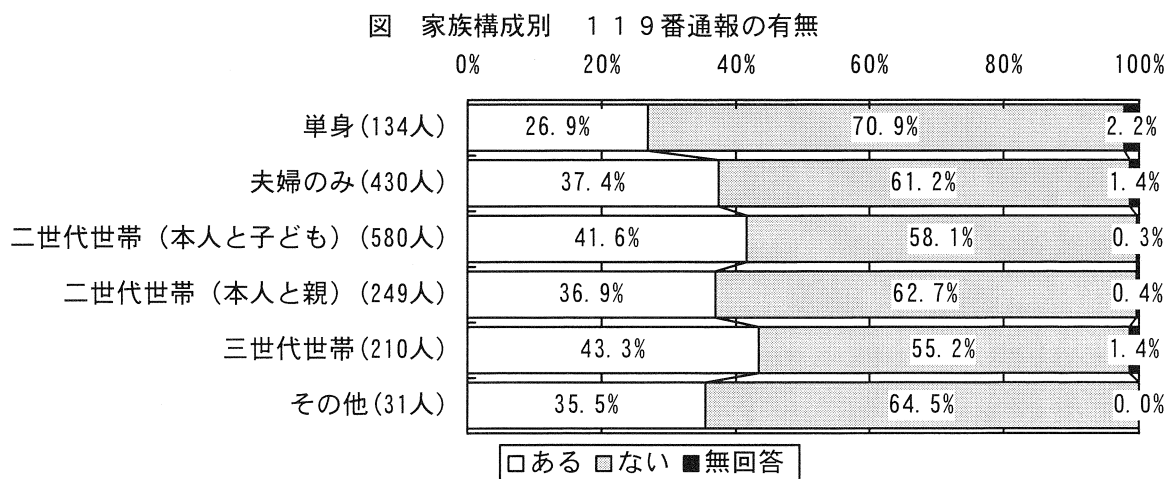
119番通報の有無は、「ない」が60.3%で「ある」(38.6%)を21.7ポイント上回っている。



年齢別にみると、「ある」は「50～59歳」(45.1%)で最も高く、次いで「40～49歳」(44.1%)となっている。



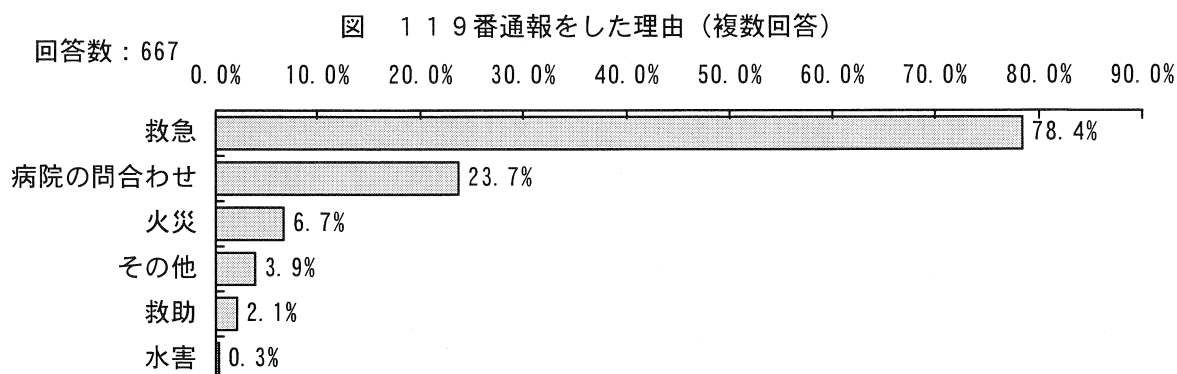
家族構成別にみると、「ある」は「三世帯世帯」(43.3%)で最も高く、次いで「二世帯世帯(本人と子ども)」(41.6%)となっている。



1-3-2 119番通報をした理由

問4-1 問4で「1. ある」と答えた方にお聞きします。どんなときに119番通報されましたか。【あてはまるものすべてに○】

119番通報をしたことが「ある」方の内、119番通報をした理由は、「救急」が78.4%で最も多く、次いで「病院の問い合わせ」(23.7%)となっている。

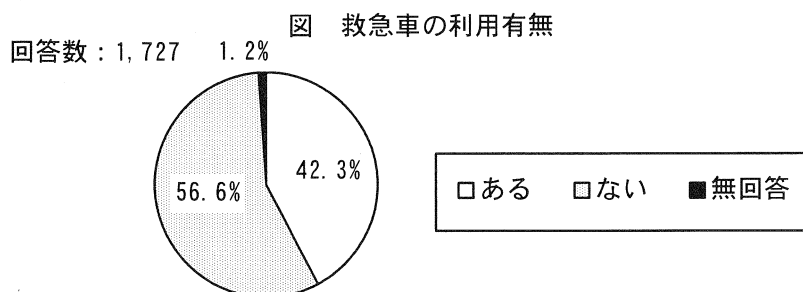


1-4 救急車について

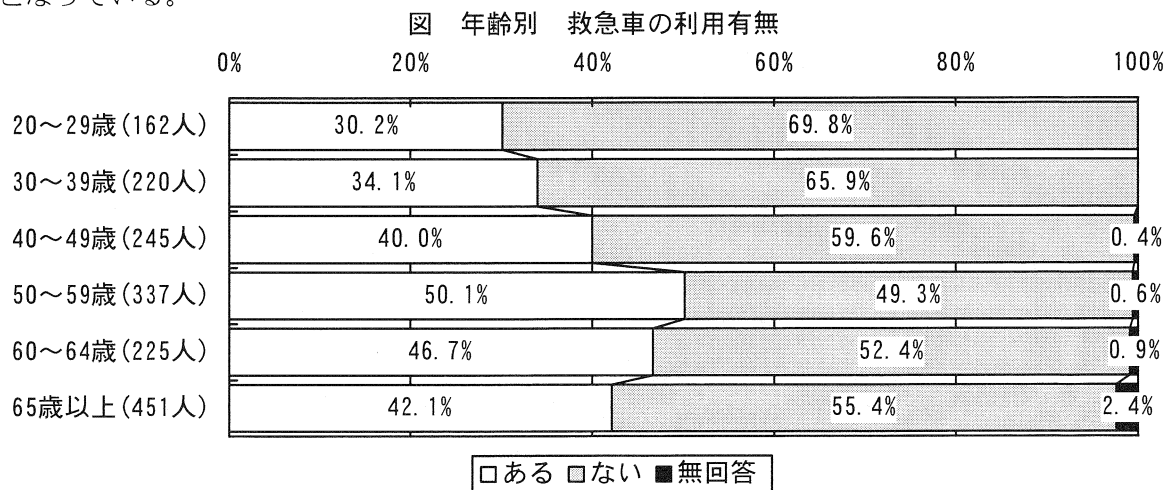
1-4-1 救急車の利用有無

問5 救急車を利用されたことがありますか？【あてはまるもの1つに○】

救急車の利用有無は、「ない」が56.6%で「ある」(42.3%)を14.3ポイント上回っている。



年齢別にみると、「ある」は「50～59歳」(50.1%)で最も高く、次いで「60～64歳」(46.7%)となっている。

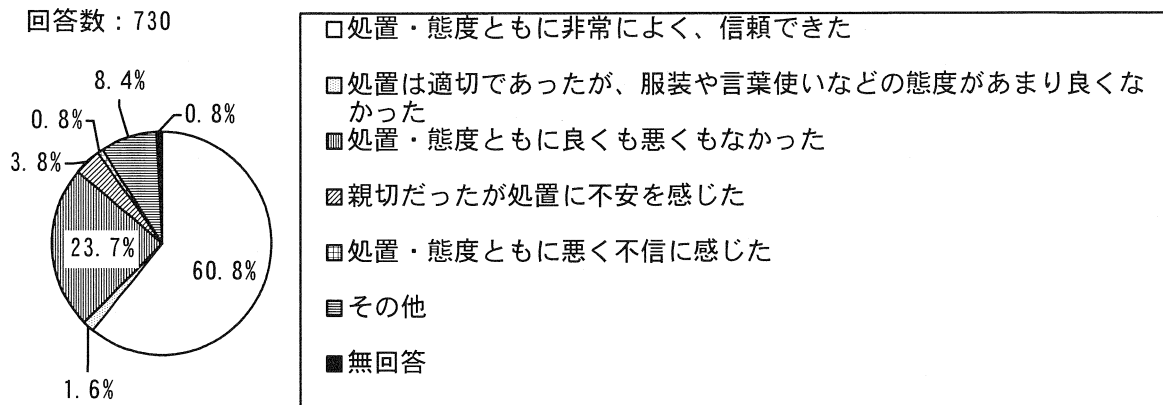


1-4-2 救急隊員の印象

問5-1 問5で「1. ある」と答えた方にお聞きします。救急車を利用されたときの救急隊員の印象はどうでしたか。【あてはまるもの1つに○】

救急車を利用したことが「ある」方の内、救急隊員の印象は、「処置・態度ともに非常によく、信頼できた」が60.8%で最も多く、次いで「処置・態度ともに良くも悪くもなかった」(23.7%)となっている。

図 救急隊員の印象

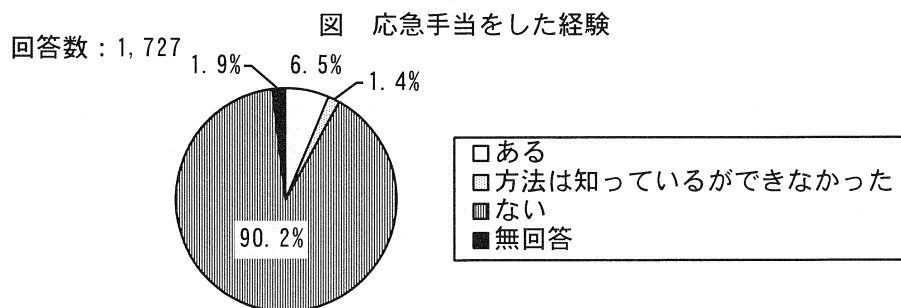


1-5 応急手当について

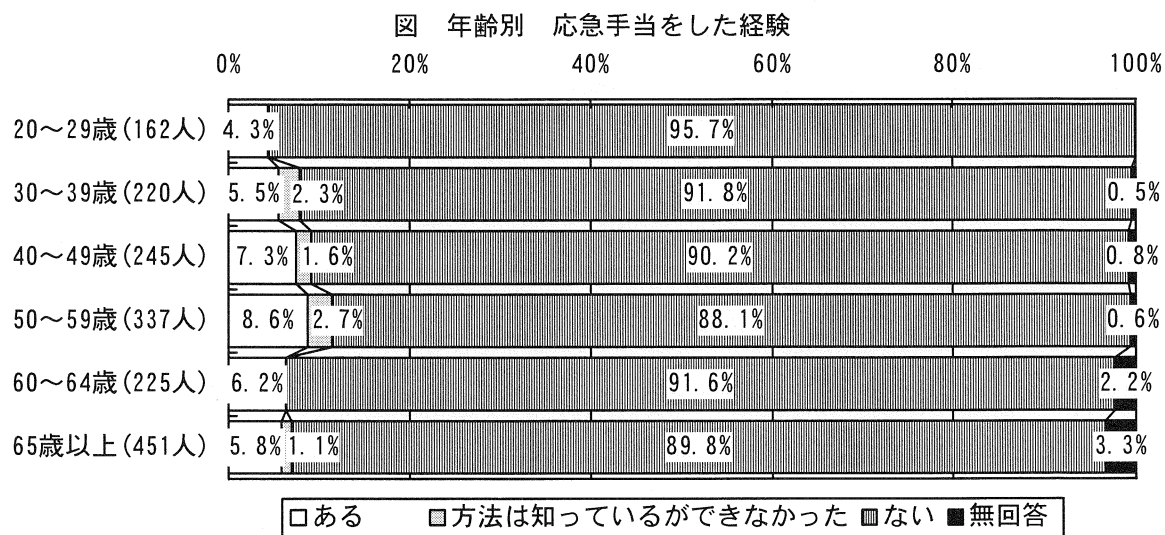
1-5-1 応急手当をした経験

問6 交通事故や急病などで、救急車が来るまでに応急手当をした経験がありますか。【あてはまるもの1つに○】

応急手当をした経験は、「ない」が90.2%で、「ある」は6.5%となっている。



年齢別にみると、「ない」が「20～29歳」(95.7%)で最も高く、次いで「30～39歳」(91.8%)となっている。また、「ある」及び「方法は知っていたができなかった」の合計は「50～59歳」(11.3%)で最も高くなっている。



1-5-2 応急手当の習得場所

問6-1 問6で「1. ある」または「2. 方法は知っているができなかった」と答えた方にお聞きします。応急手当の方法は、どこで習いましたか。【あてはまるものすべてに○と回数を記入】

応急手当をした経験が「ある」または「方法は知っているができなかった」方の内、応急手当の習得場所は「学校や職場での講習」が 54.7%で最も多く、次いで「その他」(24.8%)、「消防署が行う講習会」(21.2%) となっている。「その他」には、「医療に携わる職業のため」(8人)、「介護講習」(4人)、「赤十字の講習会」(4人)、「本やテレビ等」(4人) 等がある。

図 応急手当の習得場所 (複数回答)

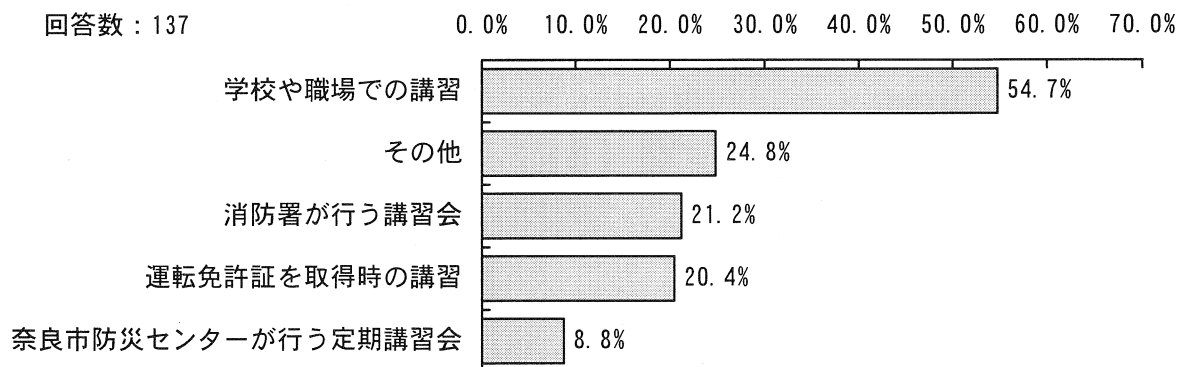


表 参加回数

	消防署が行う講習会への参加回数		奈良市防災センターが行う定期講習会への参加回数		学校や職場での講習への参加回数		その他への参加回数	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1回	14	48.3%	7	58.3%	26	34.7%	10	29.4%
2回	7	24.1%	2	16.7%	13	17.3%	2	5.9%
3回	2	6.9%	1	8.3%	14	18.7%	2	5.9%
4回	2	6.9%	1	8.3%	2	2.7%	0	0.0%
5回	1	3.4%	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%
6回	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	1	2.9%
10回	0	0.0%	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%
無回答	3	10.3%	1	8.3%	15	20.0%	19	55.9%
合計	29	100.0%	12	100.0%	75	100.0%	34	100.0%

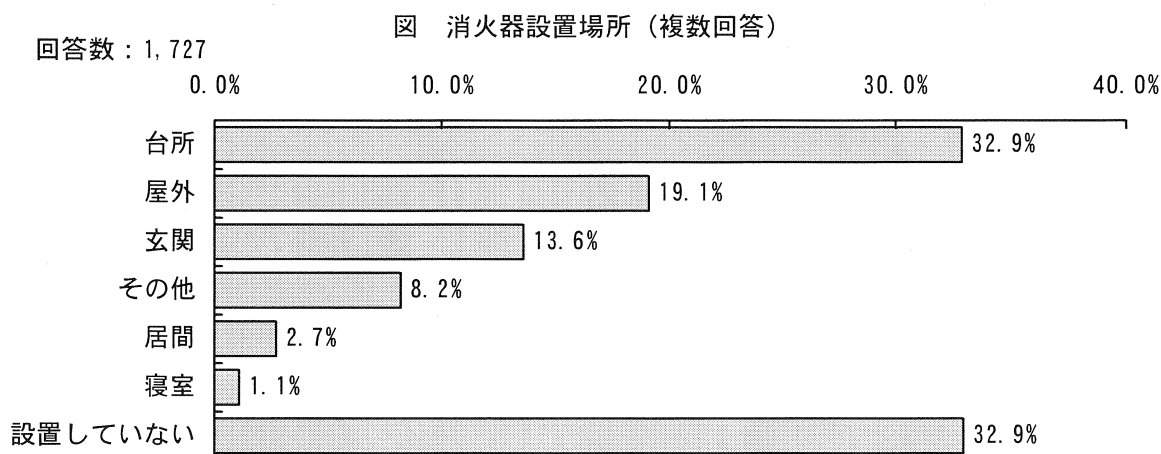
1-6 消火器について

1-6-1 消火器設置場所

問7 あなたのお宅では消火器をどこに設置していますか。【あてはまるものすべてに○】

消火器設置場所は、「設置していない」を除いて「台所」が32.9%で最も多く、次いで「屋外」(19.1%)、「玄関」(13.6%)となっている。

なお、「設置していない」は32.9%となっている。



家族構成別にみると、「設置していない」は「単身」(38.8%)で最も高く、次いで「二世帯世帯（本人と子ども）」(35.3%)となっている。設置場所としては「台所」が、「その他」を除く全ての家族構成で最も多く、なかでも「三世帯世帯」(44.3%)で最も高くなっている。

地域別にみると、「設置していない」は「北部地域」(40.0%)で最も高く、次いで「中部地域」(36.8%)となっている。

表 属性別 消火器設置場所（複数回答）

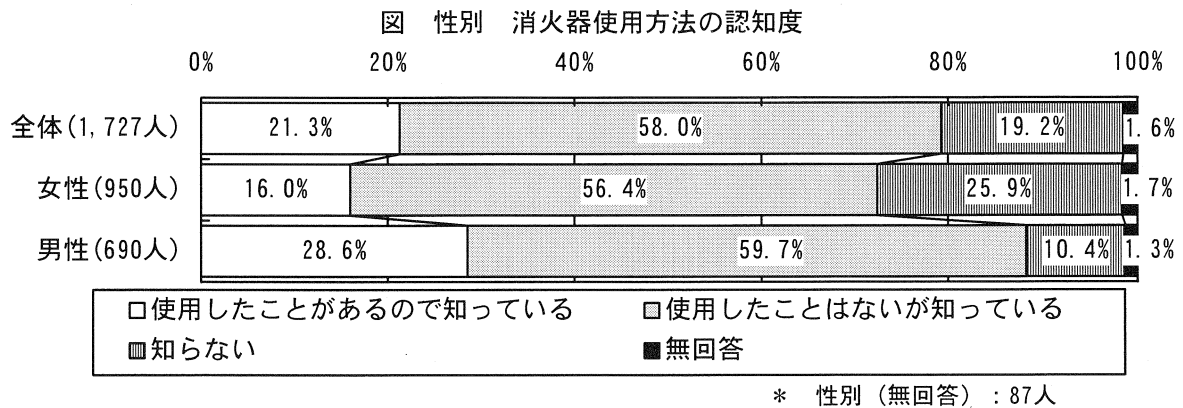
	有効回答数	台所	寝室	玄関	居間	屋外	その他	設置していない
全体	1,727	32.9%	1.1%	13.6%	2.7%	19.1%	8.2%	32.9%
家族構成								
単身	134	20.9%	1.5%	11.9%	0.0%	19.4%	8.2%	38.8%
夫婦のみ	430	32.6%	0.5%	13.0%	2.3%	20.0%	8.4%	34.4%
二世帯世帯（本人と子ども）	580	31.9%	0.7%	12.4%	3.3%	18.4%	7.2%	35.3%
二世帯世帯（本人と親）	249	34.1%	1.6%	15.7%	2.8%	19.7%	9.2%	27.7%
三世帯世帯	210	44.3%	1.4%	15.2%	2.9%	18.6%	9.0%	26.2%
その他	31	22.6%	6.5%	25.8%	9.7%	25.8%	3.2%	32.3%
地域								
西部地域	769	31.7%	0.9%	12.9%	2.5%	18.9%	7.8%	33.9%
北部地域	125	24.0%	0.8%	10.4%	3.2%	20.0%	9.6%	40.0%
中部地域	114	29.8%	0.9%	15.8%	2.6%	16.7%	7.9%	36.8%
中央市街地	414	31.6%	1.0%	15.7%	2.9%	21.7%	8.0%	33.8%
南部地域	122	41.0%	0.8%	14.8%	1.6%	20.5%	6.6%	27.0%
東部地域	26	80.8%	3.8%	11.5%	7.7%	19.2%	15.4%	3.8%
月ヶ瀬地域	9	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%
都祁地域	31	38.7%	3.2%	6.5%	3.2%	3.2%	9.7%	25.8%

1-6-2 消火器使用方法の認知度

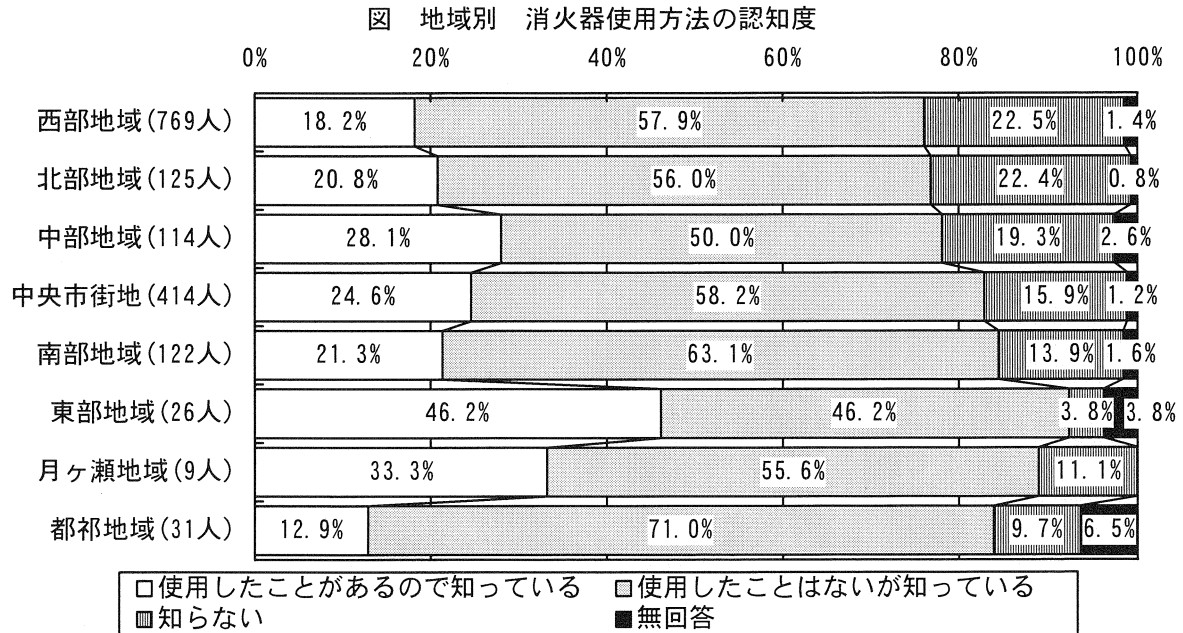
問8 消火器の使用操作方法を知っていますか。【あてはまるもの1つに○】

消火器使用方法の認知度は、「使用したことはないが知っている」が58.0%で最も多く、次いで「使用したことがあるので知っている」(21.3%)となっている。「知らない」は19.2%となっている。

性別でみると、「使用したことはないが知っている」に大きな差はないが、「使用したことがあるので知っている」が男性では28.6%に対し女性は16.0%と使用経験が低くなっている。また、「知らない」が男性で10.4%に対し女性は25.9%にのぼり、使用方法の認知度が低くなっている。



地域別にみると、「西部地域」と「北部地域」で「知らない」が20%を超え、他地域より高い比率となっている。

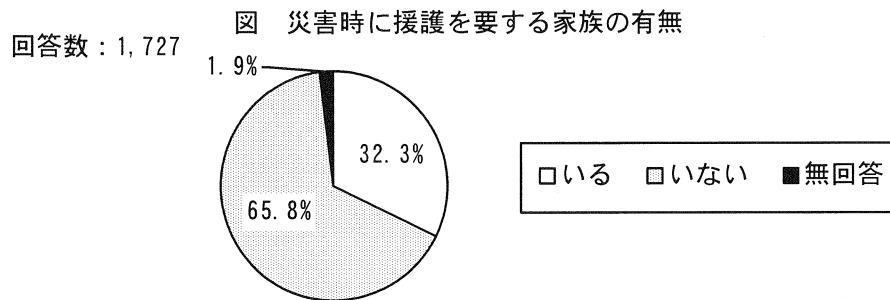


1-7 災害時に援護を要する家族について

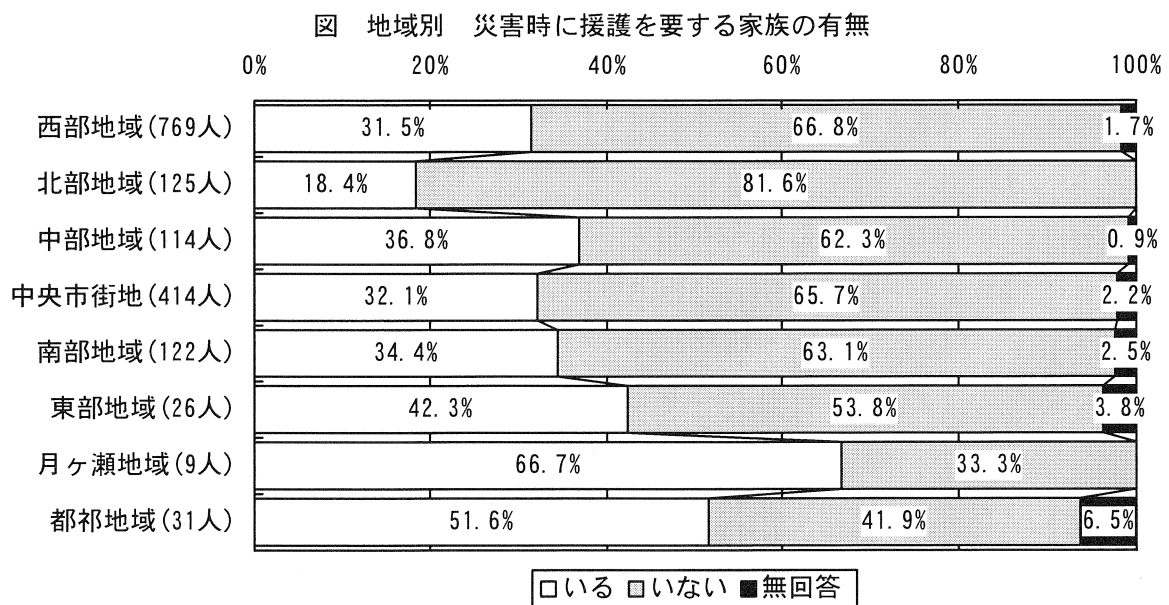
1-7-1 災害時に援護を要する家族の有無

問9 あなたのお宅には、災害時に高齢者（65歳以上）等の援護を要するご家族が同居されていますか。【あてはまるもの1つに○】

災害時に援護を要する家族の有無は、「いない」が65.8%で「いる」（32.3%）を33.5ポイント上回っている。



地域別にみると、「いる」は「月ヶ瀬地域」（66.7%）が最も高く、次いで「都祁地域」（51.6%）、「東部地域」（42.3%）となっている。

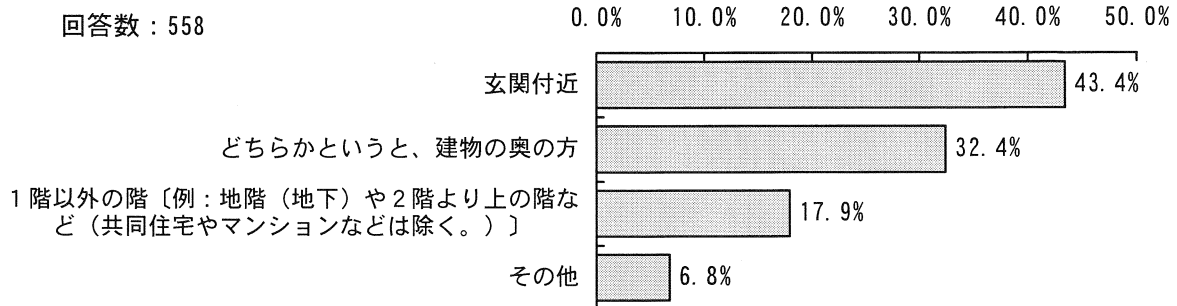


1-7-2 要援護者の寝室場所

問9-1 問9で「1. いる」と答えた方にお聞きします。その方の寝室は次のうちのどこにありますか。【あてはまるものすべてに○】

災害時に援護を要する家族が「いる」方内、要援護者の寝室場所は、「玄関付近」が43.4%で最も多く、次いで「どちらかという、建物の奥の方」(32.4%)となっている。

図 要援護者の寝室場所（複数回答）



家族構成別にみると、「玄関付近」は「二世帯世帯（本人と親）」(49.1%)が最も高く、次いで「二世帯世帯（本人と子ども）」(47.7%)となっており、「どちらかという、建物の奥の方」は「三世帯世帯」が38.5%で最も高くなっている。

地域別にみると、「玄関付近」は「北部地域」が52.2%で最も高く、次いで「中部地域」と「都祁地域」（各50.0%）で高くなっており、「どちらかという、建物の奥の方」は、「東部地域」が63.6%で最も高く、次いで「南部地域」(42.9%)となっている。

表 属性別 要援護者の寝室場所（複数回答）

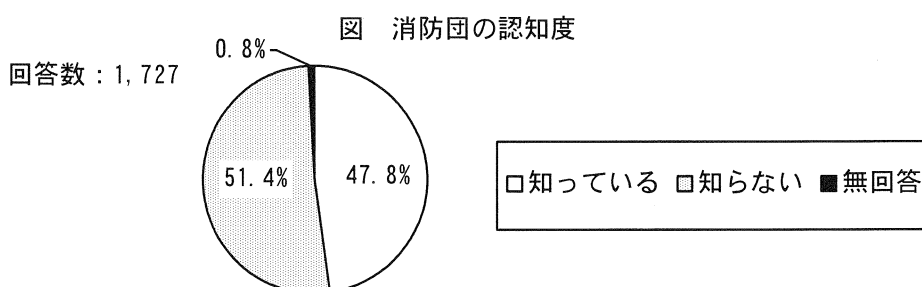
		有効 回答 数	玄 関 付 近	ど ち ら か と い う と、 建	く や 上 階 1 （ マ ン シ ヨ ン な ど は 除 く ） 」	階 （ 地 下 ） や 2 階 よ り 地	そ の 他
全体		558	43.4%	32.4%	17.9%	6.8%	
家 族 構 成	単身	30	36.7%	23.3%	13.3%	6.7%	
	夫婦のみ	115	41.7%	27.0%	30.4%	7.8%	
	二世帯世帯 （本人と子ども）	88	47.7%	29.5%	18.2%	5.7%	
	二世帯世帯 （本人と親）	116	49.1%	31.9%	17.2%	4.3%	
	三世帯世帯	161	44.1%	38.5%	11.2%	6.2%	
	その他	16	25.0%	37.5%	0.0%	31.3%	
	地 域	西部地域	242	42.6%	28.5%	19.4%	8.7%
北部地域		23	52.2%	26.1%	17.4%	8.7%	
中部地域		42	50.0%	28.6%	16.7%	4.8%	
中央市街地		133	46.6%	35.3%	15.8%	5.3%	
南部地域		42	35.7%	42.9%	16.7%	4.8%	
東部地域		11	9.1%	63.6%	9.1%	18.2%	
月ヶ瀬地域		6	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	
都祁地域		16	50.0%	31.3%	18.8%	0.0%	

1-8 消防団について

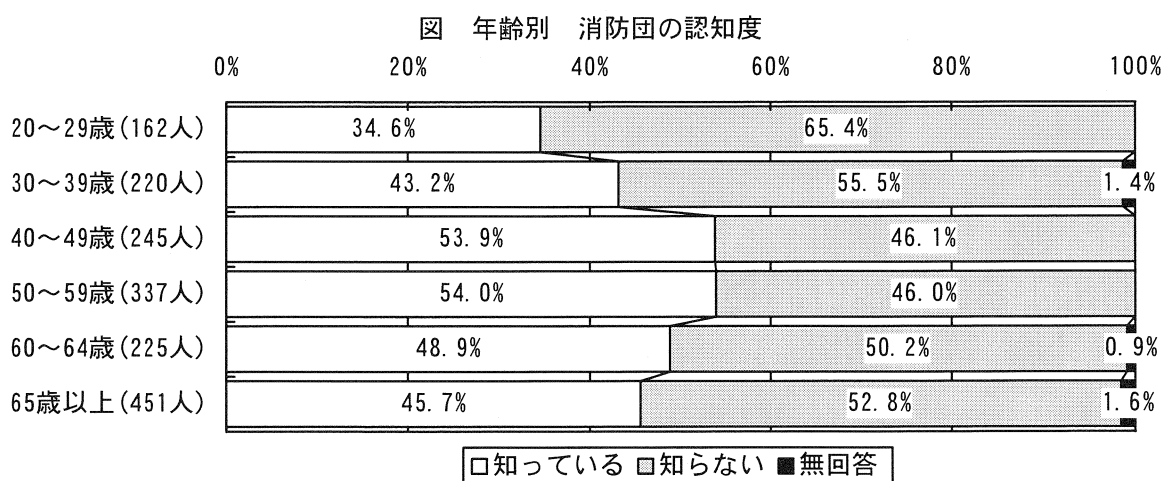
1-8-1 消防団の認知度

問 10 奈良市には、消防機関として常勤の職員による消防署のほか、住民有志による消防団がありますが、知っていますか。【あてはまるもの1つに○】

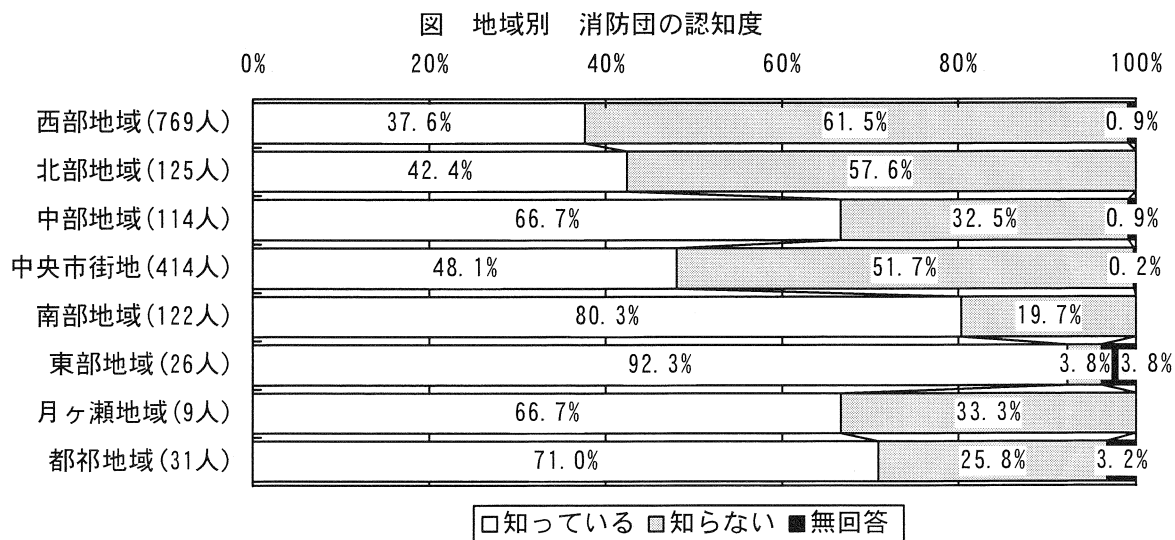
消防団の認知度は、「知らない」が51.4%で「知っている」(47.8%)を3.6ポイント上回っている。



年齢別にみると、「40～49歳」と「50～59歳」で「知っている」が過半数を超えているが、他の年齢ではいずれも「知らない」が「知っている」を上回っている。



地域別にみると、「知らない」は「西部地域」が61.5%で最も高く、次いで「北部地域」(57.6%)、「中央市街地」(51.7%)となっている。



1-8-2 消防団への入団意志

問 11 あなたは、もし、消防団に入ってほしいと言われたらどうしますか。【あてはまるもの1つに○】

消防団への入団意志は、「入らない」が76.5%で最も多く、「入る」(14.0%)を62.5ポイント上回っている。「すでに入っている」と「入っていたことはあるが入らない」はともに2%台で、ごく少数になっている。

年齢別にみると、「入らない」は「30～39歳」が81.4%で最も高く、次いで「65歳以上」(80.5%)となっている。「入る」は「20～29歳」が21.0%で最も高くなっている。「すでに入っている」は、「50～59歳」が4.5%で最も高くなっている。

回答数：
1,727

図 消防団への入団意志

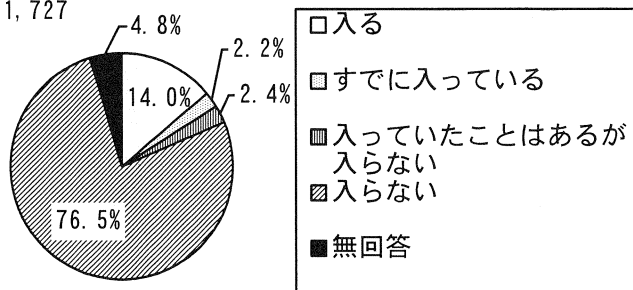
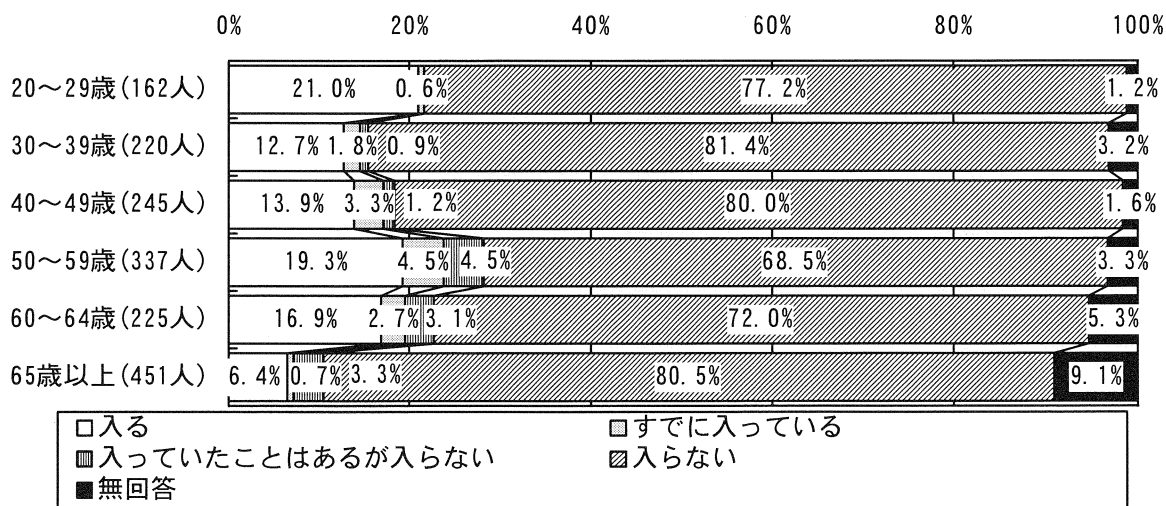
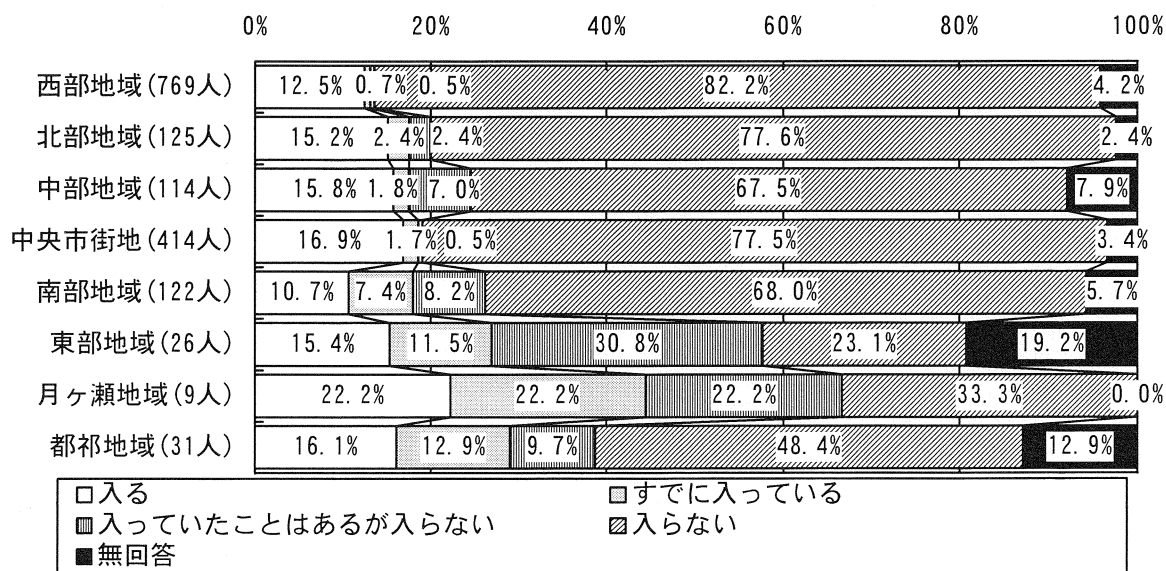


図 年齢別 消防団への入団意志



地域別にみると、「入らない」は「西部地域」が82.2%で最も高く、次いで「北部地域」(77.6%)となっている。

図 地域別 消防団への入団意志

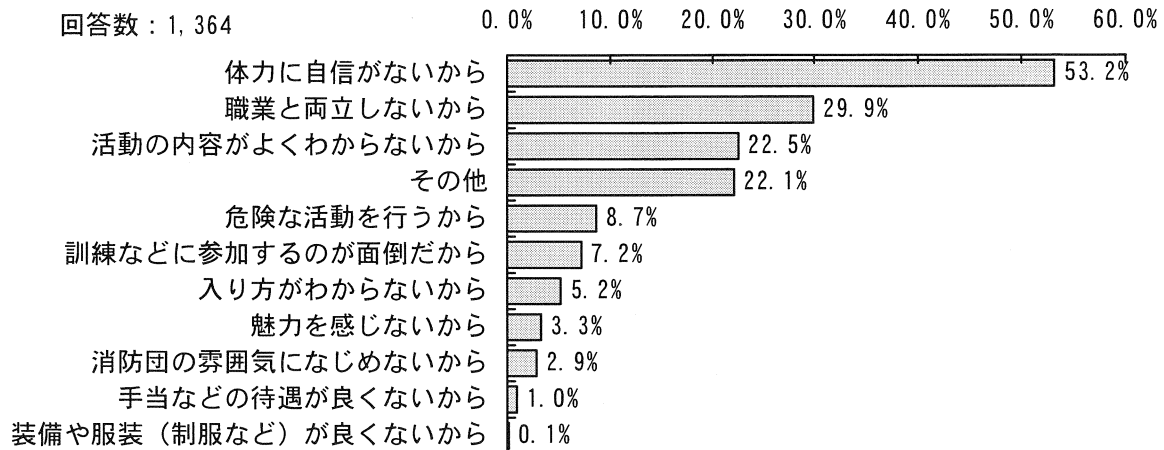


1-8-3 消防団に入らない理由

問 11-1 問 11 で「3. 入っていたことはあるが入らない」または「4. 入らない」と答えた方にお聞きします。あなたが消防団に入らない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

消防団に「入っていたことはあるが入らない」または「入らない」と答えた方の内、消防団に入らない理由は「体力に自信がないから」が53.2%で最も多く、次いで「職業と両立しないから」(29.9%)、「活動の内容がよくわからないから」(22.5%)となっている。

図 消防団に入らない理由（複数回答）



年齢別にみると、「体力に自信がないから」は「60～64 歳」(71.6%) が最も高く、「職業と両立しないから」は「40～49 歳」が50.3%で最も高く、次いで「30～39 歳」(49.7%) となっている。「活動の内容がよくわからないから」は、「20～29 歳」(42.4%) で最も高くなっている。

地域別にみると、「体力に自信がないから」と「職業と両立しないから」はともに「月ヶ瀬地域」(60.0%、40.0%) で最も高く、「活動の内容がよくわからないから」は「北部地域」(30.0%) で最も高くなっている。

表 属性別 消防団に入らない理由（複数回答）

	有効回答数	活動の内容がよくわからないから	危険な活動を行うから	体力に自信がないから	職業と両立しないから	訓練などに参加するのが面倒だから	消防団の雰囲気になじめないから	入り方がわからないから	手当などの待遇が良くないから	装備や服装（制服など）が良くないから	魅力を感じないから	その他
全体	1,364	22.5%	8.7%	53.2%	29.9%	7.2%	2.9%	5.2%	1.0%	0.1%	3.3%	22.1%
年齢												
20～29歳	125	42.4%	12.8%	38.4%	47.2%	15.2%	1.6%	17.6%	2.4%	0.8%	9.6%	5.6%
30～39歳	181	31.5%	11.6%	38.7%	49.7%	8.8%	5.0%	6.1%	2.2%	0.0%	6.6%	17.7%
40～49歳	199	28.6%	12.1%	42.7%	50.3%	9.5%	4.0%	8.0%	1.0%	0.0%	5.0%	14.6%
50～59歳	246	26.0%	8.5%	59.3%	36.2%	9.8%	3.7%	3.7%	1.2%	0.0%	1.6%	14.2%
60～64歳	169	18.3%	5.9%	71.6%	17.2%	3.6%	3.0%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%	16.0%
65歳以上	378	8.5%	5.6%	57.7%	4.5%	1.3%	1.3%	1.6%	0.3%	0.3%	0.8%	42.3%
地域												
西部地域	636	24.1%	8.0%	55.3%	28.5%	6.8%	1.9%	5.7%	1.3%	0.3%	3.0%	22.8%
北部地域	100	30.0%	12.0%	58.0%	29.0%	6.0%	5.0%	9.0%	2.0%	0.0%	4.0%	12.0%
中部地域	85	12.9%	9.4%	56.5%	28.2%	3.5%	5.9%	2.4%	1.2%	0.0%	3.5%	23.5%
中央市街地	323	22.3%	9.9%	45.8%	31.9%	8.0%	3.4%	5.0%	0.6%	0.0%	5.0%	24.5%
南部地域	93	19.4%	7.5%	54.8%	33.3%	6.5%	2.2%	3.2%	0.0%	0.0%	3.2%	20.4%
東部地域	14	0.0%	0.0%	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
月ヶ瀬地域	5	20.0%	0.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
都祁地域	18	27.8%	0.0%	44.4%	33.3%	5.6%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%

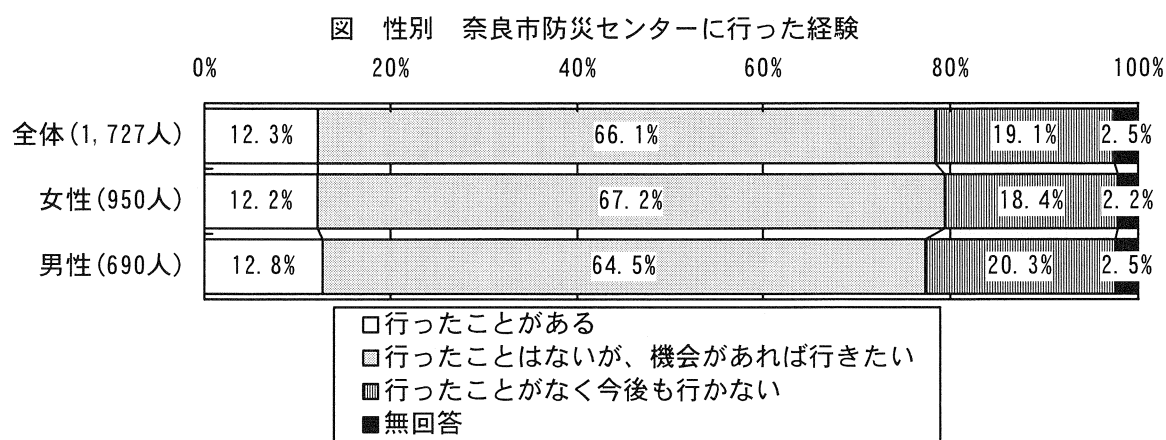
1-9 奈良市防災センターについて

1-9-1 奈良市防災センターに行った経験

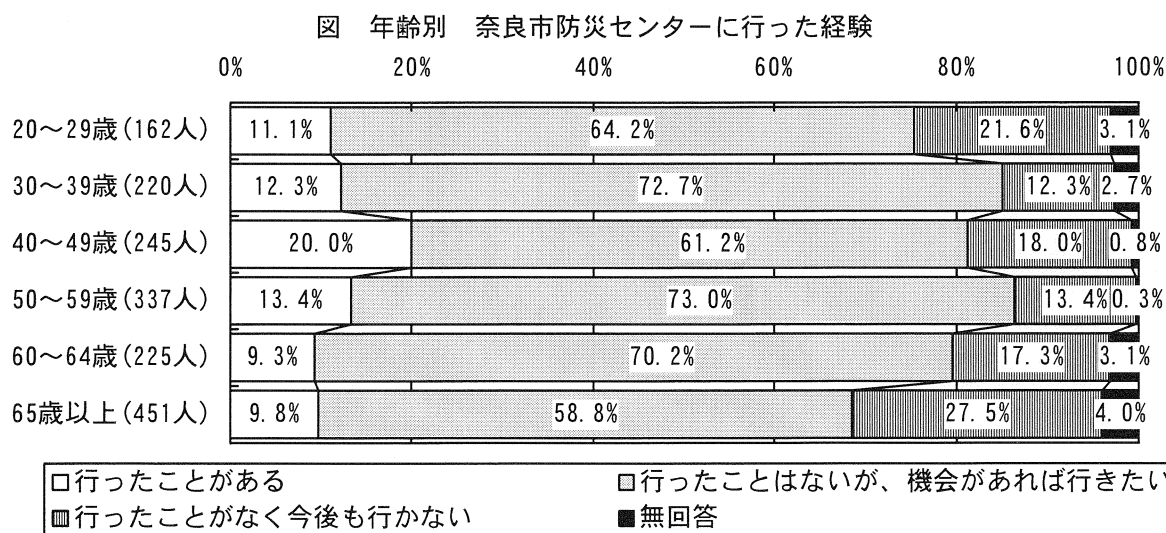
問 12 奈良市防災センターは、防災に関する正しい知識と確かな技術を体験しながら学習していただけるよう、地震や台風、火災などの体験施設の設置や様々な事業を実施しています。防災教育の充実を図るためにお聞きします。あなたは、奈良市防災センターに行ったことがありますか。【あてはまるもの1つに○】

奈良市防災センターに行った経験は、「行ったことはないが、機会があれば行きたい」が66.1%で最も多く、次いで「行ったことがなく、今後行かない」(19.1%)、「行ったことがある」(12.3%)となっている。

性別でみると、「行ったことはないが、機会があれば行きたい」は「女性」が67.2%で「男性」(64.5%)を2.7ポイント上回っている。



年齢別にみると、「行ったことはないが、機会があれば行きたい」は「50～59歳」が73.0%で最も高く、次いで「30～39歳」(72.7%)となっている。



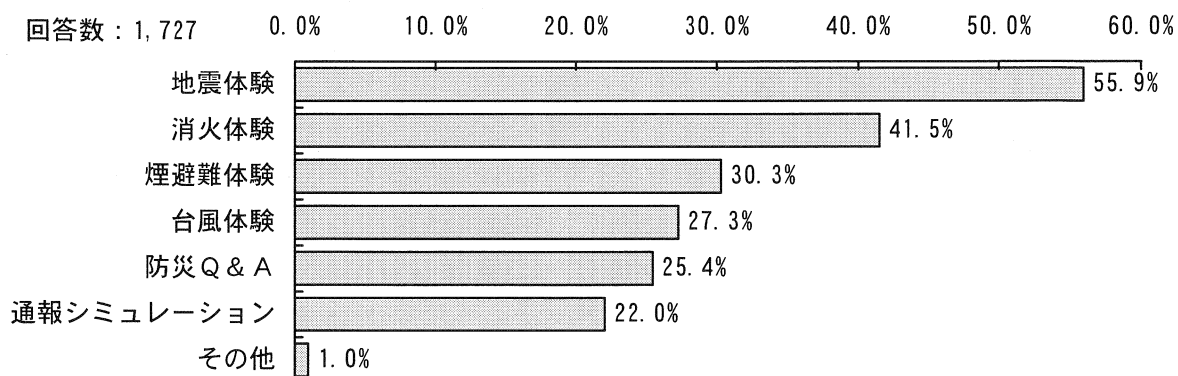
1-9-2 奈良市防災センターで興味のある体験施設・事業（行事）

問 13 奈良市防災センターの体験施設や事業（行事）のうち、あなたの興味がある項目はそれぞれどれですか。【あてはまるものすべてに○】

（１） 興味のある体験施設

奈良市防災センターで興味のある体験施設については、「地震体験」が 55.9%で最も多く、次いで「消火体験」（41.5%）、「煙避難体験」（30.3%）、「台風体験」（27.3%）となっている。

図 興味のある体験施設（複数回答）



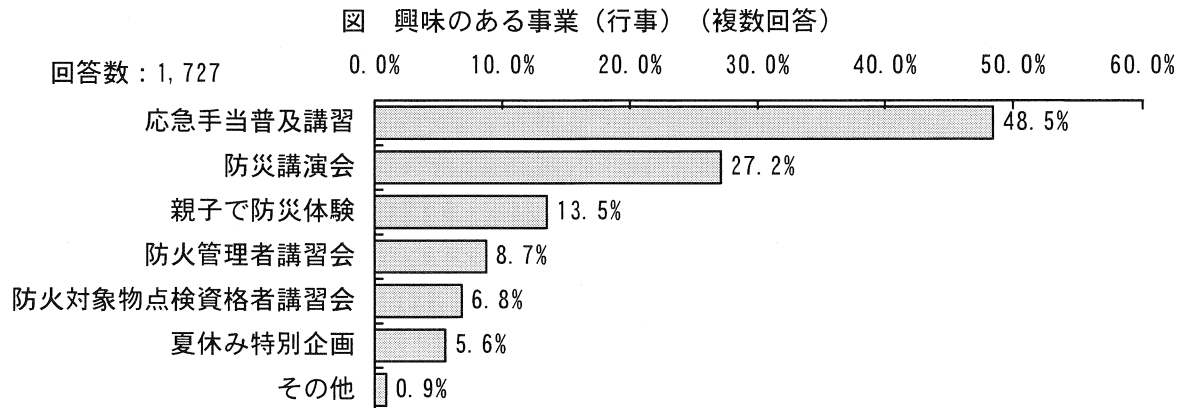
年齢別に回答の多い順をみると、いずれの世代でも「地震体験」が最も多く、次いで「消火体験」であるが、第3位は、「20～29歳」と「30～39歳」で「台風体験」、「40～49歳」と「50～59歳」で「煙避難体験」となり、「60～64歳」では「煙避難体験」と「防災Q & A」が並び、「65歳以上」になると「防災Q & A」となっている。

表 年齢別 興味のある体験施設（複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	地震体験 79.6%	消火体験 50.6%	台風体験 50.0%	煙避難体験 35.8%	通報シミュレーション 24.1%
30～39歳	220	地震体験 69.1%	消火体験 53.2%	台風体験 43.6%	煙避難体験 39.1%	防災Q & A 25.0%
40～49歳	245	地震体験 63.3%	消火体験 50.2%	煙避難体験 42.0%	台風体験 34.7%	防災Q & A 26.1%
50～59歳	337	地震体験 52.2%	消火体験 44.8%	煙避難体験 35.6%	防災Q & A 29.1%	通報シミュレーション 26.4%
60～64歳	225	地震体験 52.9%	消火体験 36.4%	防災Q & A 28.4%	煙避難体験 28.4%	通報シミュレーション 25.8%
65歳以上	451	地震体験 42.1%	消火体験 29.5%	防災Q & A 23.3%	台風体験 18.6%	煙避難体験 15.5%

(2) 興味のある事業（行事）

奈良市防災センターで興味のある事業（行事）は、「応急手当普及講習」が48.5%で最も多く、次いで「防災講演会」（27.2%）、「親子で防災体験」（13.5%）となっている。



年齢別に回答の多い順をみると、いずれの世代でも「応急手当普及講習」が最も多いが、第2位は「30～39歳」と「40～49歳」では「親子で防災体験」、他の世代では「防災講演会」となっている。第3位は、「20～29歳」で「防火対象物点検資格者講習会」、「30～39歳」で「夏休み特別企画」、「40～49歳」で「防火管理者講習会」となっており、50歳以上はいずれも「防火管理者講習会」となっている。

表 年齢別 興味のある事業（行事）（複数回答）

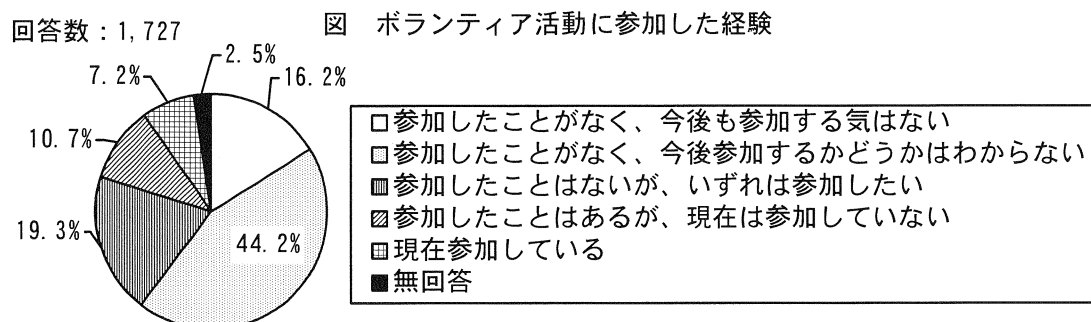
	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	応急手当普及講習 51.9%	防災講演会 13.0%	防火対象物点検資格者講習会 12.3%	親子で防災体験 10.5%	防火管理者講習会 10.5%
30～39歳	220	応急手当普及講習 57.7%	親子で防災体験 38.2%	夏休み特別企画 18.2%	防災講演会 13.6%	防火管理者講習会 8.6%
40～49歳	245	応急手当普及講習 54.3%	親子で防災体験 24.9%	防災講演会 22.0%	防火管理者講習会 8.6%	夏休み特別企画 8.2%
50～59歳	337	応急手当普及講習 58.5%	防災講演会 33.5%	防火管理者講習会 11.3%	防火対象物点検資格者講習会 10.1%	親子で防災体験 7.7%
60～64歳	225	応急手当普及講習 45.8%	防災講演会 39.6%	防火管理者講習会 10.7%	防火対象物点検資格者講習会 6.2%	親子で防災体験 4.4%
65歳以上	451	応急手当普及講習 33.3%	防災講演会 32.8%	防火管理者講習会 6.7%	親子で防災体験 4.9%	防火対象物点検資格者講習会 2.2%

2. ボランティア活動について

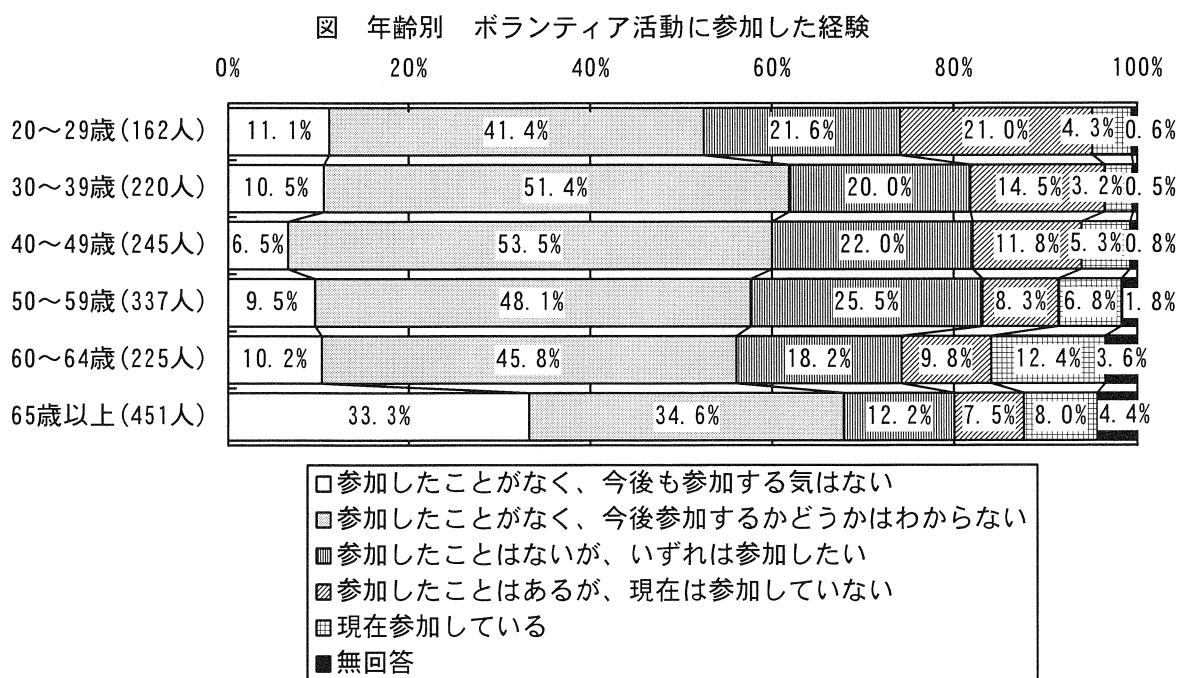
2-1 ボランティア活動に参加した経験

問 14 ボランティア活動についてお聞きします。あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。【あてはまるもの1つに○】

ボランティア活動に参加した経験は、「参加したことがなく、今後参加するかどうかはわからない」が44.2%で最も多く、次いで「参加したことはないが、いずれは参加したい」(19.3%)、「参加したことがなく、今後も参加する気はない」(16.2%)となっている。



年齢別にみると、「参加したことがなく、今後参加するかどうかはわからない」は「40～49歳」が53.5%で最も高く、「参加したことはないが、いずれは参加したい」は「50～59歳」が25.5%で最も高くなっている。「現在参加している」は、「60～64歳」が12.4%で最も高くなっている。

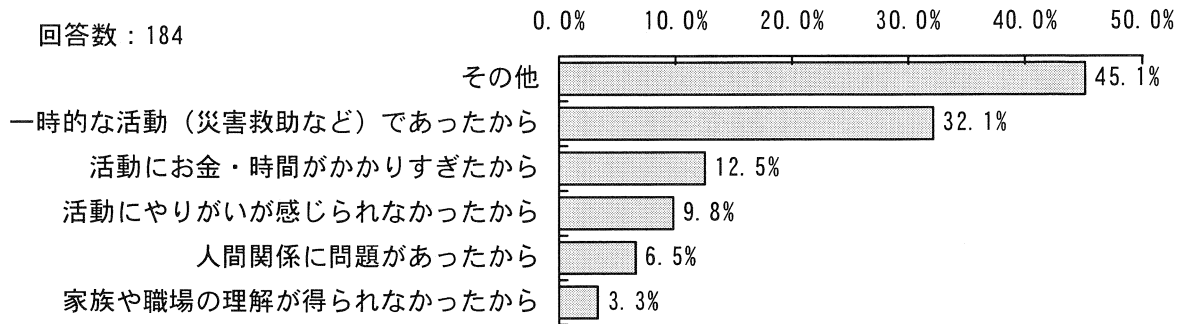


2-2 現在参加していない理由

問 14-1 問 14で「4. 参加したことはあるが、現在は参加していない」と答えた方にお聞
きします。現在参加していない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

ボランティア活動に「参加したことはあるが、現在は参加していない」方の内、現在参加して
いない理由は「その他」が45.1%で最も多く、次いで「一時的な活動（災害救助など）であった
から」（32.1%）、「活動にお金と時間がかかりすぎたから」（12.5%）となっている。「その他」に
は、「高齢だから」（17人）、「仕事と両立しないから」（15人）、「病気等身体上の問題があるた
め」（13人）等がある。

図 現在参加していない理由（複数回答）



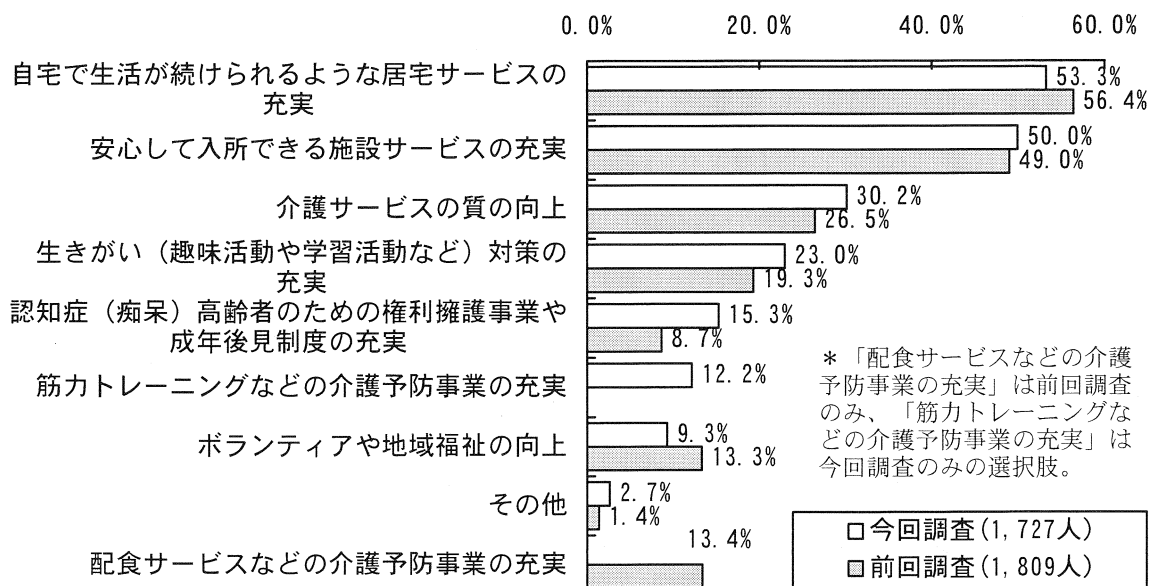
3. 介護保険について

3-1 重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策

問 15 次期計画に盛り込むべき本市の介護保険や老人保健福祉施策について何が重要と思
いますか。【あてはまるもの2つに○】

重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策は、「自宅で生活が続けられるような居宅サービ
スの充実」が53.3%で最も多く、次いで「安心して入所できる施設サービスの充実」（50.0%）、
「介護サービスの質の向上」（30.2%）となっている。

図 重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策（2つ以内で複数回答）



平成14年度の「奈良市政についての世論調査」^①と比較すると、回答の多い順に上位4位までは「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」と「安心して入所できる施設サービスの充実」と「介護サービスの質の向上」と「生きがい対策の充実」で同じであるが、上位5位は、前回調査では「配食サービスなどの介護予防事業の充実」で、今回の調査では介護予防面で「筋力トレーニングなどの介護予防事業の充実」が選択肢にあったものの、「認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実」となっている。さらに、今回調査の上位4位までをみると「安心して入所できる施設サービスの充実」（1.0ポイント増）と「介護サービスの質の向上」（3.7ポイント増）と「生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実」（3.7ポイント増）で前回調査よりもポイントが増加している。

年齢別に回答の多い順にみると、「20～29歳」と「40～49歳」では「安心して入所できる施設サービスの充実」が最も多く、次いで「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」となっているが、他の世代では逆転している。「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」は「65歳以上」が59.2%で最も高くなっており、「安心して入所できる施設サービスの充実」は「40～49歳」が57.6%で最も高くなってきている。

表 年齢別 重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策（2つ以内で複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	安心して入所できる施設サービスの充実 43.8%	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 42.0%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 38.3%	介護サービスの質の向上 29.6%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 16.7%
30～39歳	220	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 47.7%	安心して入所できる施設サービスの充実 45.9%	介護サービスの質の向上 35.0%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 25.9%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 15.0%
40～49歳	245	安心して入所できる施設サービスの充実 57.6%	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 53.1%	介護サービスの質の向上 31.8%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 19.6%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 17.6%
50～59歳	337	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 55.5%	安心して入所できる施設サービスの充実 54.9%	介護サービスの質の向上 30.0%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 20.2%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 15.1%
60～64歳	225	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 52.4%	安心して入所できる施設サービスの充実 50.7%	介護サービスの質の向上 27.1%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 27.1%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 15.6%
65歳以上	451	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 59.2%	安心して入所できる施設サービスの充実 46.8%	介護サービスの質の向上 28.8%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 17.3%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 14.0%

① 以降は「前回調査」と表記する。

地域別に回答の多い順にみると、「南部地域」を除く全ての地域で「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」が最も多く、次いで「安心して入所できる施設サービスの充実」となっているが、「南部地域」はその逆となっている。また、介護予防で国が注目している「筋力トレーニングなどの介護予防事業の充実」は、「都祁地域」が16.1%で最も高く、次いで「北部地域」(13.6%)、「西部地域」(13.0%)となっている。

表 地域別 重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策（2つ以内で複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
西部地域	769	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 53.2%	安心して入所できる施設サービスの充実 52.1%	介護サービスの質の向上 29.1%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 19.8%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 16.8%
北部地域	125	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 52.8%	安心して入所できる施設サービスの充実 48.8%	介護サービスの質の向上 31.2%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 25.6%	筋力トレーニングなどの介護予防事業の充実 13.6%
中部地域	114	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 61.4%	安心して入所できる施設サービスの充実 46.5%	介護サービスの質の向上 28.9%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 24.6%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 13.2%
中央市街地	414	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 54.6%	安心して入所できる施設サービスの充実 46.9%	介護サービスの質の向上 33.1%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 26.6%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 14.3%
南部地域	122	安心して入所できる施設サービスの充実 53.3%	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 48.4%	介護サービスの質の向上 28.7%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 19.7%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 13.9%
東部地域	26	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 50.0%	安心して入所できる施設サービスの充実 46.2%	介護サービスの質の向上 30.8%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 30.8%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 15.4%
月ヶ瀬地域	9	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 55.6%	安心して入所できる施設サービスの充実 44.4%	介護サービスの質の向上 44.4%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 44.4%	認知症（痴呆）高齢者のための権利擁護事業や成年後見制度の充実 11.1%
都祁地域	31	自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実 58.1%	安心して入所できる施設サービスの充実 51.6%	生きがい（趣味活動や学習活動など）対策の充実 29.0%	ボランティアや地域福祉の向上 19.4%	介護サービスの質の向上 16.1%

表 地域別 重要と思う介護保険事業や老人保健福祉施策（2つ以内で複数回答）

地域	合計	のる自 充よ宅 実うで な生 居活 宅が サ続 ーけ ビ ラ スれ	設安 サ心 ーし ビて ス入 の所 充で 実可 る施	上介 護サ ービ スの 質の 向	社ボ のラン 向上 ティ アや 地 域 福	の筋 介力 護ト 予レ 防ニ 事業 のグ 充実 など	充学 実習 生 活 が い な （趣 味 対 活 策 動 の や	やの認 成た知 年め症 後の（痴 見権呆） 制利擁 度擁高 の充護 実事業 者	そ の 他
全体	1,727	53.3%	50.0%	30.2%	9.3%	12.2%	23.0%	15.3%	2.7%
西部地域	769	53.2%	52.1%	29.1%	9.9%	13.0%	19.8%	16.8%	3.4%
北部地域	125	52.8%	48.8%	31.2%	10.4%	13.6%	25.6%	13.6%	3.2%
中部地域	114	61.4%	46.5%	28.9%	5.3%	11.4%	24.6%	13.2%	2.6%
中央市街地	414	54.6%	46.9%	33.1%	8.9%	9.9%	26.6%	14.3%	1.2%
南部地域	122	48.4%	53.3%	28.7%	9.0%	11.5%	19.7%	13.9%	4.1%
東部地域	26	50.0%	46.2%	30.8%	7.7%	7.7%	30.8%	15.4%	0.0%
月ヶ瀬地域	9	55.6%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%	44.4%	11.1%	0.0%
都祁地域	31	58.1%	51.6%	16.1%	19.4%	16.1%	29.0%	12.9%	3.2%

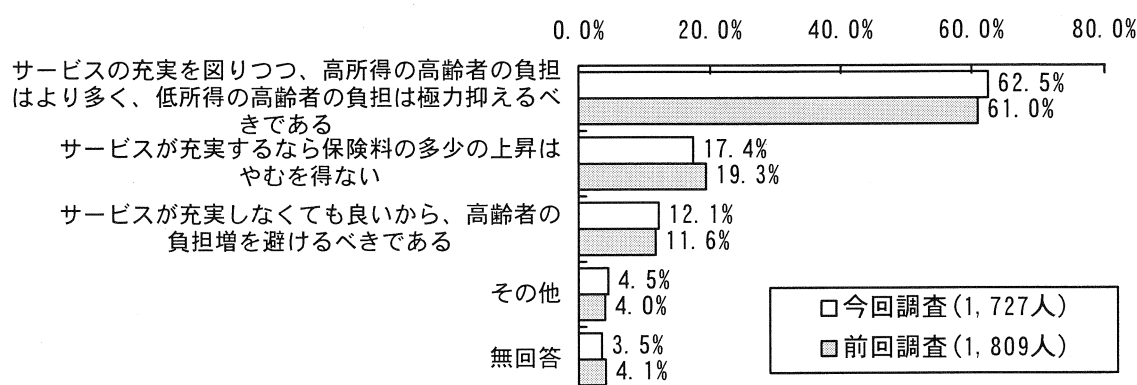
3-2 65歳以上の介護保険料とサービスに対する考え

問 16 次期計画期間中の 65 歳以上の方の介護保険料について、どれが妥当だと思いますか。
【あてはまるもの 1 つに○】

65 歳以上の介護保険料とサービスに対する考えは、「サービスの充実を図りつつ、高所得の高齢者の負担はより多く、低所得の高齢者の負担は極力抑えるべきである」が 62.5%で最も多く、「サービスが充実するなら保険料の多少の上昇はやむを得ない」(17.4%)、「サービスが充実しなくてもよいから、高齢者の負担増を避けるべきである」(12.1%)を大きく上回っている。

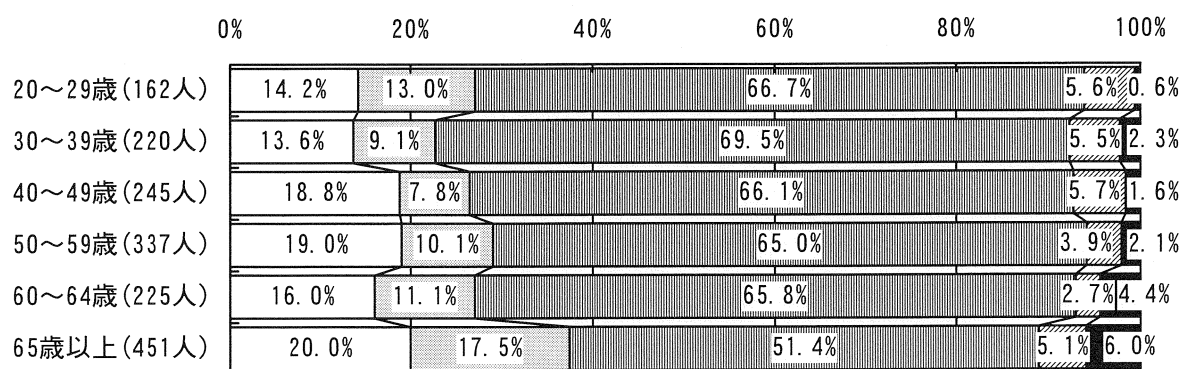
前回調査と今回調査の傾向は同様であるが、「サービスの充実を図りつつ、高所得の高齢者の負担はより多く、低所得の高齢者の負担は極力抑えるべきである」は前回調査(61.0%)を 1.5 ポイント上回り、「サービスが充実するなら保険料の多少の上昇はやむを得ない」は前回調査(19.3%)を 1.9 ポイント下回っている。

図 65歳以上の介護保険料とサービスに対する考え



年齢別にみると、「サービスの充実を図りつつ、高所得の高齢者の負担はより多く、低所得の高齢者の負担は極力抑えるべきである」は「30～39 歳」が 69.5%で最も高く、次いで「20～29 歳」(66.7%)となっており、「サービスが充実するなら保険料の多少の上昇はやむを得ない」は「65 歳以上」が 20.0%で最も高く、次いで「50～59 歳」(19.0%)、「40～49 歳」(18.8%)となっている。

図 年齢別 65歳以上の介護保険料とサービスに対する考え



- ☐ サービスが充実するなら保険料の多少の上昇はやむを得ない
- ☐ サービスが充実しなくてもよいから、高齢者の負担増を避けるべきである
- ☒ サービスの充実を図りつつ、高所得の高齢者の負担はより多く、低所得の高齢者の負担は極力抑えるべきである
- ☒ その他
- ☒ 無回答

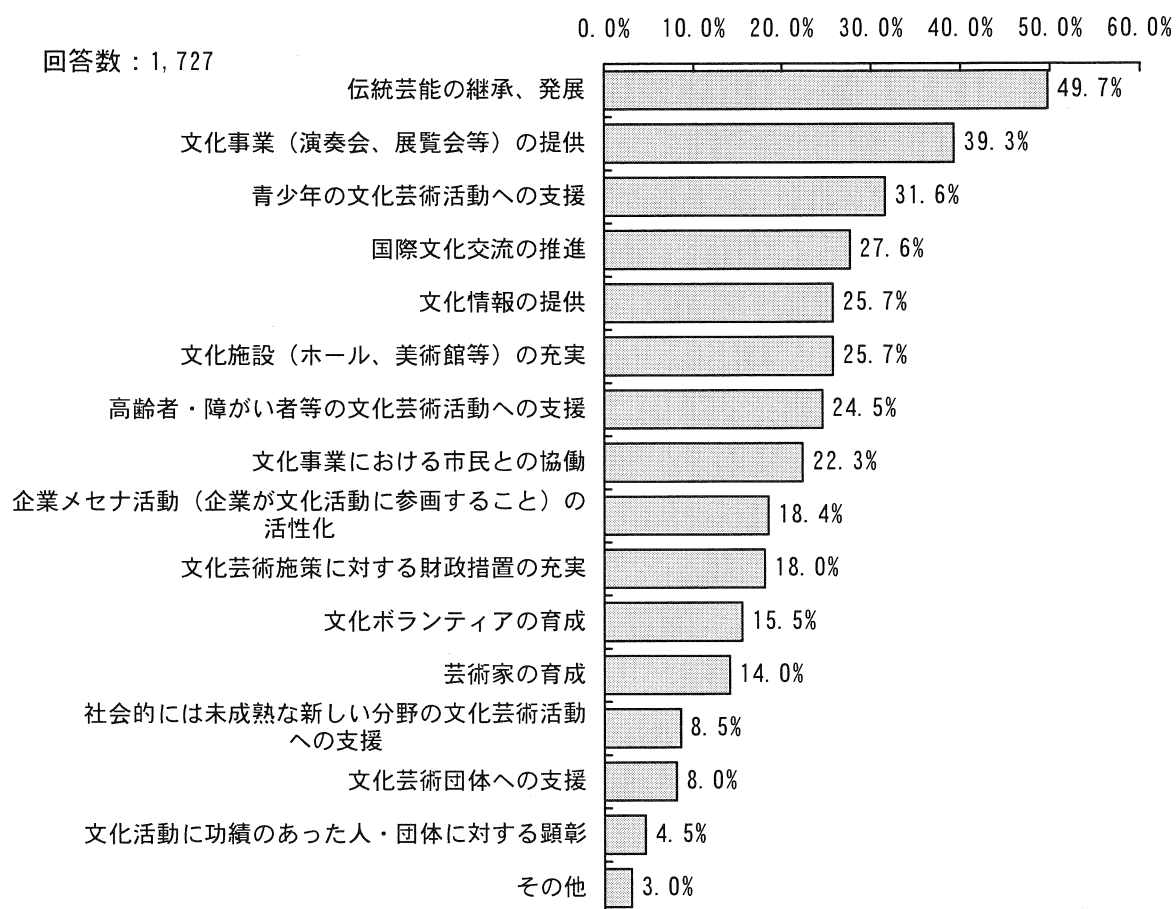
4. 文化振興について

4-1 文化振興のため充実させるべき施策

問 17 あなたは奈良市の文化振興のためには、どのような施策を充実させるべきだと思いますか。【あてはまるもの5つ以内で○】

文化振興のため充実させるべき施策は、「伝統芸能の継承、発展」が 49.7%と最も多く、次いで「文化事業（演奏会、展覧会等）の提供」（39.3%）、「青少年の文化芸術活動への支援」（31.6%）となっている。

図 文化振興のため充実させるべき施策（5つ以内で複数回答）



年齢別に回答の多い順をみると、いずれの世代でも「伝統芸能の継承、発展」が最も多く、なかでも「30～39歳」（57.7%）が最も高い。第2位は「20～29歳」でのみ「国際文化交流の推進」（37.7%）となっており、他の世代では「文化事業（演奏会、展覧会等）の提供」となっている。また、第3位は「20～29歳」で「文化事業（演奏会、展覧会等）の提供」、30～59歳までは「青少年の文化芸術活動への支援」、「60～64歳」では「文化情報の提供」、「65歳以上」は「高齢者・障がい者等の文化芸術活動の支援」となっている。

地域別に回答の多い順をみると、「都祁地域」を除く全ての地域で「伝統芸能の継承、発展」が最も多く、「都祁地域」では「青少年の文化芸術活動への支援」（45.2%）が最も多くなっている。「伝統芸能の継承、発展」では、「北部地域」が54.4%で最も高く、次いで「南部地域」（51.6%）となっている。

表 年齢別 文化振興のため充実させるべき施策（５つ以内で複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
20～29歳	162	伝統芸能の継承、発展	国際文化交流の推進	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	文化施設（ホール、美術館等）の充実
		45.7%	37.7%	34.6%	32.7%	27.2%
30～39歳	220	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	国際文化交流の推進	文化情報の提供
		57.7%	36.8%	33.6%	30.9%	25.5%
40～49歳	245	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	国際文化交流の推進	文化施設（ホール、美術館等）の充実
		56.7%	40.4%	36.7%	33.5%	27.8%
50～59歳	337	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	文化情報の提供	文化事業における市民との協働
		51.0%	44.8%	34.4%	30.6%	28.5%
60～64歳	225	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	文化情報の提供	青少年の文化芸術活動への支援	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援
		48.9%	43.1%	32.0%	29.3%	28.4%
65歳以上	451	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援	文化施設（ホール、美術館等）の充実	青少年の文化芸術活動への支援
		42.8%	36.1%	31.0%	27.1%	25.3%

表 地域別 文化振興のため充実させるべき施策（５つ以内で複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
西部地域	769	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	国際文化交流の推進	文化情報の提供
		50.3%	41.4%	31.2%	30.3%	27.2%
北部地域	125	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	国際文化交流の推進	青少年の文化芸術活動への支援	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援
		54.4%	44.8%	32.8%	31.2%	25.6%
中部地域	114	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	文化情報の提供	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援
		46.5%	36.8%	36.8%	27.2%	24.6%
中央市街地	414	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	青少年の文化芸術活動への支援	文化施設（ホール、美術館等）の充実	国際文化交流の推進
		49.0%	40.1%	31.6%	28.7%	27.3%
南部地域	122	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	文化事業における市民との協働	文化施設（ホール、美術館等）の充実	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援
		51.6%	33.6%	32.8%	29.5%	27.9%
東部地域	26	伝統芸能の継承、発展	文化事業における市民との協働	国際文化交流の推進	文化芸術施策に対する財政措置の充実	青少年の文化芸術活動への支援
		50.0%	34.6%	26.9%	23.1%	23.1%
月ヶ瀬地域	9	伝統芸能の継承、発展	青少年の文化芸術活動への支援	国際文化交流の推進	文化芸術団体への支援	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供
		44.4%	44.4%	33.3%	33.3%	22.2%
都祁地域	31	青少年の文化芸術活動への支援	伝統芸能の継承、発展	文化事業（演奏会、展覧会等）の提供	高齢者・障がい者等の文化芸術活動への支援	文化事業における市民との協働
		45.2%	41.9%	32.3%	32.3%	29.0%

4-2 文化芸術活動状況

問 18 あなたは現在、何らかの文化芸術活動をされていますか。【あてはまるもの1つに○】

文化芸術活動状況は、「現在はいしていないが、したいと思っている」が47.8%で最も多く、続く「したいと思わない」(36.5%)を11.3ポイント上回っている。「している」は、8.1%となっている。

年齢別にみると、「現在はいしていないが、したいと思っている」は、「20～29歳」(57.4%)が最も高く、次いで「40～49歳」(54.3%)となっている。

回答数： 1,727 図 文化芸術活動状況

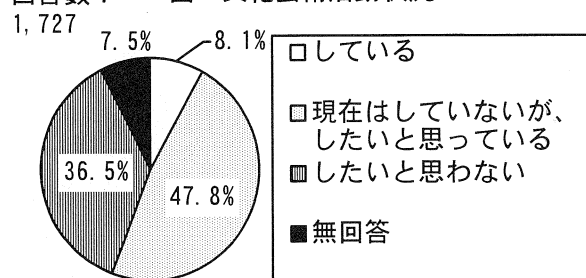
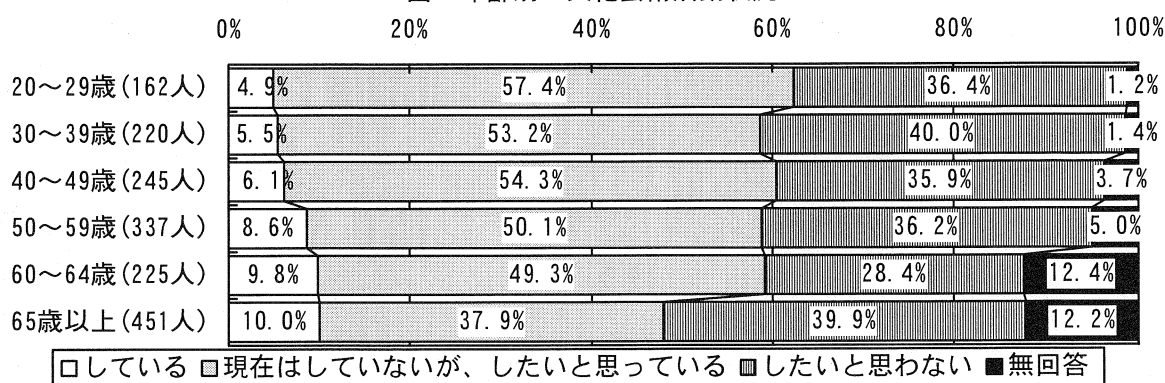


図 年齢別 文化芸術活動状況



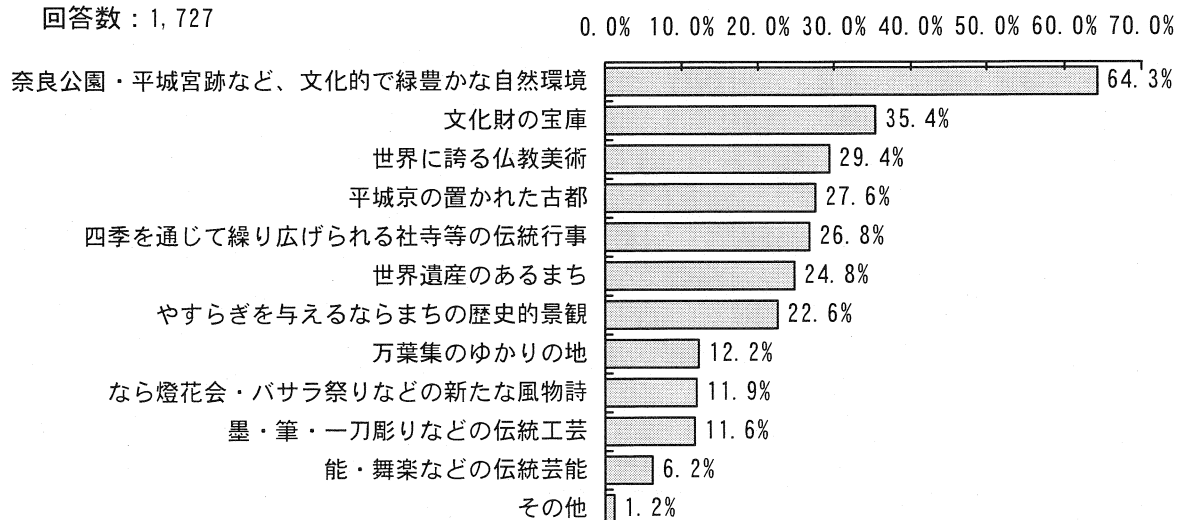
4-3 あなたが思う奈良らしさ

問 19 奈良市は国際文化観光都市であり、全国的にも文化的な風土で知られていますが、あなたの思われる奈良らしさとはどのようなものですか。【あてはまるもの3つ以内で○】

あなたが思う奈良らしさは、「奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境」が64.3%で最も多く、次いで「文化財の宝庫」(35.4%)、「世界に誇る仏教美術」(29.4%)となっている。

図 あなたが思う奈良らしさ(3つ以内で複数回答)

回答数：1,727



地域別に回答の多い順をみると、「都祁地域」を除く全ての地域で「奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境」が最も多く、次いで「文化財の宝庫」となっている。「都祁地域」では「文化財の宝庫」(51.6%)が最も多く、次いで「奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境」(48.4%)となっている。

表 地域別 あなたが思う奈良らしさ（3つ以内で複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
西部地域	769	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 63.7%	文化財の宝庫 35.0%	世界に誇る仏教美術 29.8%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 28.2%	平城京の置かれた古都 27.6%
北部地域	125	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 71.2%	文化財の宝庫 36.0%	世界に誇る仏教美術 30.4%	平城京の置かれた古都 27.2%	世界遺産のあるまち 25.6%
中部地域	114	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 59.6%	文化財の宝庫 39.5%	平城京の置かれた古都 34.2%	世界遺産のあるまち 28.1%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 27.2%
中央市街地	414	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 67.1%	文化財の宝庫 33.3%	世界に誇る仏教美術 30.4%	平城京の置かれた古都 28.0%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 25.8%
南部地域	122	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 64.8%	文化財の宝庫 35.2%	世界に誇る仏教美術 28.7%	平城京の置かれた古都 27.9%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 25.4%
東部地域	26	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 46.2%	文化財の宝庫 42.3%	世界に誇る仏教美術 42.3%	やすらぎを与えるならまちの歴史的景観 30.8%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 30.8%
月ヶ瀬地域	9	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 66.7%	文化財の宝庫 55.6%	四季を通じて繰り上げられる社寺等の伝統行事 44.4%	やすらぎを与えるならまちの歴史的景観 22.2%	世界に誇る仏教美術 11.1%
都祁地域	31	文化財の宝庫 51.6%	奈良公園・平城宮跡など、文化的で緑豊かな自然環境 48.4%	世界に誇る仏教美術 35.5%	平城京の置かれた古都 32.3%	やすらぎを与えるならまちの歴史的景観 25.8%

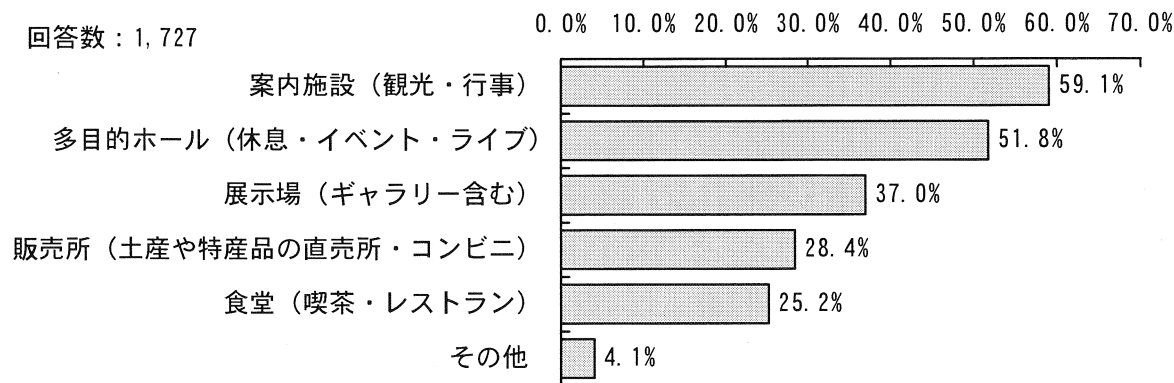
5. JR旧奈良駅舎について

5-1 希望するJR旧奈良駅舎の活用内容

問 20 JR奈良駅東口駅前広場で保存することになった「JR旧奈良駅舎」について、何に活用すればよいと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

希望するJR旧奈良駅舎の活用内容は、「案内施設（観光・行事）」が59.1%で最も多く、次いで「多目的ホール（休息・イベント・ライブ）」（51.8%）、「展示場（ギャラリー含む）」（37.0%）となっている。

図 希望するJR旧奈良駅舎の活用内容（複数回答）



年齢別に回答の多い順をみると、30歳以上の世代では「案内施設（観光・行事）」が最も多く、次いで「多目的ホール（休息・イベント・ライブ）」となっているが、「20～29歳」では「多目的ホール（休息・イベント・ライブ）」が58.0%で最も多く、次いで「案内施設（観光・行事）」（53.1%）で順位が逆転している。

表 年齢別 希望するJR旧奈良駅舎の活用内容（複数回答）

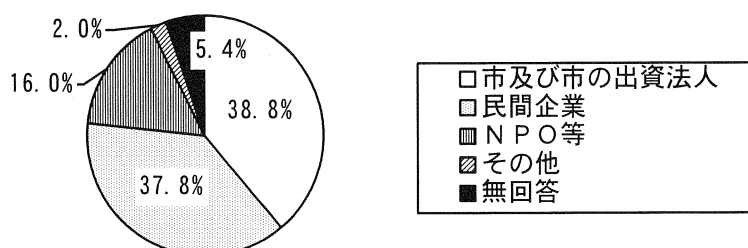
	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 58.0%	案内施設（観光・行事） 53.1%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 29.6%	展示場（ギャラリー含む） 25.3%	食堂（喫茶・レストラン） 22.8%
30～39歳	220	案内施設（観光・行事） 54.5%	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 50.0%	展示場（ギャラリー含む） 29.5%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 26.4%	食堂（喫茶・レストラン） 26.4%
40～49歳	245	案内施設（観光・行事） 55.1%	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 52.2%	展示場（ギャラリー含む） 38.0%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 26.5%	食堂（喫茶・レストラン） 21.6%
50～59歳	337	案内施設（観光・行事） 60.8%	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 54.0%	展示場（ギャラリー含む） 44.2%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 23.4%	食堂（喫茶・レストラン） 21.7%
60～64歳	225	案内施設（観光・行事） 61.8%	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 56.4%	展示場（ギャラリー含む） 42.2%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 29.8%	食堂（喫茶・レストラン） 26.2%
65歳以上	451	案内施設（観光・行事） 63.6%	多目的ホール（休息・イベント・ライブ） 47.0%	展示場（ギャラリー含む） 37.9%	販売所（土産や特産品の直売所・コンビニ） 33.7%	食堂（喫茶・レストラン） 29.3%

5-2 管理・運営を行えばよい団体

問 21 活用する場合、どのような団体が管理・運営を行えばよいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

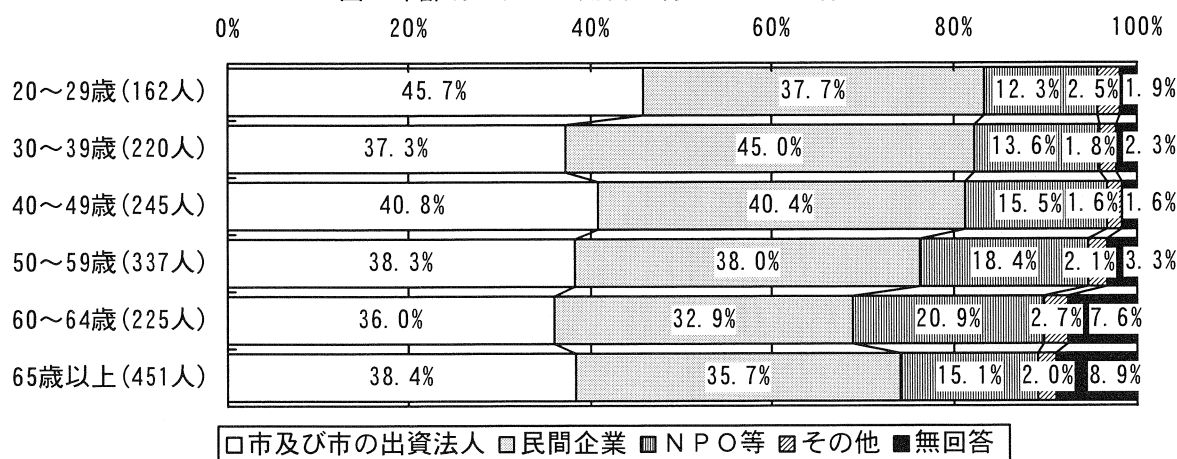
J R旧奈良駅舎の管理・運営を行えばよい団体は、「市及び市の出資法人」が 38.8%で最も多く、次いで「民間企業」(37.8%)となっている。「NPO等」は16.0%となっている。

回答数：1,727 図 管理・運営を行えばよい団体



年齢別に回答の多い順をみると、「30～39 歳」以外の世代は「市及び市の出資法人」が最も多く、次いで「民間企業」となっているが、「30～39 歳」では「民間企業」が45.0%で最も多く、次いで「市及び市の出資法人」(37.3%)で順位が逆転している。

図 年齢別 管理・運営を行えばよい団体



管理・運営を行えばよい団体別に希望するJ R旧奈良駅舎の活用内容をみると、「案内施設（観光・行事）」は「市及び市の出資法人」が68.7%で最も高く、「多目的ホール（休息・イベント・ライブ）」は「NPO等」が59.9%で最も高くなっている。

表 管理・運営を行えばよい団体別 希望するJ R旧奈良駅舎の活用内容（複数回答）

	有効回答数	案内施設（観光・行事）	多目的ホール（休息・イベント・ライブ）	展示場（ギャラリー合む）	販売所（土産・特産品）	食堂（喫茶・レストラン）	その他
全体	1,727	59.1%	51.8%	37.0%	28.4%	25.2%	4.1%
市及び市の出資法人	670	68.7%	51.8%	40.0%	30.4%	21.6%	2.5%
民間企業	652	53.5%	52.6%	30.8%	31.9%	33.4%	2.8%
NPO等	277	61.7%	59.9%	49.5%	22.0%	19.1%	3.6%
その他	35	48.6%	42.9%	34.3%	20.0%	20.0%	45.7%

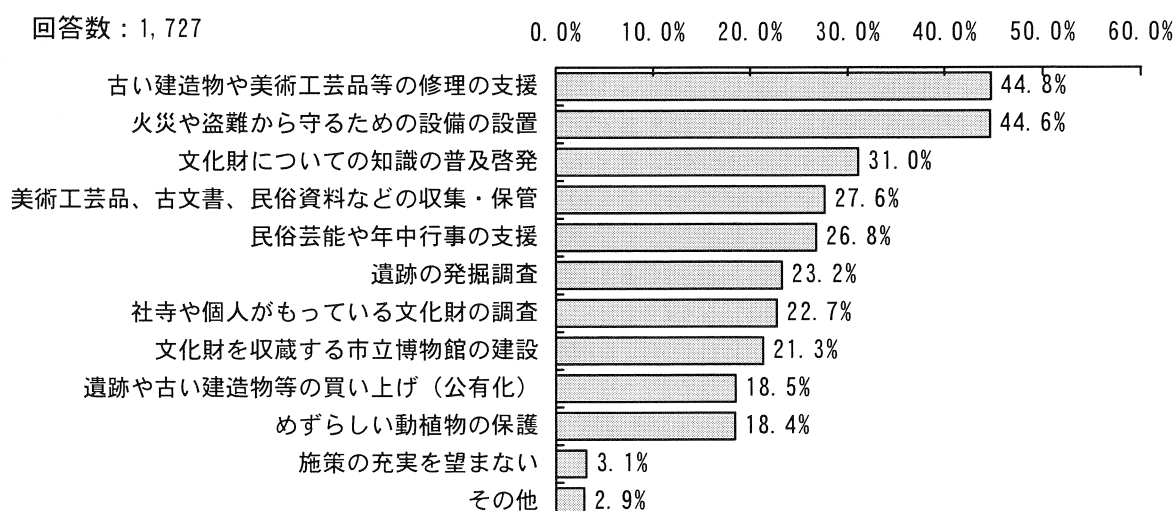
6. 文化財について

6-1 文化財保護のため充実すべき施策

問 22 奈良市にある文化財を守るために、どのような施策を充実させるべきだとお考えになりますか。【あてはまるものすべてに○】

文化財保護のため充実すべき施策は、「古い建造物や美術工芸品等の修理の支援」が 44.8%で最も多く、次いで「火災や盗難から守るための設備の設置」(44.6%)、「文化財についての知識の普及啓発」(31.0%)となっている。

図 文化財保護のため充実すべき施策（複数回答）



年齢別に回答の多い順をみると、「40～49歳」と「50～59歳」で「古い建造物や美術工芸品等の修理の支援」が最も多く、次いで「火災や盗難から守るための設備の設置」であるが、「30～39歳」では両者が同率で最も多くなっている。他の世代では「火災や盗難から守るための設備の設置」が最も多く、次いで「古い建造物や美術工芸品等の修理の支援」となっている。

表 年齢別 文化財保護のため充実すべき施策（複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	火災や盗難から守るための設備の設置 51.2%	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 48.8%	文化財についての知識の普及啓発 34.0%	美術工芸品、古文書、民俗資料などの収集・保管 32.1%	民俗芸能や年中行事の支援 30.9%
30～39歳	220	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 43.2%	火災や盗難から守るための設備の設置 43.2%	文化財についての知識の普及啓発 30.9%	めずらしい動植物の保護 27.3%	民俗芸能や年中行事の支援 25.5%
40～49歳	245	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 53.1%	火災や盗難から守るための設備の設置 44.9%	文化財についての知識の普及啓発 30.2%	民俗芸能や年中行事の支援 26.9%	美術工芸品、古文書、民俗資料などの収集・保管 23.3%
50～59歳	337	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 49.0%	火災や盗難から守るための設備の設置 40.7%	文化財についての知識の普及啓発 31.2%	美術工芸品、古文書、民俗資料などの収集・保管 27.9%	民俗芸能や年中行事の支援 26.4%
60～64歳	225	火災や盗難から守るための設備の設置 45.3%	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 41.3%	文化財についての知識の普及啓発 33.3%	民俗芸能や年中行事の支援 31.6%	美術工芸品、古文書、民俗資料などの収集・保管 28.0%
65歳以上	451	火災や盗難から守るための設備の設置 46.6%	古い建造物や美術工芸品等の修理の支援 37.3%	美術工芸品、古文書、民俗資料などの収集・保管 31.5%	文化財についての知識の普及啓発 29.9%	文化財を収蔵する市立博物館の建設 28.2%

地域別にみると、「中部地域」と「中央市街地」では「古い建造物や美術工芸品等の修理の支援」、
「西部地域」と「北部地域」と「南部地域」と「都祁地域」では「火災や盗難から守るための設
備の設置」、「東部地域」では「社寺や個人が持っている文化財の調査」、「月ヶ瀬地域」では「文
化財についての知識の普及啓発」が最も多くなっている。

表 地域別 文化財保護のため充実すべき施策（複数回答）

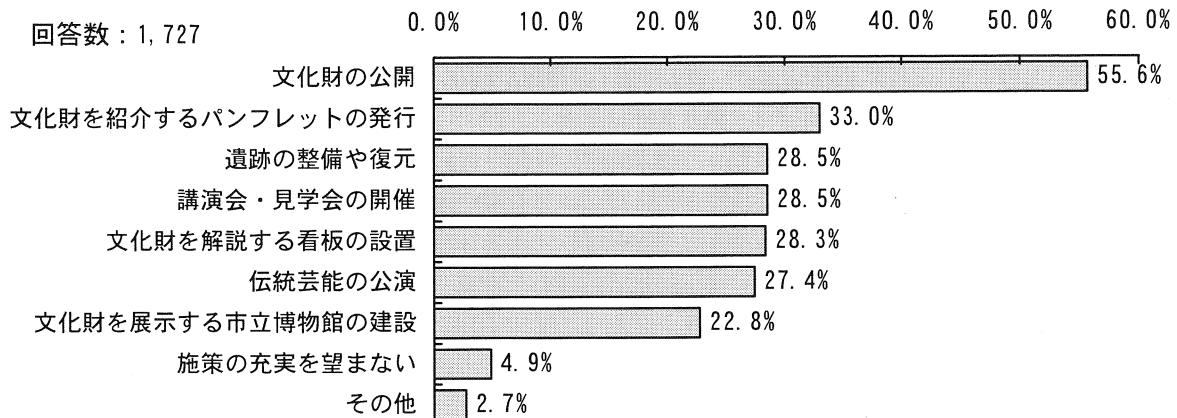
	有効回 答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
西部地域	769	火災や盗難から守 るための設備の設 置 48.5%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 47.5%	文化財についての 知識の普及啓発 31.5%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 28.7%	民俗芸能や年中行 事の支援 26.5%
北部地域	125	火災や盗難から守 るための設備の設 置 44.0%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 43.2%	民俗芸能や年中行 事の支援 32.8%	文化財についての 知識の普及啓発 32.8%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 28.8%
中部地域	114	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 35.1%	火災や盗難から守 るための設備の設 置 35.1%	文化財についての 知識の普及啓発 28.1%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 25.4%	民俗芸能や年中行 事の支援 25.4%
中央市街地	414	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 44.2%	火災や盗難から守 るための設備の設 置 43.7%	文化財についての 知識の普及啓発 32.9%	民俗芸能や年中行 事の支援 26.8%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 26.1%
南部地域	122	火災や盗難から守 るための設備の設 置 48.4%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 45.9%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 30.3%	文化財についての 知識の普及啓発 28.7%	めずらしい動植物 の保護 24.6%
東部地域	26	社寺や個人がもっ ている文化財の調 査 42.3%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 38.5%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 26.9%	火災や盗難から守 るための設備の設 置 26.9%	文化財を収蔵する 市立博物館の建設 23.1%
月ヶ瀬地域	9	文化財についての 知識の普及啓発 33.3%	遺跡の発掘調査 22.2%	社寺や個人がもっ ている文化財の調 査 22.2%	文化財を収蔵する 市立博物館の建設 22.2%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 22.2%
都祁地域	31	火災や盗難から守 るための設備の設 置 41.9%	古い建造物や美術 工芸品等の修理の 支援 35.5%	美術工芸品、古文 書、民俗資料など の収集・保管 32.3%	民俗芸能や年中行 事の支援 32.3%	遺跡の発掘調査 22.6%

6-2 文化財をくらしに生かすため充実すべき施策

問 23 文化財をくらしの中に生かすために、どのような施策を充実させるべきだとお考えになりますか。【あてはまるものすべてに○】

文化財をくらしに生かすため充実すべき施策は、「文化財の公開」が 55.6%で最も多く、次いで「文化財を紹介するパンフレットの発行」(33.0%)となっている。さらに「遺跡の整備や復元」と「講演会・見学会の開催」が、ともに 28.5%で続いている。

図 文化財をくらしに生かすため充実すべき施策（複数回答）



地域別に回答の多い順をみると、いずれの地域でも「文化財の公開」が最も多くなっているが、第2位に地域差がみられる。第2位は、「西部地域」と「北部地域」と「中央市街地」と「南部地域」では「文化財を紹介するパンフレットの発行」、「中部地域」と「東部地域」では「講演会・見学会の開催」、「月ヶ瀬地域」では「文化財を展示する市立博物館の建設」、「都祁地域」では「伝統芸能の公演」となっている。

表 地域別 文化財をくらしに生かすため充実すべき施策（複数回答）

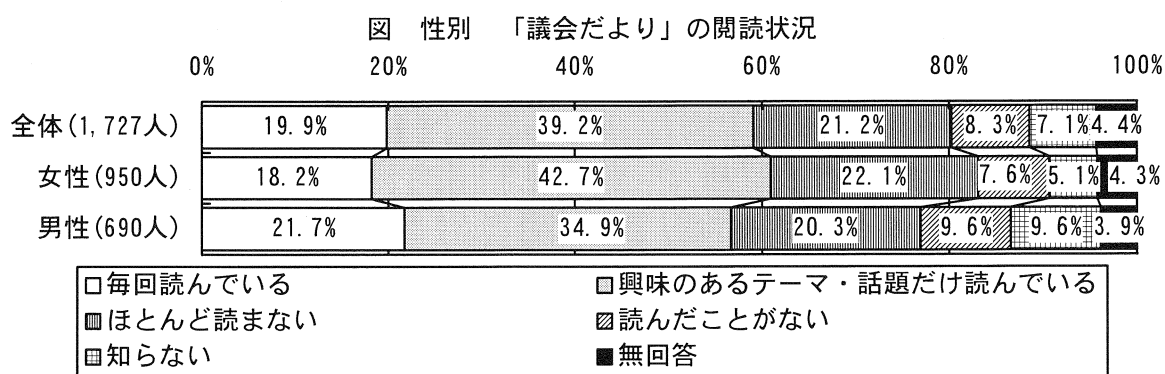
	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
西部地域	769	文化財の公開 56.2%	文化財を紹介するパンフレットの発行 32.8%	文化財を解説する看板の設置 29.5%	遺跡の整備や復元 29.1%	講演会・見学会の開催 29.0%
北部地域	125	文化財の公開 68.8%	文化財を紹介するパンフレットの発行 41.6%	伝統芸能の公演 34.4%	遺跡の整備や復元 28.8%	講演会・見学会の開催 25.6%
中部地域	114	文化財の公開 45.6%	講演会・見学会の開催 32.5%	遺跡の整備や復元 28.9%	文化財を紹介するパンフレットの発行 24.6%	文化財を展示する市立博物館の建設 21.9%
中央市街地	414	文化財の公開 55.1%	文化財を紹介するパンフレットの発行 34.5%	文化財を解説する看板の設置 33.1%	遺跡の整備や復元 29.7%	伝統芸能の公演 28.7%
南部地域	122	文化財の公開 59.8%	文化財を紹介するパンフレットの発行 38.5%	文化財を解説する看板の設置 31.1%	遺跡の整備や復元 26.2%	伝統芸能の公演 26.2%
東部地域	26	文化財の公開 46.2%	講演会・見学会の開催 42.3%	文化財を紹介するパンフレットの発行 34.6%	遺跡の整備や復元 30.8%	文化財を解説する看板の設置 23.1%
月ヶ瀬地域	9	文化財の公開 44.4%	文化財を展示する市立博物館の建設 33.3%	講演会・見学会の開催 33.3%	文化財を紹介するパンフレットの発行 33.3%	伝統芸能の公演 22.2%
都祁地域	31	文化財の公開 51.6%	伝統芸能の公演 32.3%	遺跡の整備や復元 25.8%	講演会・見学会の開催 25.8%	文化財を紹介するパンフレットの発行 25.8%

7. 市等からの広報について

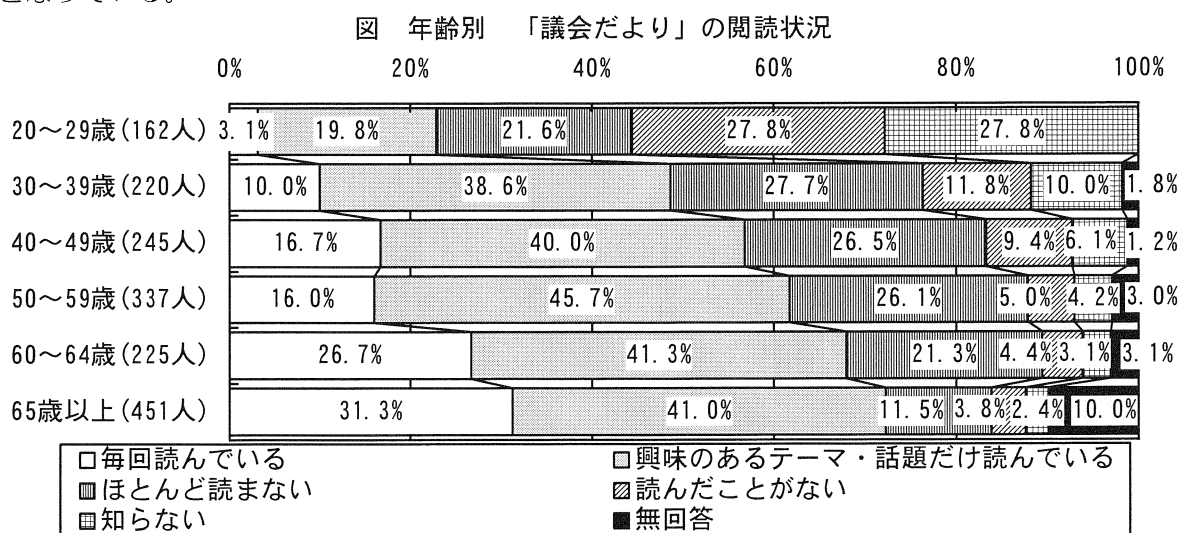
問 24 奈良市では、定例議会の質疑の内容などをお知らせするために「議会だより」を年4回、水道事業については「水道だより」を年2回発行しています。また、しみんだより
に人権啓発記事として「虹のひろば」を毎月掲載しています。あなたはこれらをどの程度読んでいますか。

7-1 「議会だより」の閲読状況

「議会だより」の閲読状況は、「毎回読んでいます」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいます」の合計が59.1%で「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計（29.5%）を29.6ポイント上回っている。性別でみると、「毎回読んでいます」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいます」の合計は女性が60.9%で男性（56.6%）を4.3ポイント上回っている。

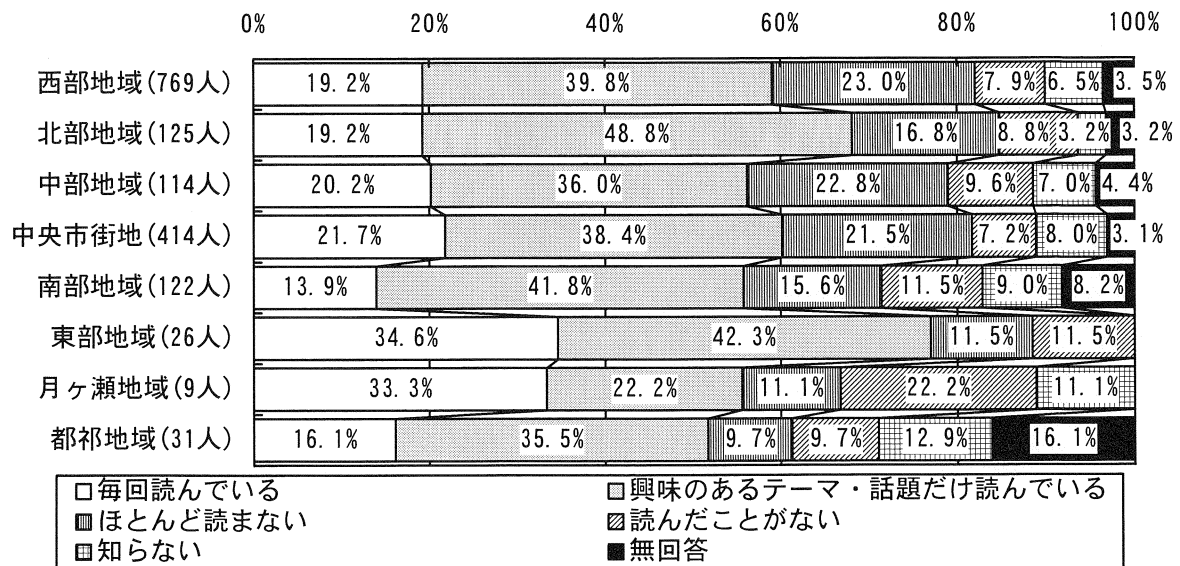


年齢別にみると、「毎回読んでいます」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいます」の合計は「65歳以上」が72.3%で最も高く、次いで「60～64歳」（68.0%）となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は、「20～29歳」が49.4%で最も高く、次いで「30～39歳」（39.5%）となっている。



地域別にみると、「毎回読んでいます」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいます」の合計は「東部地域」が76.9%で最も高く、次いで「北部地域」（68.0%）となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は「月ヶ瀬地域」が33.3%で最も高く、次いで「中部地域」（32.4%）となっている。

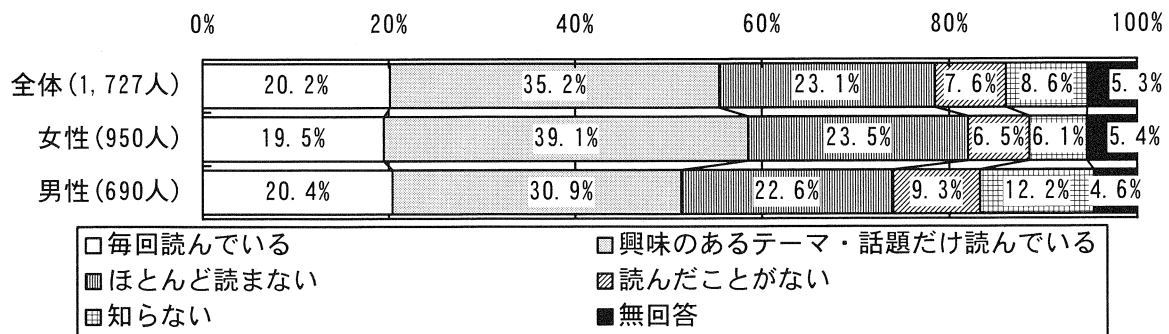
図 地域別 「議会だより」の閲読状況



7-2 「水道だより」の閲読状況

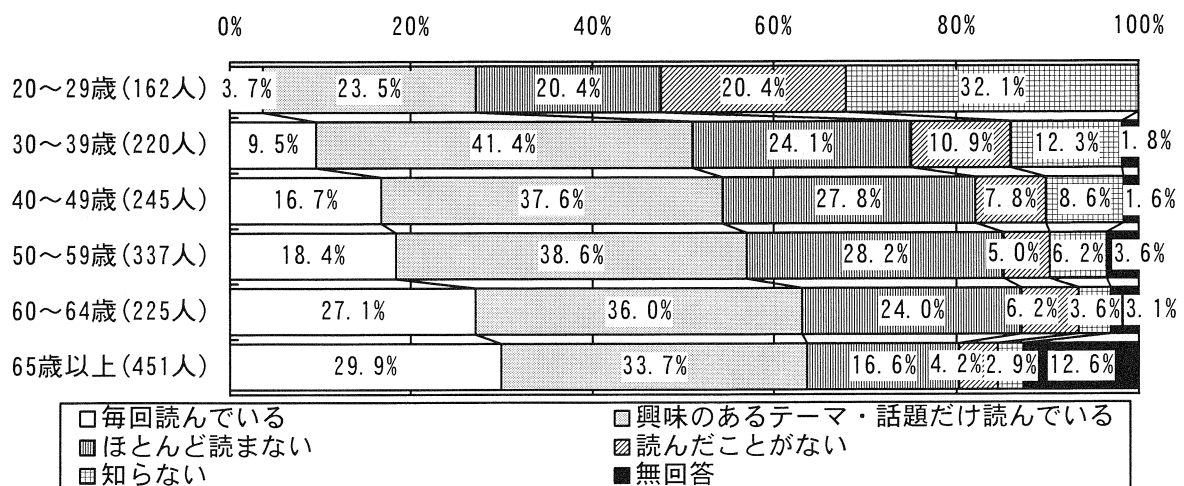
「水道だより」の閲読状況は、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計が 55.4%で「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計 (30.7%) を 24.7 ポイント上回っている。性別でみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は女性が 58.6%で男性 (51.3%) を 7.3 ポイント上回っている。

図 性別 「水道だより」の閲読状況

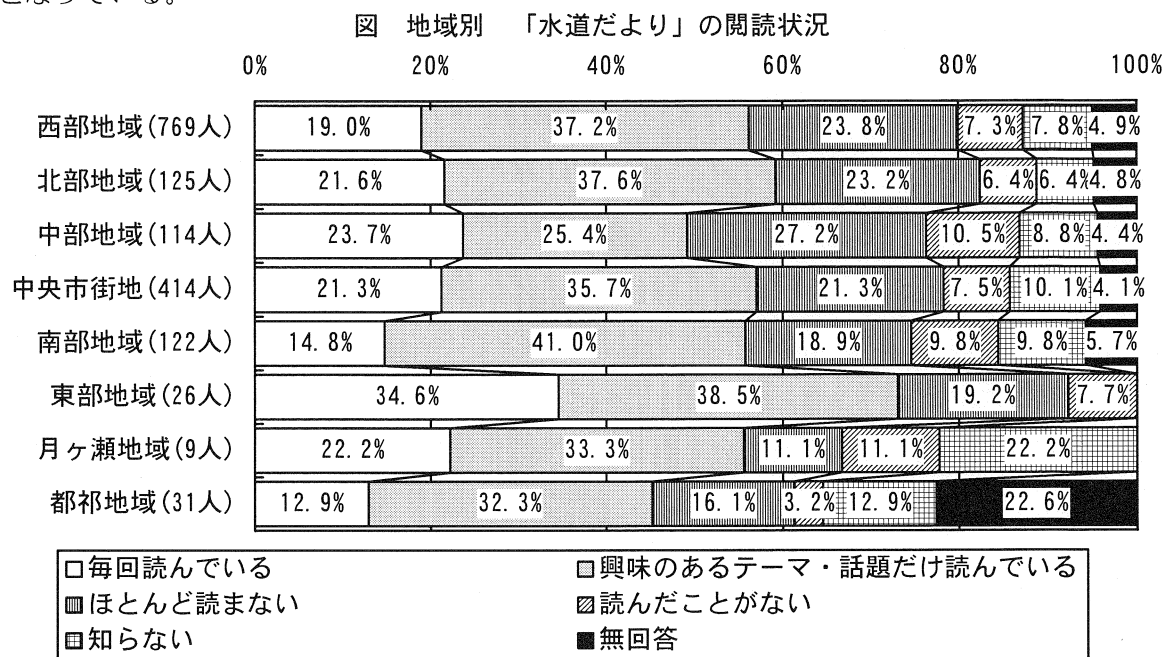


年齢別にみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は「65歳以上」が 63.6%で最も高く、次いで「60～64歳」(63.1%) となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は、「20～29歳」が 40.8%で最も高く、次いで「40～49歳」(35.6%) となっている。

図 年齢別 「水道だより」の閲読状況

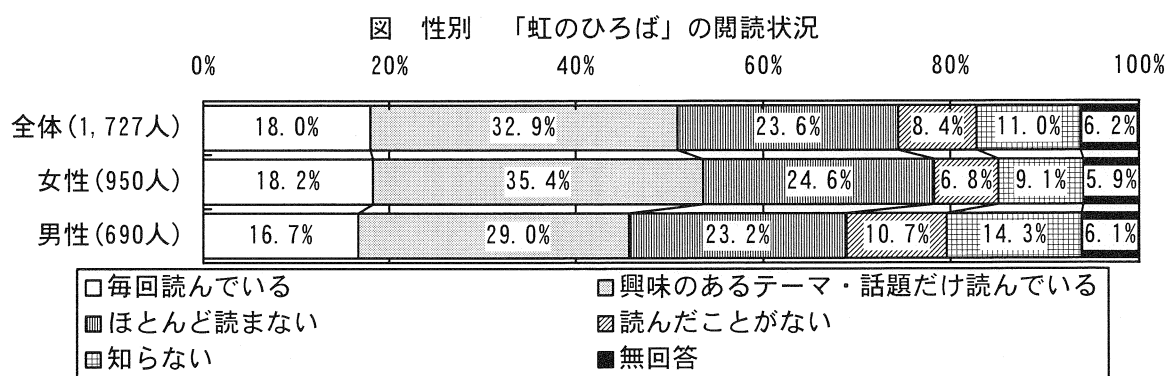


地域別にみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は「東部地域」が73.1%で最も高く、次いで「北部地域」（59.2%）となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は「中部地域」が37.7%で最も高く、次いで「西部地域」（31.1%）となっている。

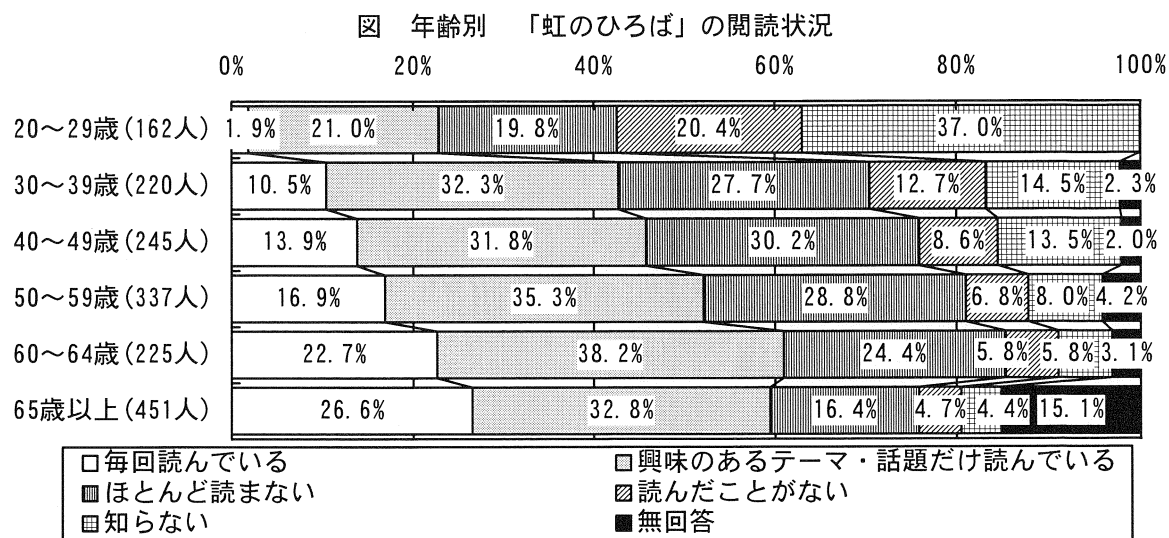


7-3 「虹のひろば」の閲読状況

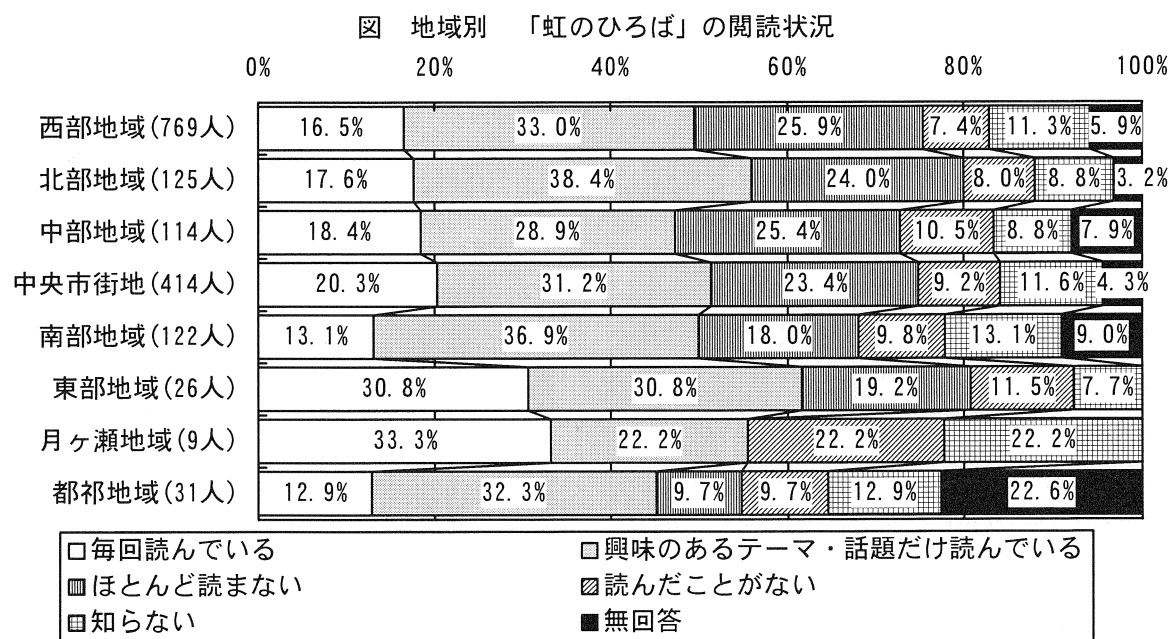
「虹のひろば」の閲読状況は、「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」が32.9%で最も多く、次いで「ほとんど読まない」（23.6%）、「毎回読んでいる」（18.0%）となっている。読んでいるか否かでは、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は50.9%で「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計（32.0%）を18.9ポイント上回っている。性別でみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は女性が53.6%で男性（45.7%）を7.9ポイント上回っている。



年齢別にみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は「60～64歳」が60.9%で最も高く、次いで「65歳以上」(59.4%)となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は、「30～39歳」が40.4%で最も高く、次いで「20～29歳」(40.2%)となっている。



地域別にみると、「毎回読んでいる」と「興味のあるテーマ・話題だけ読んでいる」の合計は「東部地域」が61.6%で最も高く、次いで「北部地域」(56.0%)となっている。「ほとんど読まない」と「読んだことがない」の合計は「中部地域」が35.9%で最も高く、次いで「西部地域」(33.3%)となっている。



8. 男女共同参画について

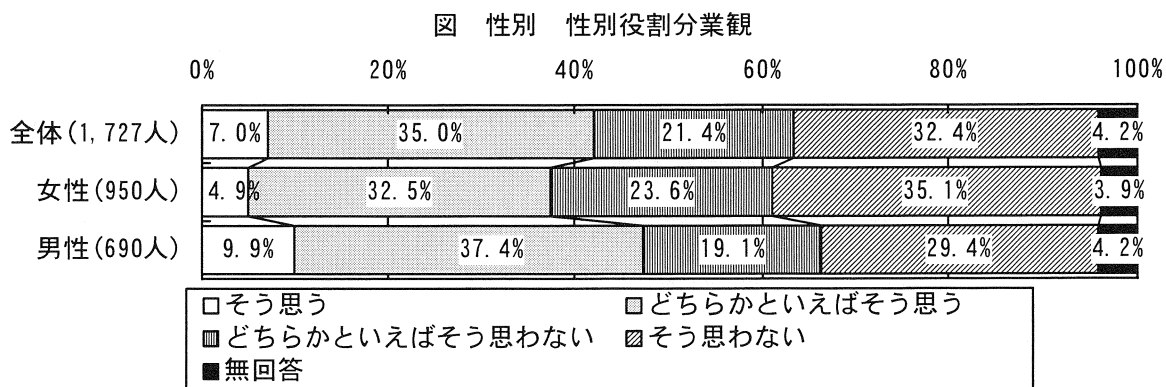
8-1 男女平等について

8-1-1 性別役割分業観

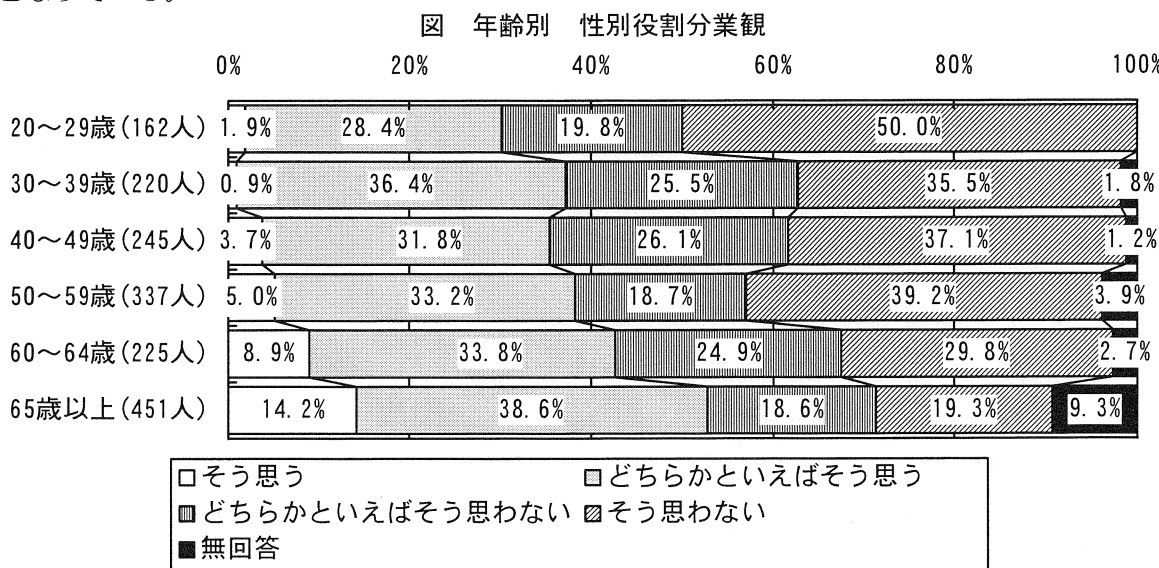
問 25 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。【あてはまるもの1つに○】

男は仕事・女は家庭、という性別役割分業観は、「どちらかといえばそう思う」が 35.0%で最も多く、次いで「そう思わない」(32.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(21.4%)となっている。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせる^②と 53.8%で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計^③(42.0%)を 11.8 ポイント上回っている。

性別でみると、性別役割分業否定派は男性で 48.5%、女性が 58.7%となっており、女性の方が 10.2 ポイント高くなっている。



年齢別にみると、「65 歳以上」を除いた全ての世代で性別役割分業否定派が肯定派を上回っている。性別役割分業否定派をみると「20～29 歳」の 69.8%が最も高く、次いで「40～49 歳」(63.2%)となっている。

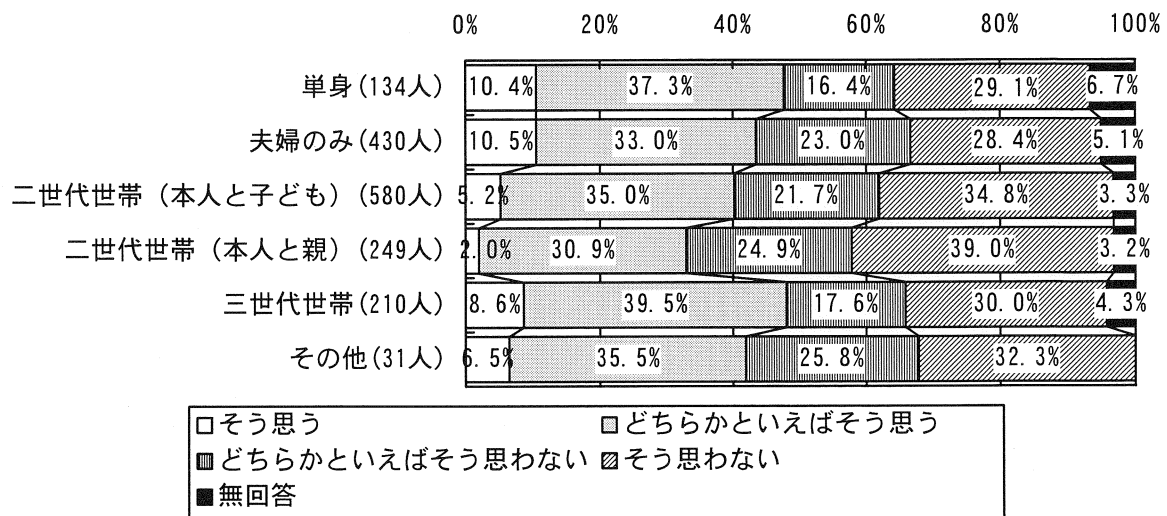


② 以下「性別役割分業否定派」と表記する。

③ 以下「性別役割分業肯定派」と表記する。

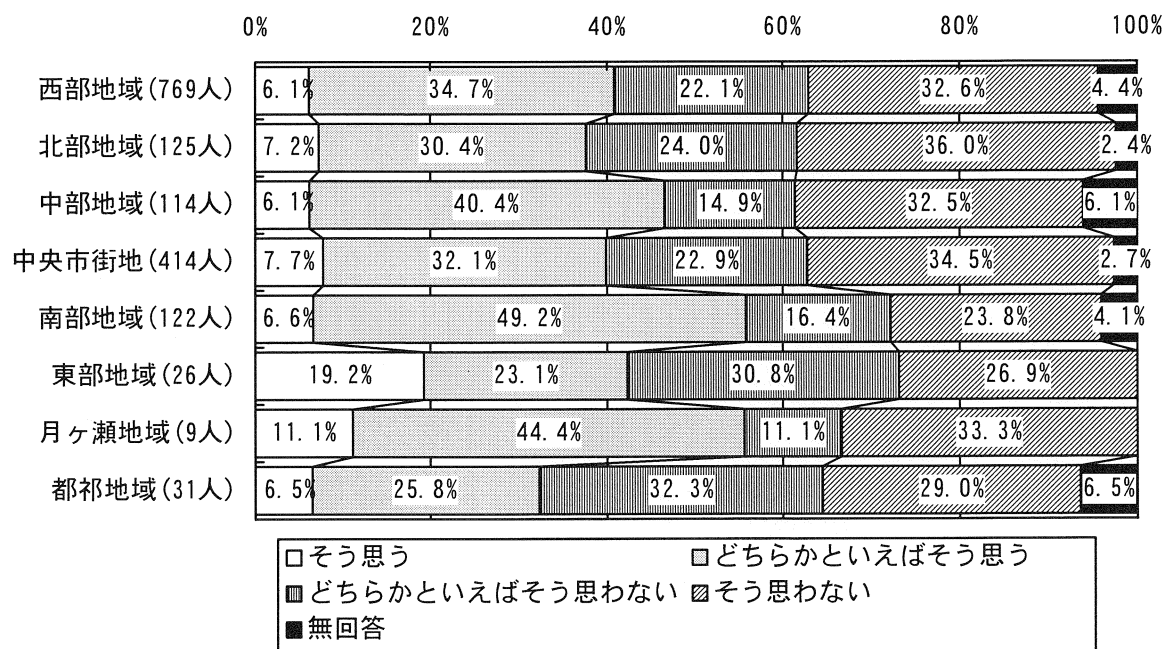
家族構成別にみると、「単身」と「三世代世帯」で性別役割分業肯定派が否定派を上回り、それ以外の家族構成では否定派が上回っている。性別役割分業肯定派は「三世代世帯」（48.1％）が最も高く、性別役割分業否定派は「二世代世帯（本人と親）」（63.9％）が最も高くなっている。

図 家族構成別 性別役割分業観



地域別にみると、性別役割分業否定派は「都祁地域」が61.3％で最も高く、次いで「北部地域」（60.0％）となっている。性別役割分業肯定派は「南部地域」が55.8％で最も高くなっている。

図 地域別 性別役割分業観



8-1-2 各分野での平等感

問 26 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。

各分野での平等感について比較した。

家庭生活の場での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 58.3%で過半数を超え、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計（36.5%）を 21.8 ポイント上回っている。

町内会や自治会など地域活動での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 57.8%と過半数を超え、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 35.6%を 22.2 ポイント上回っている。

冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 51.7%と過半数を超えており、「平等である」と「やや平等である」の合計の 41.1%を 10.6 ポイント上回っている。

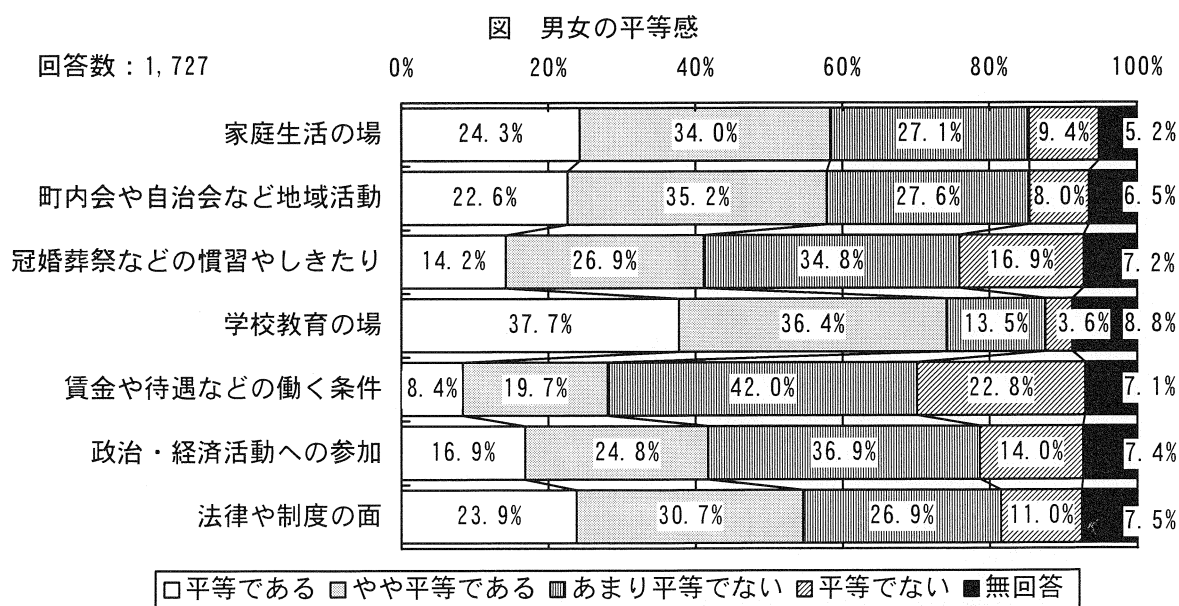
学校教育の場での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 74.1%と7割を超えており、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 17.1%を 57.0 ポイント上回っている。

賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 64.8%と6割を超えており、「平等である」と「やや平等である」の合計の 28.1%を 36.7 ポイント上回っている。

政治・経済活動への参加での男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 50.9%と過半数を占め、「平等である」と「やや平等である」の合計の 41.7%を 9.2 ポイント上回っている。

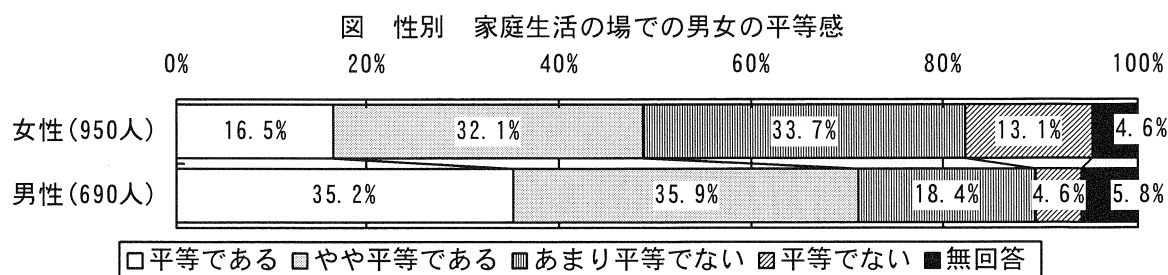
法律や制度の面での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 54.6%と過半数を占め、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 37.9%を 16.7 ポイント上回っている。

このように、「冠婚葬祭などの慣習やしきたり」と「賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感」と「政治・経済活動への参加での男女の平等感」では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回り、それ以外の分野では「平等である」と「やや平等である」の合計が「あまり平等でない」と「平等でない」の合計を上回っている。

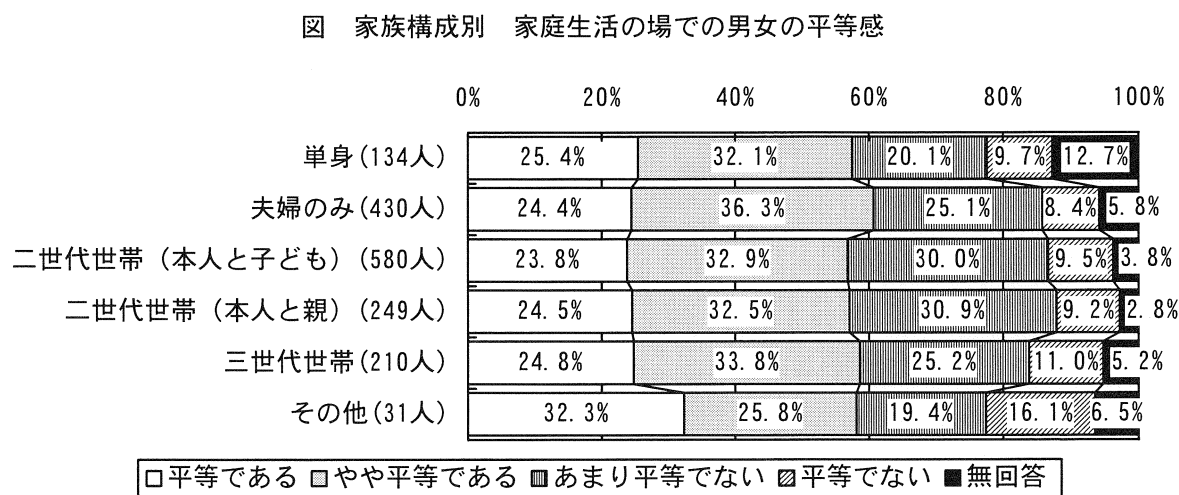


(1) 家庭生活の場での男女の平等感

性別でみると、男性は「平等である」と「やや平等である」の合計が71.1%と多数を占めるのに対し、女性は「平等である」と「やや平等である」の合計が48.6%、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が46.8%と、意見はほぼ拮抗している。内訳では、男性は「やや平等である」(35.9%)が最も多く、次いで「平等である」(35.2%)となっているのに対し、女性は「あまり平等でない」(33.7%)が最も多く、次いで「やや平等である」(32.1%)となっている。

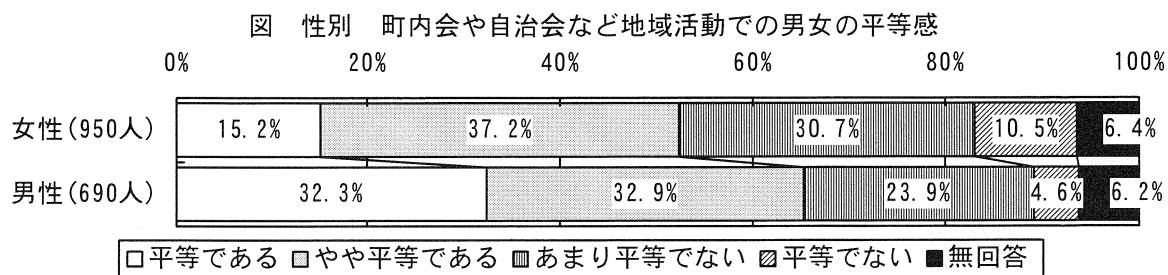


家族構成別にみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は「夫婦のみ」が60.7%で最も高く、次いで「三世代世帯」(58.6%)となっており、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「二世代世帯(本人と親)」が40.1%で最も高く、次いで「二世代世帯(本人と子ども)」(39.5%)となっている。



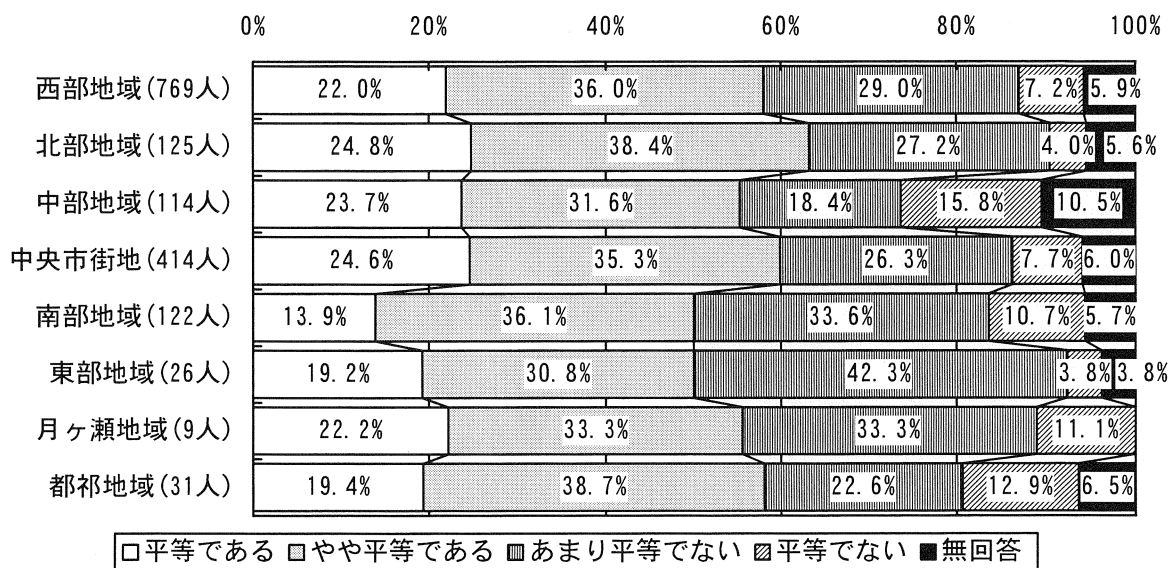
(2) 町内会や自治会など地域活動での男女の平等感

性別でみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は男性が65.2%で女性(52.4%)を12.8ポイント上回っている。内訳は男女とも「やや平等である」(男性32.9%、女性37.2%)が最も多くなっているが、男性では「平等である」(32.3%)が続くのに対し、女性は「あまり平等でない」(30.7%)となっている。



地域別にみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は「北部地域」が 63.2%で最も高く、次いで「中央市街地」(59.9%)となっている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「東部地域」が 46.1%で最も多く、次いで「月ヶ瀬地域」(44.4%)となっている。

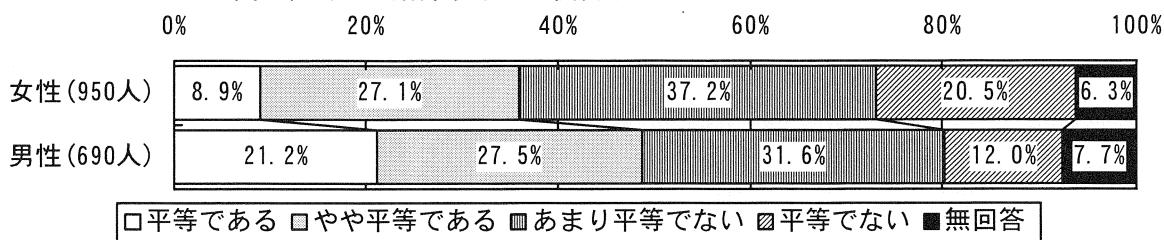
図 地域別 町内会や自治会など地域活動での男女の平等感



(3) 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感

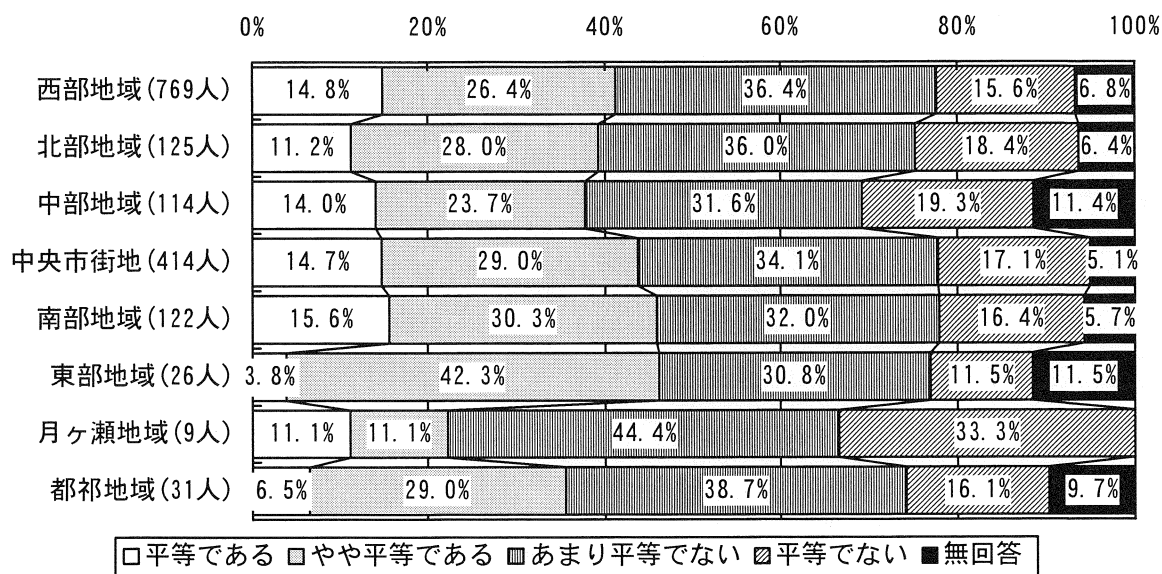
性別でみると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が 48.7%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計 (43.6%) を 5.1 ポイント上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 57.7%と過半数を超え、男女間に大きな意識の差が見られる。内訳は、男女とも「あまり平等でない」(男性 31.6%、女性 37.2%) が最も多く、次いで「やや平等である」(男性 27.5%、女性 27.1%) となっているが、続いて男性が「平等である」(21.2%)、女性は「平等でない」(20.5%) と分かれている。

図 性別 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感



地域別にみると、「東部地域」以外の全ての地域で、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。「東部地域」では、「平等である」と「やや平等である」の合計が 46.1%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計 (42.3%) を 3.8 ポイント上回っている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「月ヶ瀬地域」が 77.7%で最も高く、次いで「都祁地域」(54.8%) となっている。

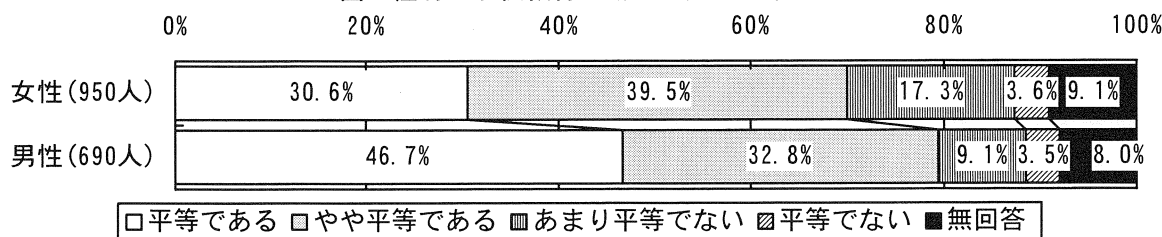
図 地域別 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感



(4) 学校教育の場での男女の平等感

性別でみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は男性が 79.5%で女性 (70.1%) を 9.4 ポイント上回っている。内訳は、男性では「平等である」(46.7%) が最も多く、次いで「やや平等である」(32.8%) となっているが、女性では「やや平等である」(39.5%) が最も多く、次いで「平等である」(30.6%) となっている。

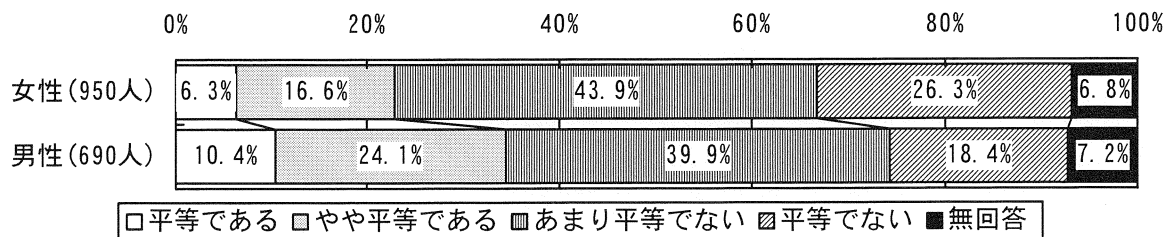
図 性別 学校教育の場での男女の平等感



(5) 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感

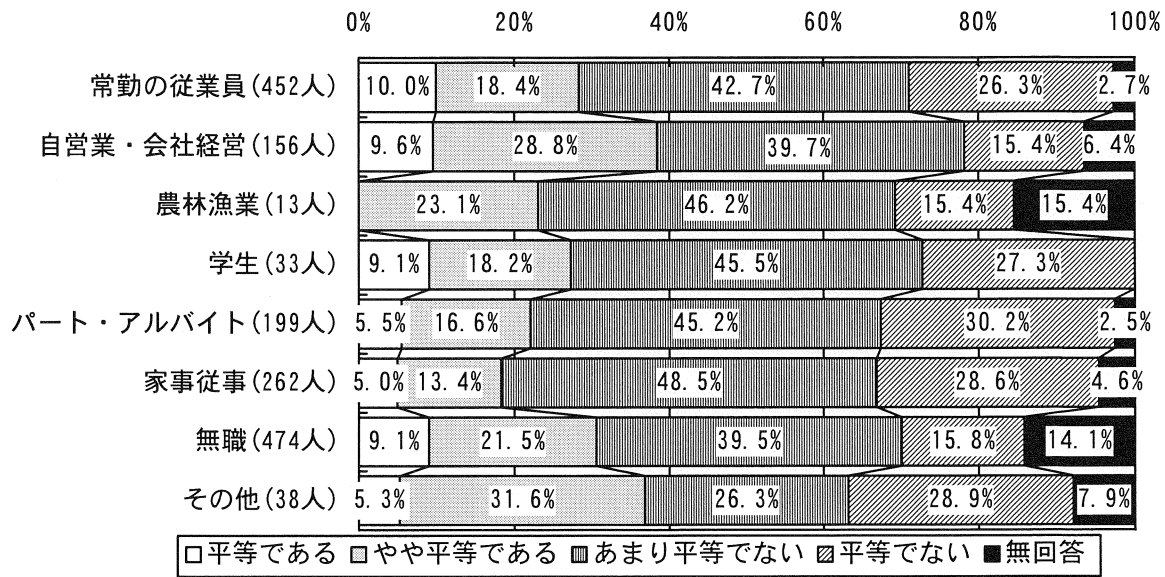
性別でみると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は女性が 70.2%で男性 (58.3%) を 11.9 ポイント上回っている。内訳は、男女とも「あまり平等ではない」(男性 39.9%、女性 43.9%) が最も多いが、次いで男性では「やや平等である」(24.1%) に対し女性は「平等でない」(26.3%) となっている。

図 性別 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感



職業別にみると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「家事従事」が77.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(75.4%)、「学生」(72.8%)となっている。

図 職業別 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感

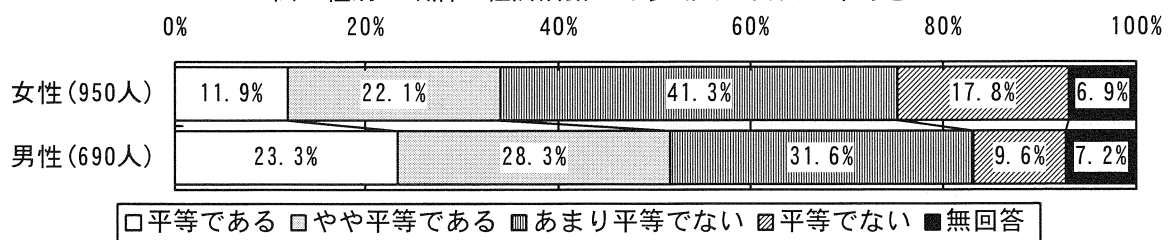


* 職業（無回答）：100人

(6) 政治・経済活動への参加での男女の平等感

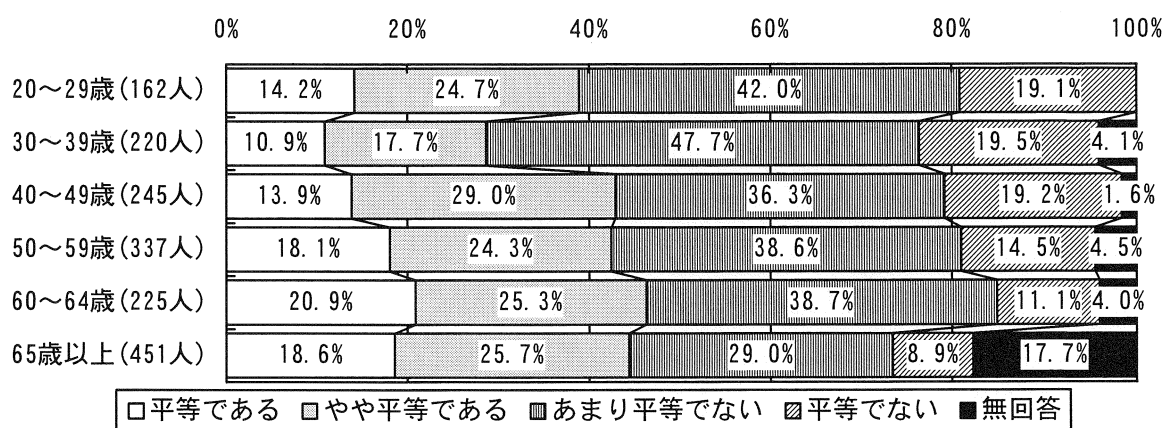
性別でみると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が51.6%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計(41.2%)を上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が59.1%で過半数を超えている。内訳は、男女とも「あまり平等ではない」が最も多く、次いで「やや平等である」となっているが、続いて男性は「平等である」(23.3%)、女性では「平等でない」(17.8%)となっている。

図 性別 政治・経済活動への参加での男女の平等感



年齢別にみると、64歳以下の全ての世代で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「30～39歳」が67.2%で最も高く、次いで「20～29歳」(61.1%)、「40～49歳」(55.5%)となり、以降年齢が上がるにしたがって比率が下がって「60～64歳」から過半数を割り込んでいく。

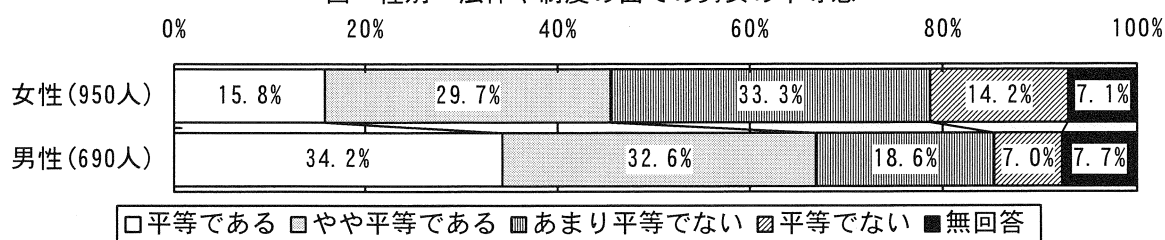
図 年齢別 政治・経済活動への参加での男女の平等観



(7) 法律や制度の面での男女の平等感

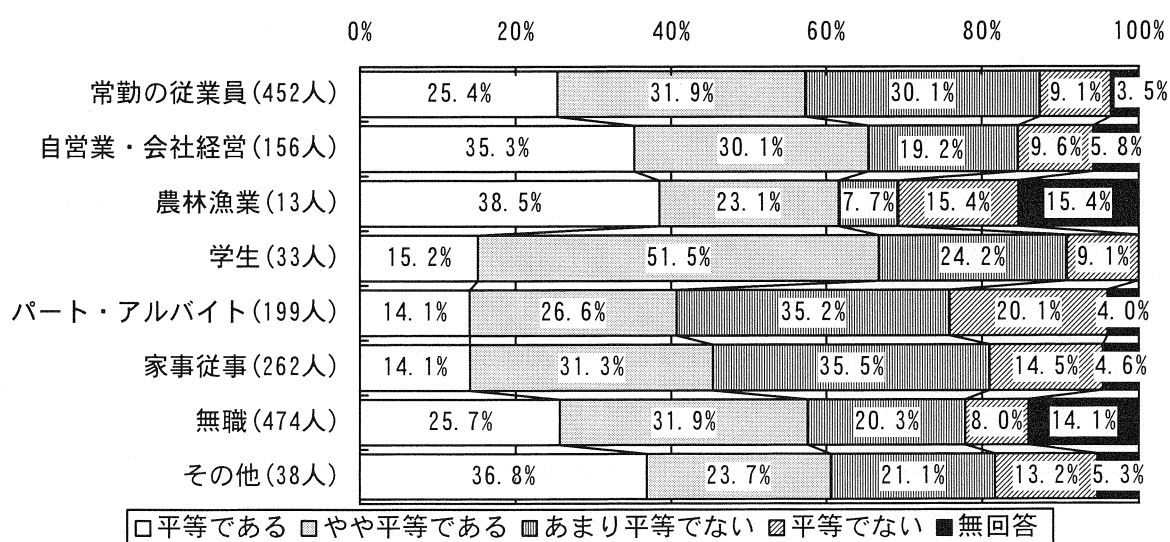
性別でみると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が66.8%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計（25.6%）を上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が47.5%で「平等である」と「やや平等である」の合計（45.5%）を上回っている。内訳は、男性では「平等である」が34.2%で最も多く、次いで「やや平等である」（32.6%）となっているが、女性では「あまり平等でない」が33.3%で最も多く、次いで「やや平等である」（29.7%）となっている。

図 性別 法律や制度の面での男女の平等感



職業別にみると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「パート・アルバイト」が55.3%で最も高く、次いで「家事従事」（50.0%）となっており、この2つの職業で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。他の職業では「平等である」と「やや平等である」の合計が6割前後を占め、特に「学生」（66.7%）、「自営業・会社経営」（65.4%）が高くなっている。

図 職業別 法律や制度の面での男女の平等感

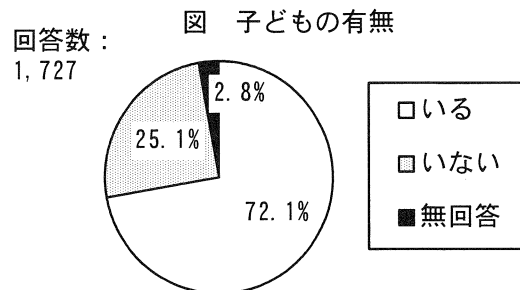


8-2 子育てについて

8-2-1 子どもの有無

問 27 あなたには子どもがいますか。【あてはまるもの1つに○】

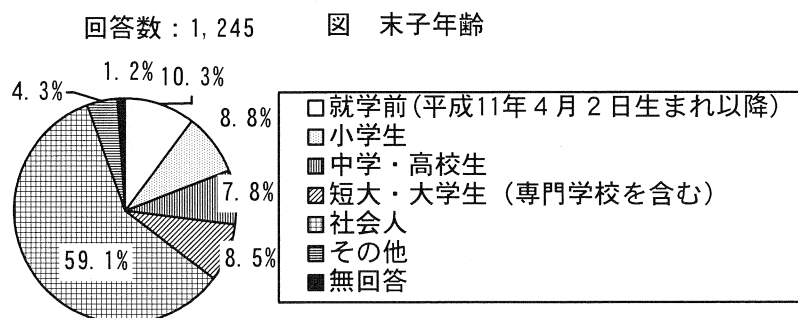
子どもの有無は、「いる」が 72.1%で「いない」が 25.1%となっている。



8-2-2 末子年齢

問 27-1 問 27 で「1. いる」と答えた方におたずねします。1 番下の子どもについてお答えください。【あてはまるもの1つに○】

末子年齢は、「社会人」が 59.1%で過半数を超えており、次いで「就学前（平成 11 年 4 月 2 日生まれ以降）」（10.3%）、「小学生」（8.8%）となっている。



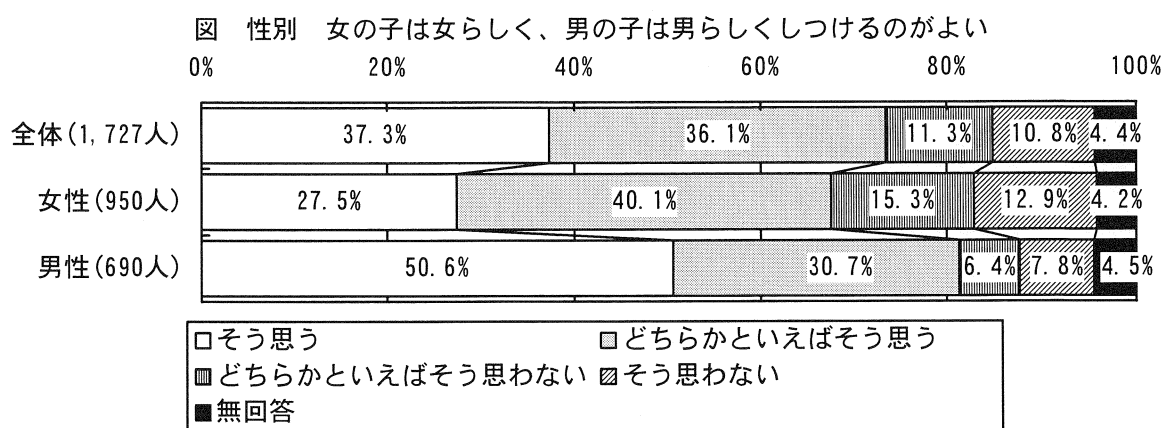
8-2-3 子育てについての考え方

問 28 子育てについての次のような考え方を、あなたはどのように思いますか。
それぞれの項目ごとに数字を1つ選んで○をつけてください

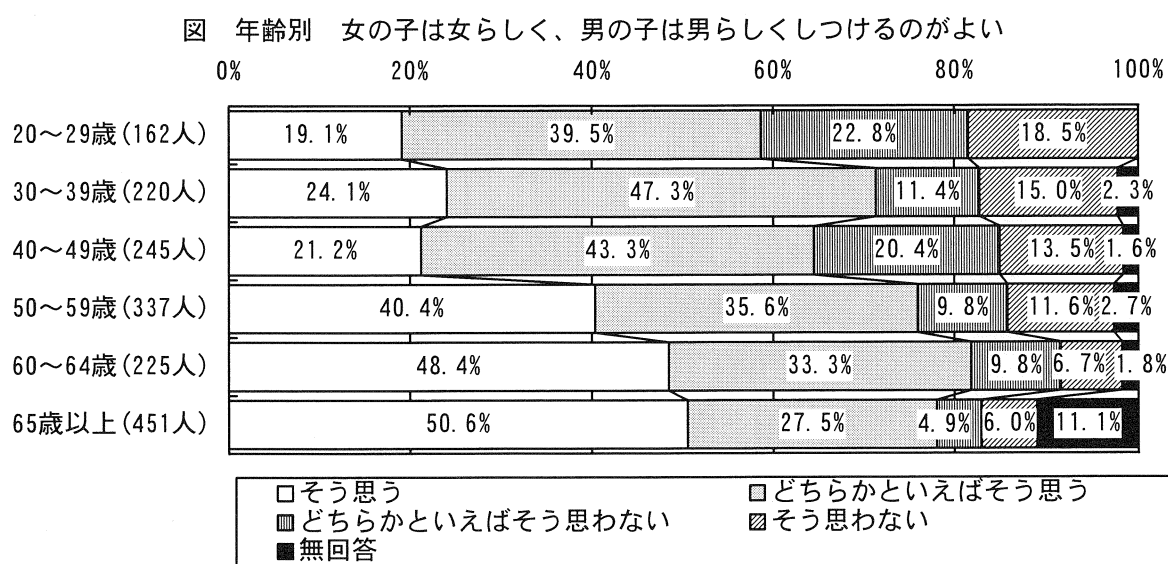
(1) 女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよい

女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が 73.4%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(22.1%)を 51.3 ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は男性が 81.3%で女性(67.6%)を 13.7 ポイント上回っている。内訳は、男性では「そう思う」が 50.6%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.7%)となっているが、女性では「どちらかといえばそう思う」(40.1%)、次いで「そう思う」(27.5%)となっている。



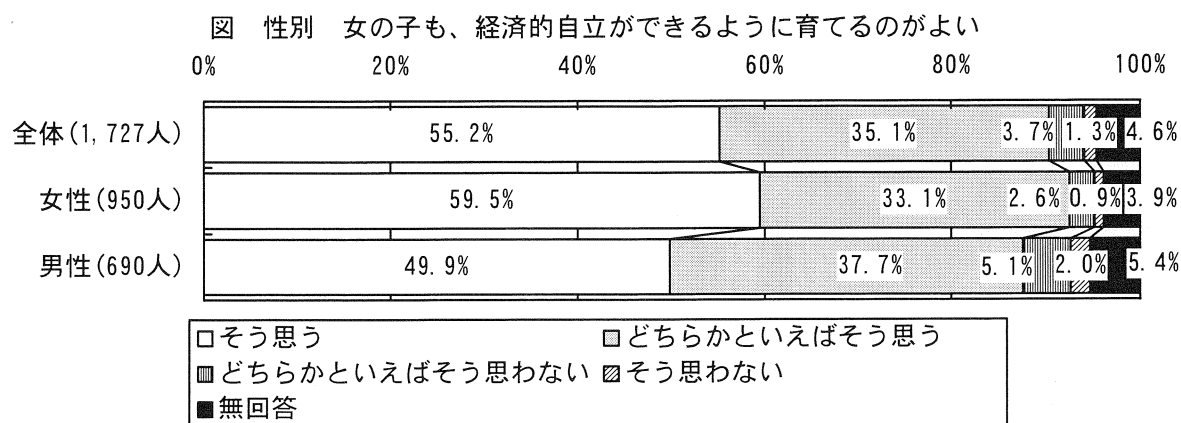
年齢別にみると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた「肯定派」は「60～64歳」が81.7%で最も高く、次いで「65歳以上」(78.1%)、「50～59歳」(76.0%)となっており、高齢者や熟年層にその考え方が多い。



(2) 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい

女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよいという考え方は、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた「肯定派」が90.3%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は5.0%とごく少数になっている。

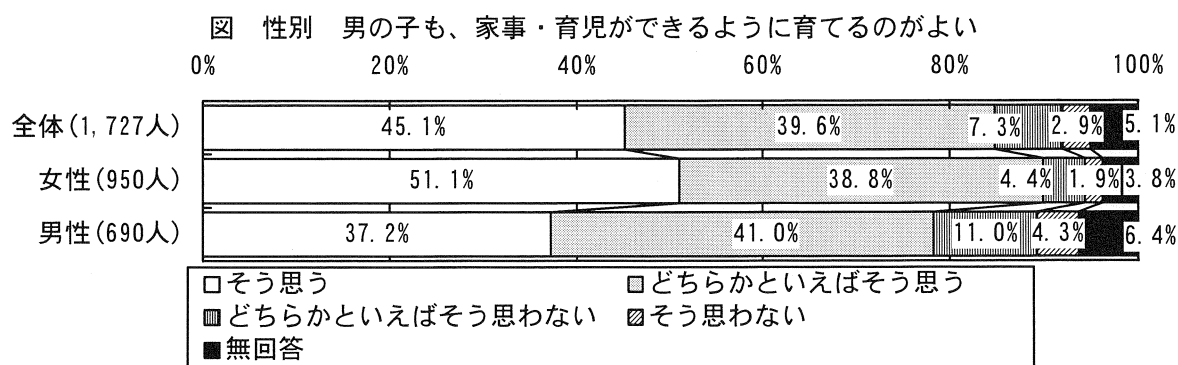
性別でみると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた「肯定派」は男性87.6%、女性は92.6%でどちらも9割前後を占めるが、女性の方が5.0ポイント高くなっている。



(3) 男の子も、家事・育児ができるように育てるのがよい

男の子も、家事・育児ができるように育てるのがよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が 84.7%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(10.2%)を 74.5 ポイント上回っている。

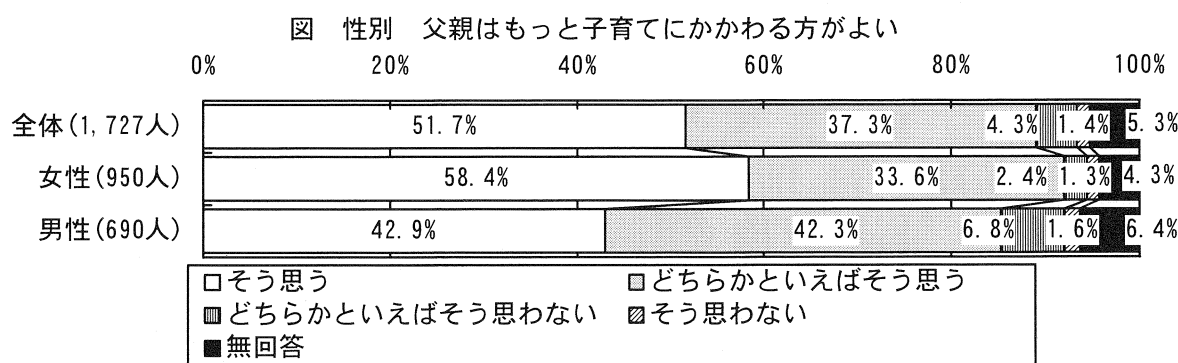
性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が 89.9%で男性(78.2%)を 11.7 ポイント上回っている。内訳は、男性では「どちらかといえばそう思う」が 41.0%で最も多く、次いで「そう思う」(37.2%)となっているが、女性では「そう思う」(51.1%)が過半数を超え、次いで「どちらかといえばそう思う」(38.8%)となっている。



(4) 父親はもっと子育てにかかわる方がよい

父親はもっと子育てにかかわる方がよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は 89.0%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は 5.7%とごく少数になっている。

性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が 92.0%で男性(85.2%)を 6.8 ポイント上回っている。

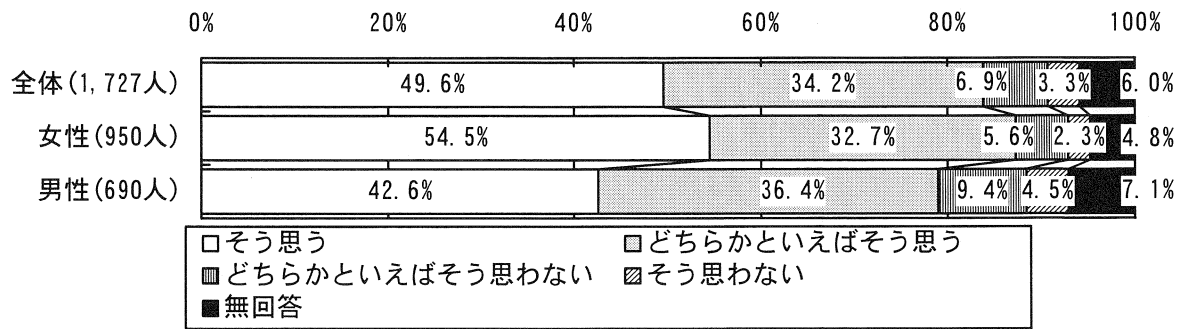


(5) 子育てには、地域社会の支援が必要である

子育てには、地域社会の支援が必要であるという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が 83.8%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(10.2%)を 73.6 ポイント上回っている。

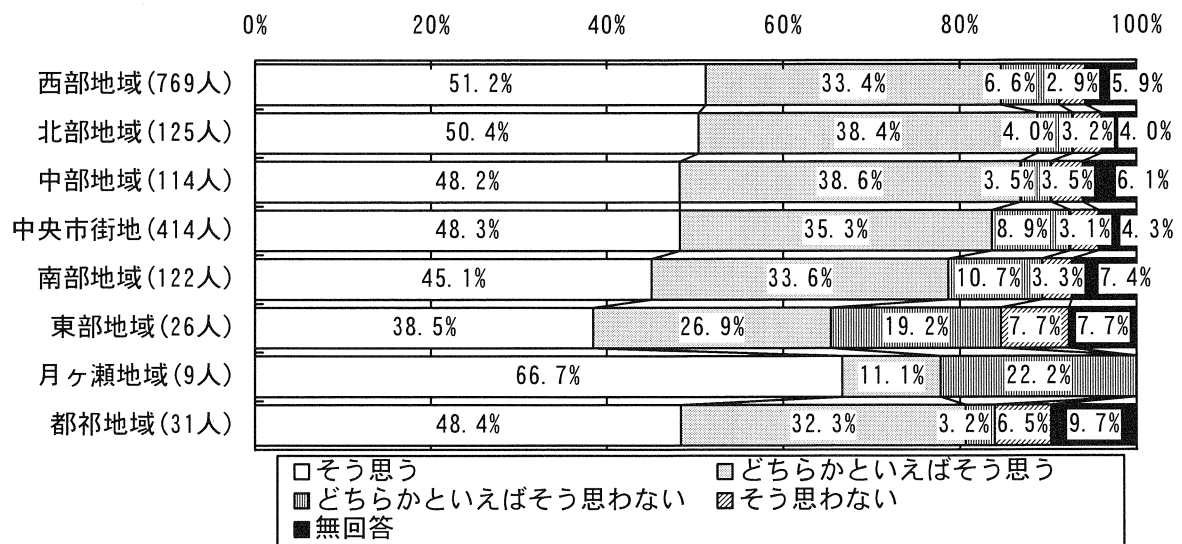
性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が 87.2%で男性(79.0%)を 8.2 ポイント上回っている。

図 性別 子育てには、地域社会の支援が必要である



地域別にみると、いずれの地域でも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が6割以上を占め、なかでも「北部地域」(88.8%)が最も高く、次いで「中部地域」(86.8%)となっている。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は「東部地域」(26.9%)が最も高く、次いで「月ヶ瀬地域」(22.2%)となっている。

図 地域別 子育てには、地域社会の支援が必要である

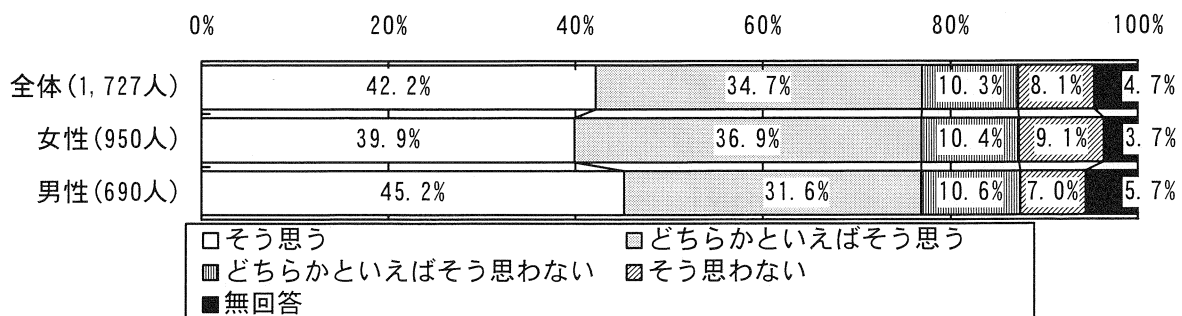


(6) 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである

3歳までは、母親が子育てに専念すべきであるという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が76.9%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(18.4%)を58.5ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」全体でみると男女同率の76.8%になっているが、「そう思う」は男性が45.2%で女性(39.9%)を5.3ポイント上回っている。

図 性別 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである



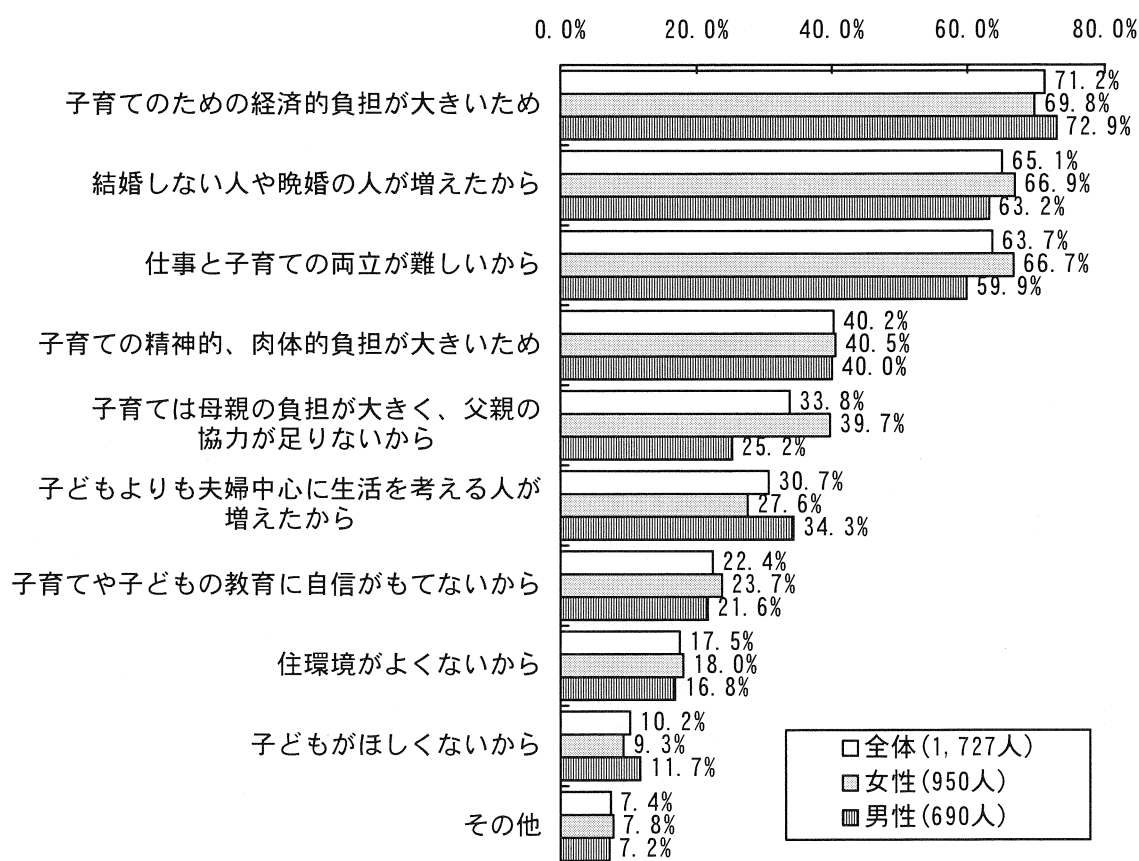
8-2-4 出生率の低下原因

問 29 最近、出生率が低下し、少子化が進んでいますが、どのようなことが原因だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

出生率の低下原因については、「子育てのための経済的負担が大きいため」が 71.2%で最も多く、次いで「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」(65.1%)、「仕事と子育ての両立が難しいから」(63.7%)となっている。

性別で回答の多い順の第3位までみると、男女ともに順位は全体と同様の傾向にあるものの、「子育てのための経済的負担が大きいため」は男性が 72.9%で女性(69.8%)を上回っており、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」と「仕事と子育ての両立が難しいから」は女性が男性を上回っている。その他の項目では、「子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから」が、女性が 39.7%で男性(25.2%)を 14.5 ポイント上回っている。また、「子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから」では、男性が 34.3%で女性(27.6%)を 6.7 ポイント上回っている。

図 性別 出生率の低下原因（複数回答）



年齢別に回答の多い順をみると、いずれの世代も「子育てのための経済的負担が大きいため」が最も多くなっているが、上位第2、3位に世代間で違いがみられる。「20～29 歳」では「仕事と子育ての両立が難しいから」が「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」を上回って第2位であるが、「30～39 歳」で両者が同率2位となり、40 歳以上の世代では「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」が「仕事と子育ての両立が難しいから」を上回って第2位となっている。

表 年齢別 出生率の低下原因（複数回答）

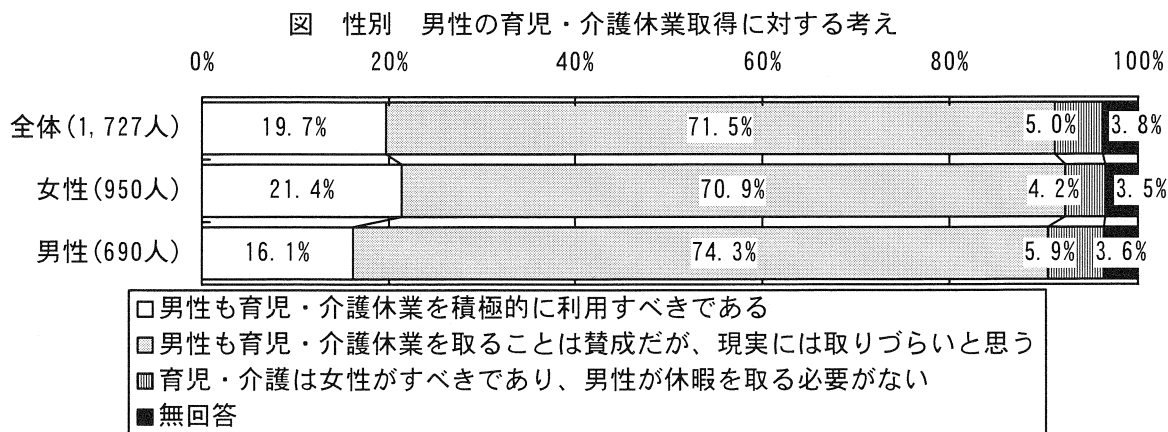
	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	子育てのための経済的負担が大きいため	仕事と子育ての両立が難しいから	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため
		80.2%	75.9%	66.0%	43.2%	35.2%
30～39歳	220	子育てのための経済的負担が大きいため	仕事と子育ての両立が難しいから	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		80.0%	62.7%	62.7%	40.5%	34.1%
40～49歳	245	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		71.4%	68.2%	65.3%	43.7%	32.2%
50～59歳	337	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		67.4%	67.1%	65.0%	41.2%	36.5%
60～64歳	225	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから
		72.0%	71.6%	61.8%	40.4%	35.1%
65歳以上	451	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから
		65.6%	60.5%	59.4%	39.5%	31.0%

8-2-5 男性の育児・介護休業取得に対する考え

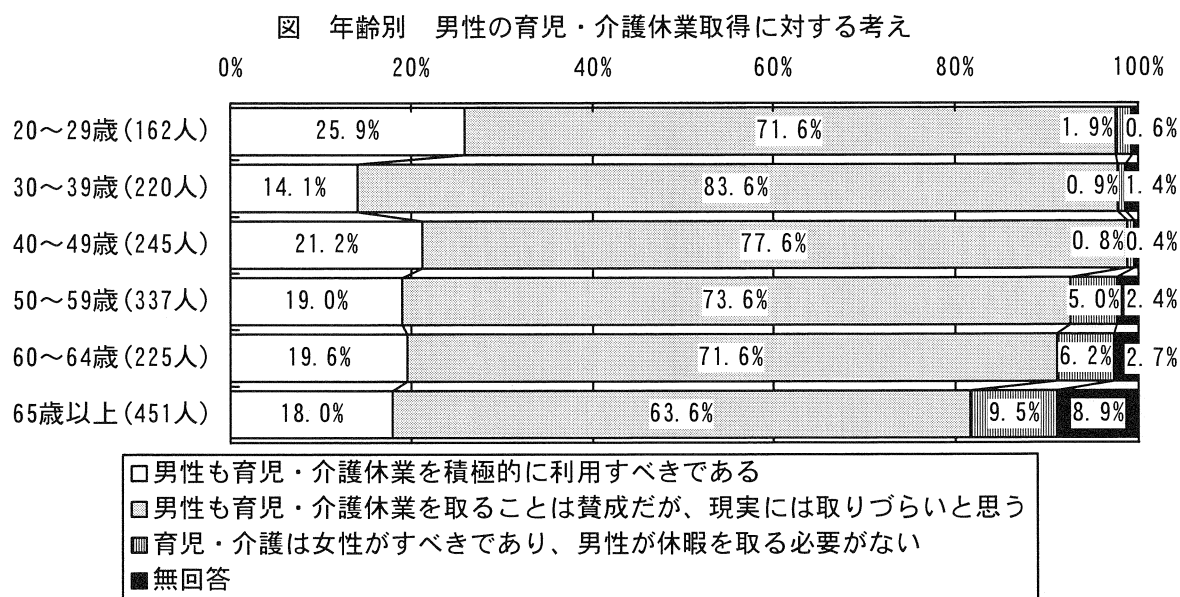
問 30 男性も育児・介護休業が取れますが、このことについてどうお考えですか。【あてはまるもの1つに○】

男性の育児・介護休業取得に対する考えは、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が71.5%で最も多く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」（19.7%）となっている。

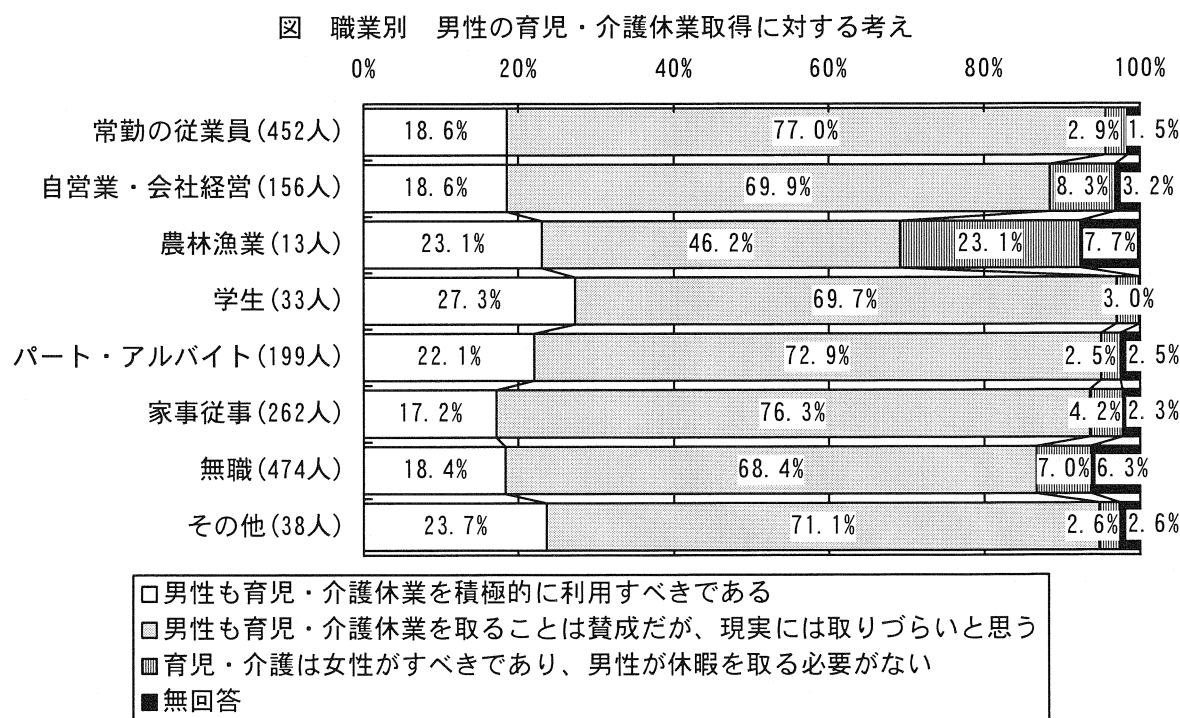
性別でみると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は男性が74.3%で女性（70.9%）を3.4ポイント上回っており、「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は女性が21.4%で男性（16.1%）を5.3ポイント上回っている。



年齢別にみると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は「30～39歳」が83.6%で最も高く、次いで「40～49歳」（77.6%）となっている。「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は「20～29歳」が25.9%で最も高くなっている。「育児・介護は女性がすべきであり、男性が休暇を取る必要がない」は「65歳以上」が9.5%で最も高くなっている。



職業別にみると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は「常勤の従業員」が77.0%で最も高く、次いで「家事従事」（76.3%）となっている。「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は「学生」（27.3%）が最も多くなっている。



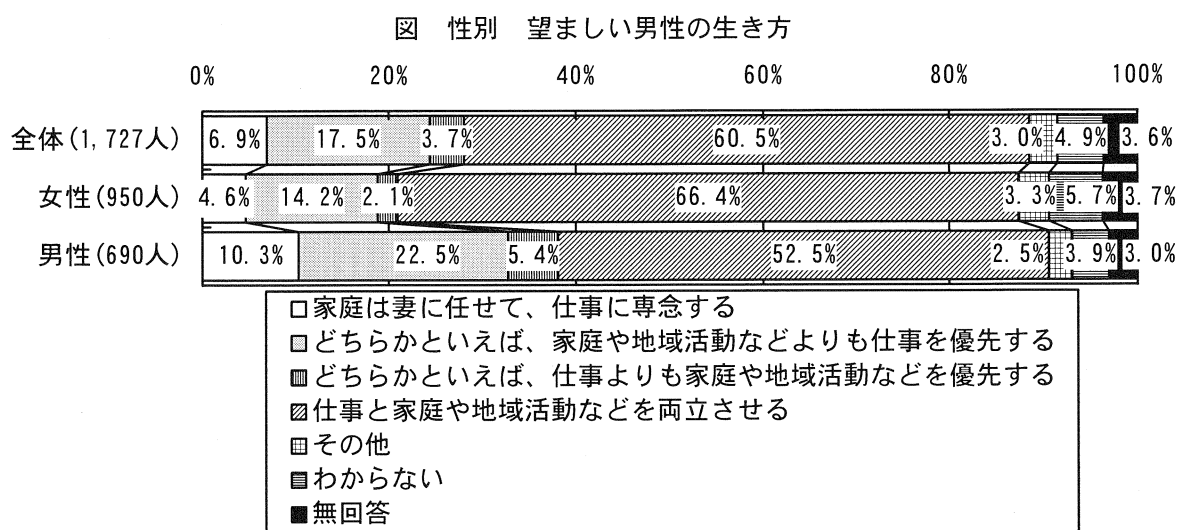
8-3 生活と仕事

8-3-1 望ましい男性の生き方

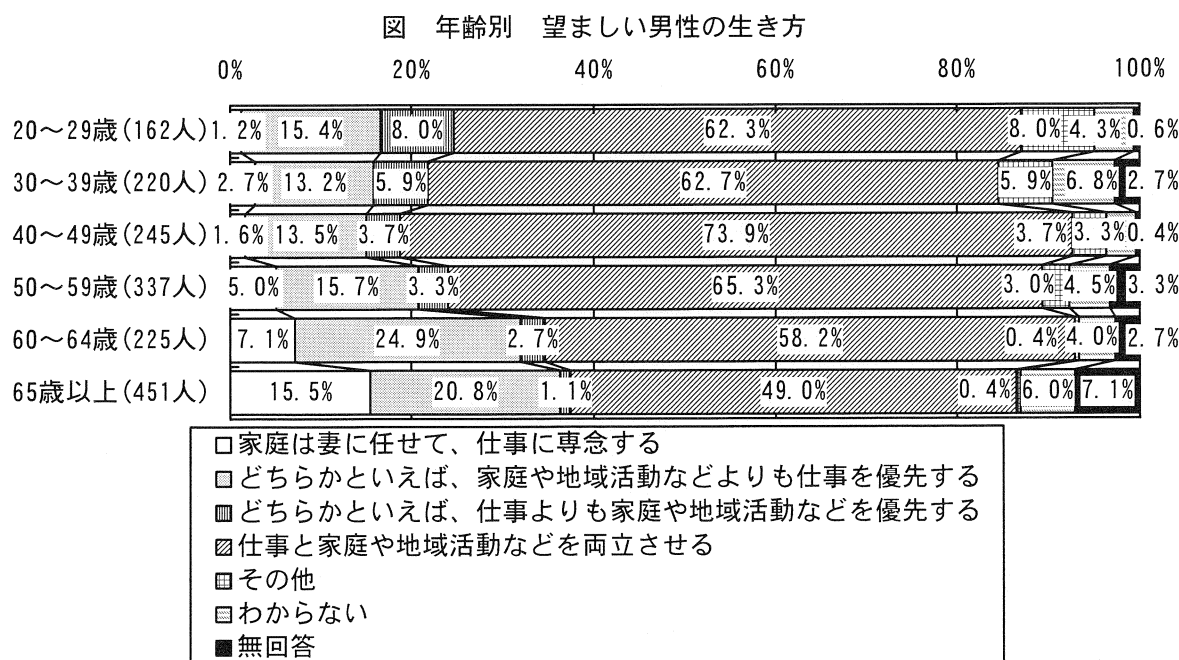
問 31 これからの男性の生き方として、次のどれが望ましいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

望ましい男性の生き方は、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」が60.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」(17.5%)となっている。

性別でみると、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」は女性が66.4%で男性(52.5%)を13.9ポイント上回っている。また「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」は男性が22.5%で女性(14.2%)を8.3ポイント上回っている。



年齢別にみると、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」は「40～49歳」が73.9%で最も高く、次いで「50～59歳」(65.3%)、「30～39歳」(62.7%)となっている。「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」は「60～64歳」(24.9%)、「家庭は妻に任せて、仕事に専念する」は「65歳以上」(15.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

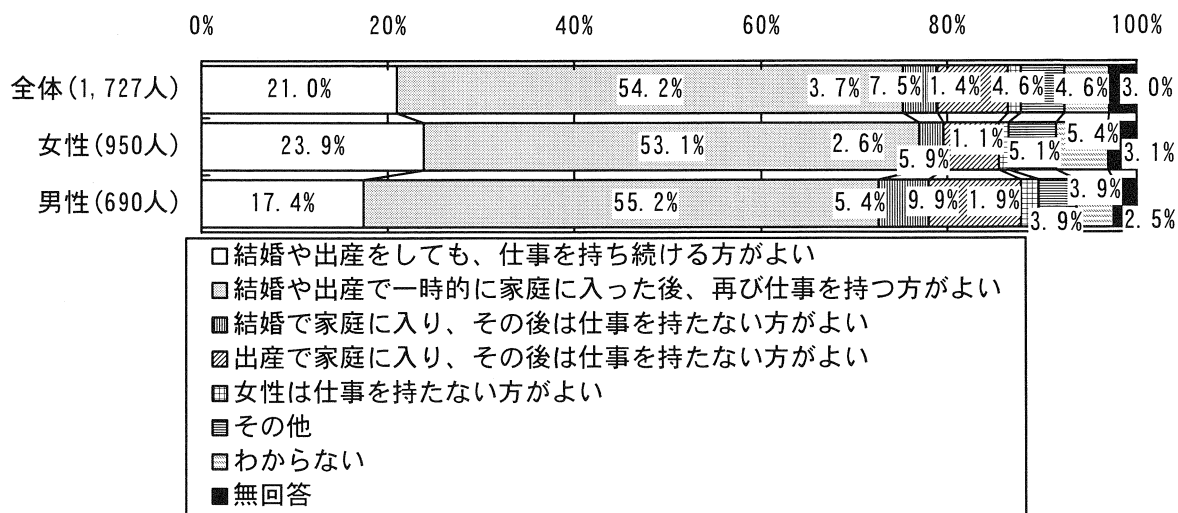


8-3-2 女性が収入を得る仕事を持つことについて

問 32 女性が収入を得る仕事を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

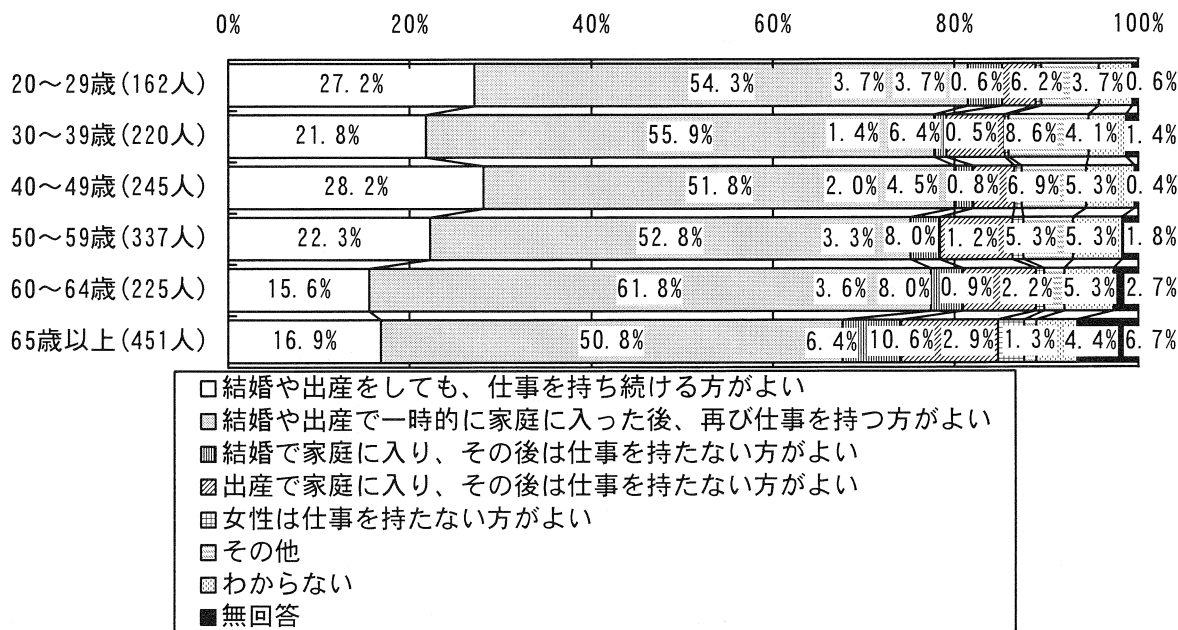
女性が収入を得る仕事を持つことについては、「結婚や出産で一時的に家庭に入った後、再び仕事を持つ方がよい」が54.2%で過半数を超えており、次いで「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」(21.0%)となっている。性別でみると、「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」は女性が23.9%で男性(17.4%)を6.5ポイント上回っている。

図 性別 女性が収入を得る仕事を持つことについて



年齢別にみると、「結婚や出産で一時的に家庭に入った後、再び仕事を持つ方がよい」は「60～64歳」が61.8%で最も高く、次いで「30～39歳」(55.9%)となっている。「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」は「40～49歳」が28.2%で最も高く、次いで「20～29歳」(27.2%)となっている。「結婚で家庭に入り、その後は仕事を持たない方がよい」、「出産で家庭に入り、その後は仕事を持たない方がよい」、「女性は仕事を持たない方がよい」は、いずれも「65歳以上」で最も高くなっている。

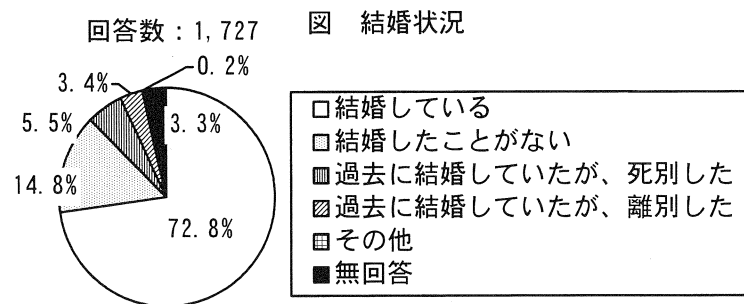
図 年齢別 女性が収入を得る仕事を持つことについて



8-3-3 結婚状況

問 33 あなたは結婚していますか。【あてはまるもの1つに○】

結婚状況は、「結婚している」が72.8%、「結婚したことがない」(14.8%)と「過去に結婚していたが、死別した」(5.5%)と「過去に結婚していたが、離別した」(3.4%)を合わせた現在結婚していない人が23.7%となっている。

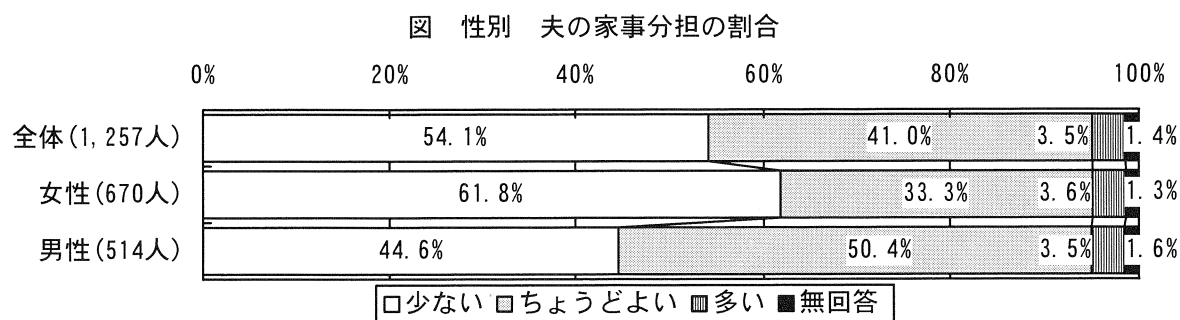


8-3-4 夫の家事分担の割合

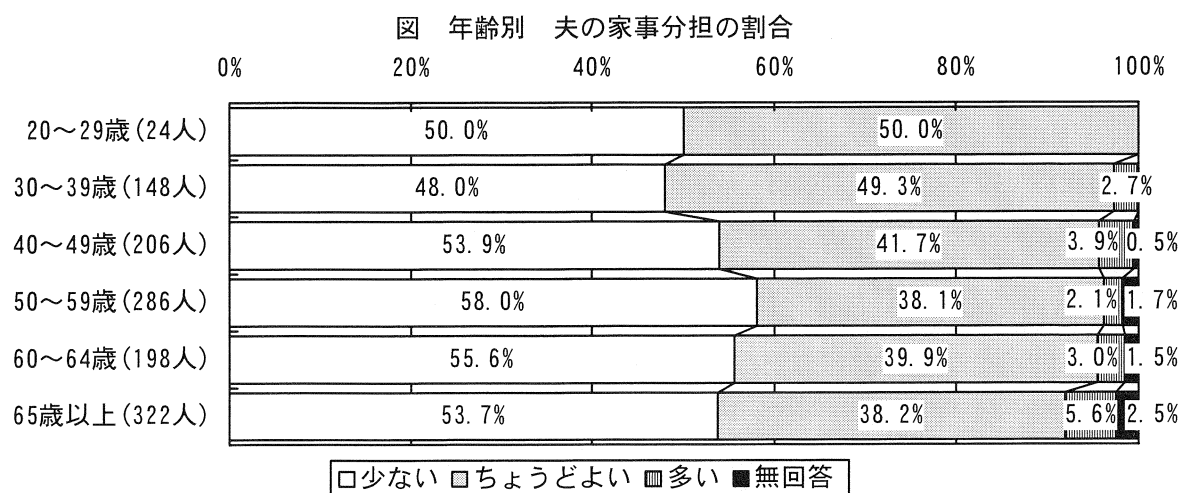
問 33-1 問 33で「1. 結婚している」と答えた方におたずねします。夫婦間における夫の家事分担の割合についてどのように思いますか。【あてはまるもの1つに○】

夫の家事分担の割合は、「少ない」が54.1%で過半数を超え、次いで「ちょうどよい」(41.0%)となっており、「多い」は3.5%にとどまっている。

性別でみると、男性は「ちょうどよい」が50.4%で最も多く、次いで「少ない」(44.6%)となっているが、女性は「少ない」が61.8%で最も多く、次いで「ちょうどよい」(33.3%)となっている。



年齢別にみると、「少ない」は「50～59歳」が58.0%で最も高く、次いで「60～64歳」(55.6%)となっている。「ちょうどよい」は「20～29歳」が50.0%で最も高く、次いで「30～39歳」(49.3%)となっている。



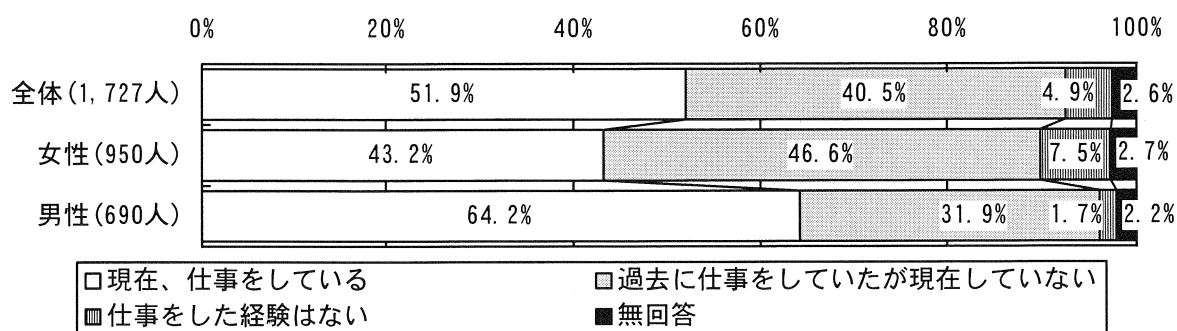
8-3-5 就業状況

問 34 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。また、経験はありますか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況は、「現在、仕事をしている」が51.9%で過半数を超え、「過去に仕事をしていたが現在していない」(40.5%)と「仕事をした経験はない」(4.9%)を合わせた非就業者(45.4%)を6.5ポイント上回っている。

性別でみると、「現在、仕事をしている」は男性が64.2%で女性(43.2%)を21ポイント上回っている。「過去に仕事をしていたが現在していない」は女性が46.6%で男性(31.9%)を14.7ポイント上回っている。

図 性別 就業状況



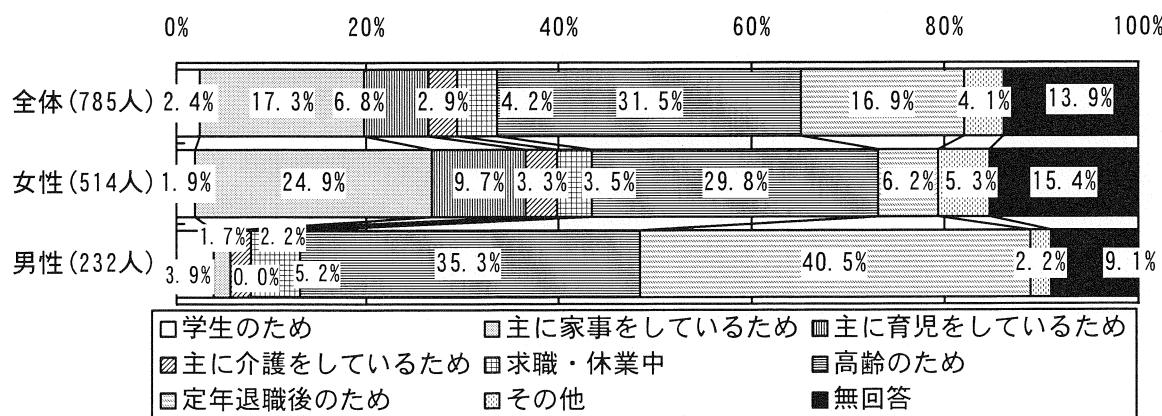
8-3-6 仕事をしていない理由

問 34-1 問 34 で「2. 過去に仕事をしていたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。現在、仕事をしていない理由は何ですか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしていたが現在していない」または「仕事をした経験はない」方の内、仕事をしていない理由は「高齢のため」が31.5%で最も多く、次いで「主に家事をしているため」(17.3%)、「定年退職後のため」(16.9%)となっている。

性別でみると、男性では「定年退職後のため」が40.5%で最も多く、次いで「高齢のため」(35.3%)となっているが、女性は「高齢のため」が29.8%で最も多く、次いで「主に家事をしているため」(24.9%)となっている。

図 性別 仕事をしていない理由



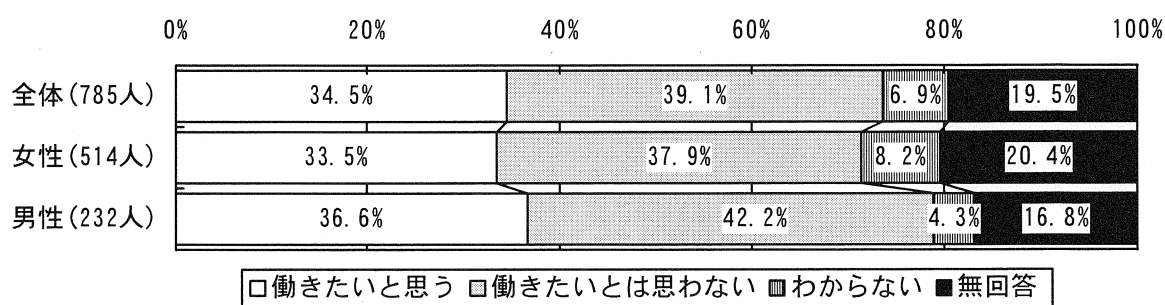
8-3-7 就業希望

問 34-2 問 34 で「2. 過去に仕事をしていて現在していない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。あなたは、パートタイムの仕事も含めて、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしていて現在していない」または「仕事をした経験はない」方の内、就業希望は、「働きたいとは思わない」が 39.1%で最も多く、「働きたいと思う」(34.5%)を 4.6 ポイント上回っている。

性別でみると、「働きたいとは思わない」は、男性が 42.2%、女性が 37.9%となっている。

図 性別 就業希望



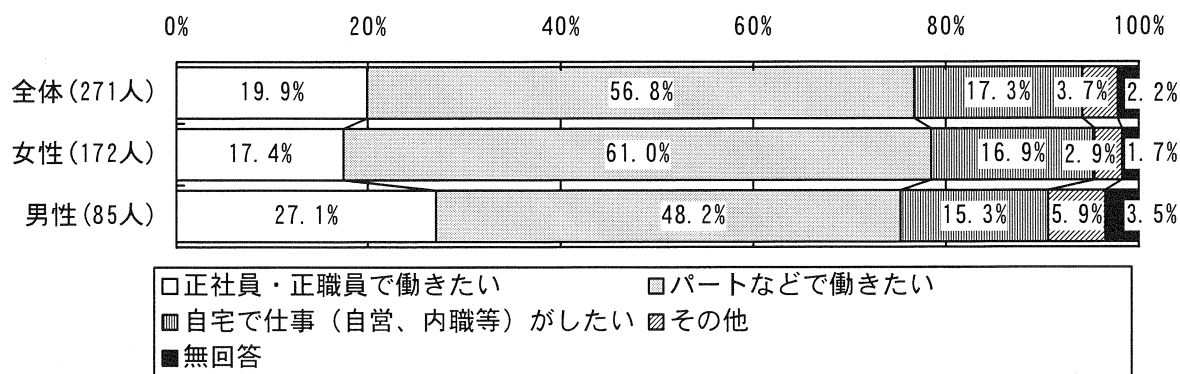
8-3-8 希望する雇用体系

問 34-2-1 問 34 で「2. 過去に仕事をしていて現在していない」または「3. 仕事をした経験はない」と答え、問 34-2 で「1. 働きたいと思う」と答えた方におたずねします。どのように働きたいですか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしていて現在していない」または「仕事をした経験はない」方で「働きたいと思う」方の内、希望する雇用体系は「パートなどで働きたい」が 56.8%で過半数を超えており、次いで「正社員・正職員で働きたい」(19.9%)、「自宅で仕事(自営、内職等)がしたい」(17.3%)となっている。

性別でみると、「パートなどで働きたい」は女性が 61.0%で男性(48.2%)を 12.8 ポイント上回っている。「正社員・正職員で働きたい」は男性が 27.1%で女性(17.4%)を 9.7 ポイント上回っている。

図 性別 希望する雇用体系



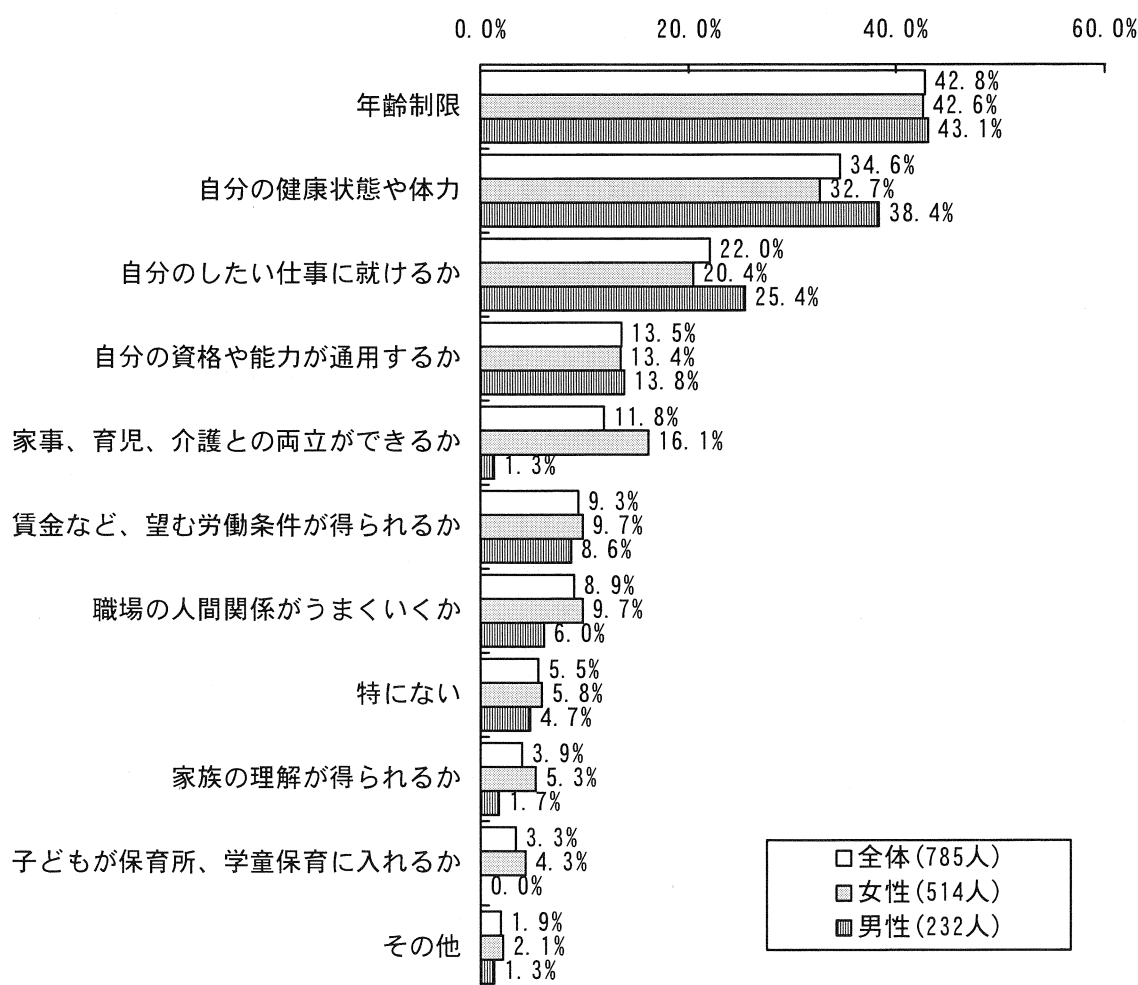
8-3-9 働く時の気がかり

問 34-3 問 34 で「2. 過去に仕事をしていたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。再び、あるいは新規に働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。【あてはまるもの3つ以内で○】

就業状況が「過去に仕事をしていたが現在はしていない」または「仕事をした経験はない」方の内、働くときの気がかりは「年齢制限」が42.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力」(34.6%)、「自分のしたい仕事に就けるか」(22.0%)となっている。

性別でみると、回答の多い順の上位3位までは全体と同様であるが、第4位は男性では「自分の資格や能力が通用するか」、女性では「家事、育児、介護との両立ができるか」となっている。「家事、育児、介護との両立ができるか」は、女性は16.1%で男性(1.3%)を14.8ポイント上回っている。

図 性別 働く時の気がかり（3つ以内で複数回答）



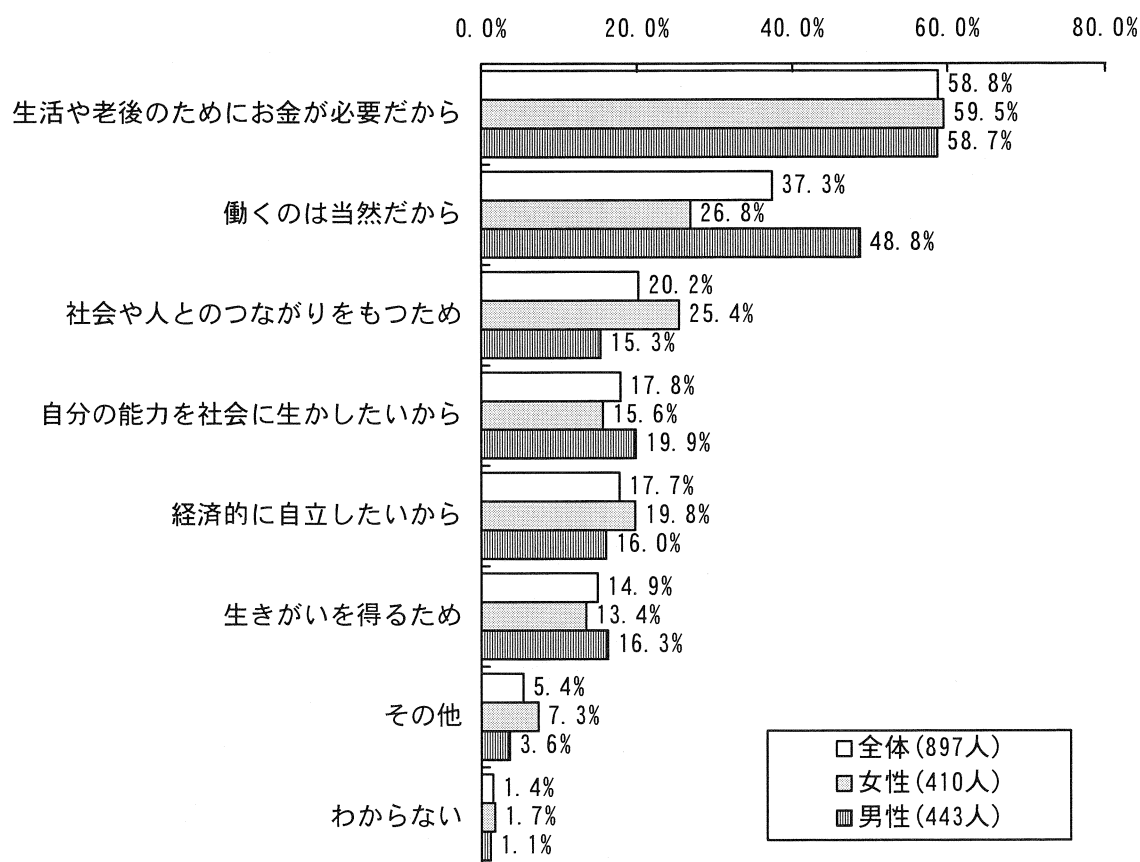
8-3-10 仕事をしている主な理由

問 35 問 34で「1. 現在、仕事をしている」と答えた方におたずねします。あなたが仕事をしている主な理由をお選びください。【あてはまるもの2つ以内で○】

就業状況が「現在、仕事をしている」方の内、仕事をしている理由は「生活や老後のためにお金が必要だから」が58.8%で最も多く、次いで「働くのは当然だから」(37.3%)、「社会や人とのつながりをもつため」(20.2%)となっている。

性別で回答の多い順をみると、男女とも「生活や老後のためにお金が必要だから」が最も多く、次いで「働くのは当然だから」となっているが、第3位が男性では「自分の能力を社会に生かしたいから」、女性では「社会や人とのつながりをもつため」となっている。また、「働くのは当然だから」は、男性が48.8%で女性(26.8%)を22.0ポイント上回っている。

図 性別 仕事をしている主な理由（2つ以内で複数回答）



8-4 人権と暴力

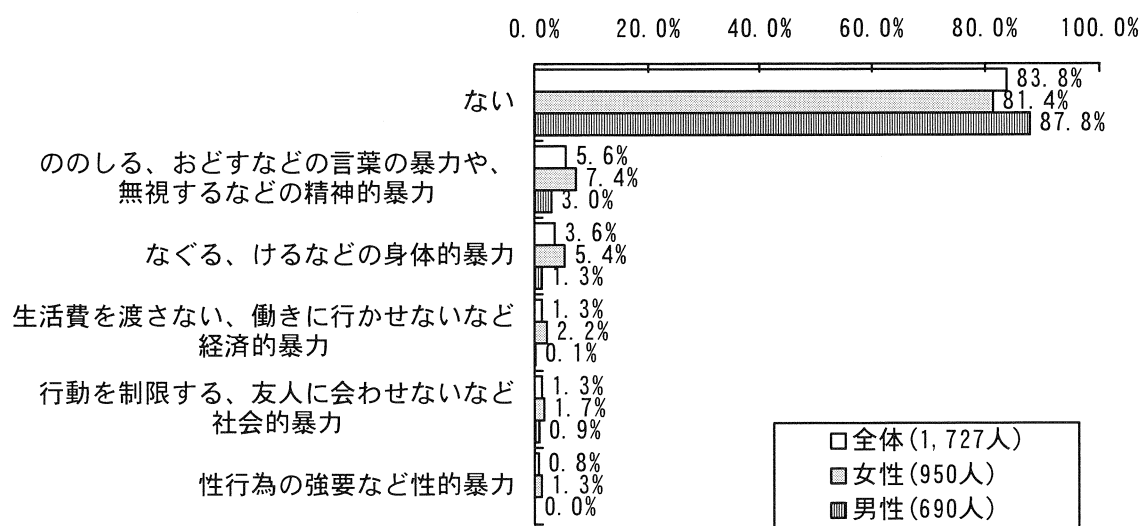
8-4-1 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験

問 36 次にあげるドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人など身近な人からの暴力）を受けたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験は、「ない」を除けば「ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力」が 5.6%で最も多く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力」（3.6%）となっている。なお、「ない」は 83.8%となっている。

性別でみると、「ののしる、脅すなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力」が男性 3.0%に対し女性 7.4%、「なぐる、けるなどの身体的暴力」で男性 1.3%に対し女性 5.4%というように、女性のドメスティック・バイオレンスを受けた経験が全体的に男性より高くなっている。特に、「性行為の強要など性的暴力」は、女性（1.3%）にのみ回答が見られる。「ない」は、男性が 87.8%で女性（81.4%）を 6.4 ポイント上回っている。

図 性別 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験（複数回答）



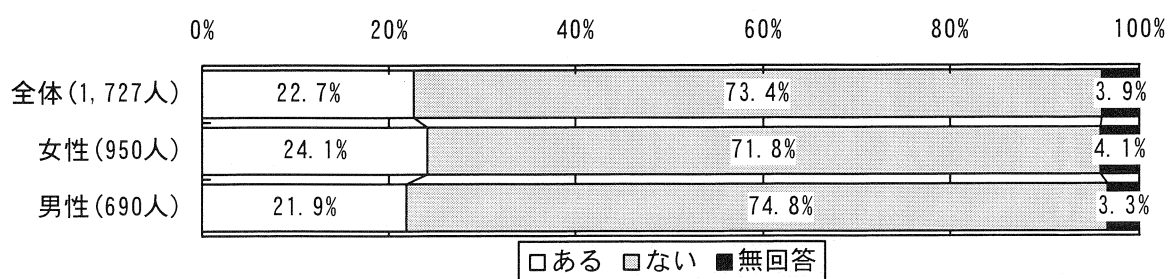
8-4-2 ドメスティック・バイオレンスの見聞き

問 37 あなたの身近なところで、問 36 のような暴力を見たり、聞いたりしたことはありますか。【あてはまるもの 1 つに○】

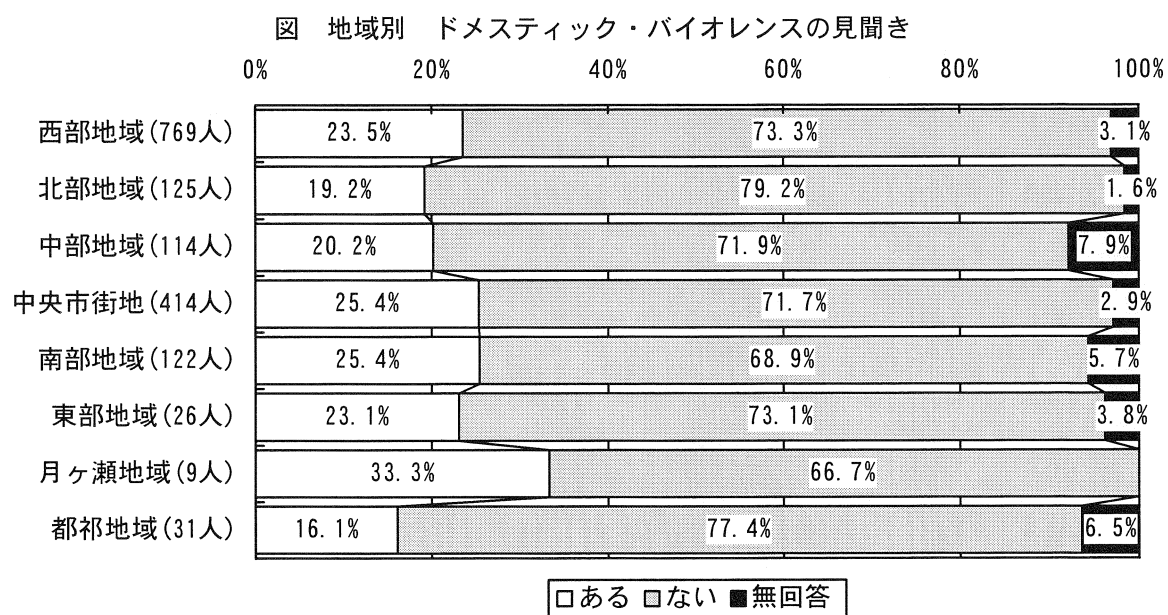
ドメスティック・バイオレンスの見聞きは、「ない」が 73.4%で「ある」（22.7%）を 50.7 ポイント上回っている。

性別でみると、「ない」は男性が 74.8%で女性（71.8%）を 3 ポイント上回っている。

図 性別 ドメスティック・バイオレンスの見聞き



地域別にみると、「ある」は「月ヶ瀬地域」が33.3%で最も高く、次いで「中央市街地」と「南部地域」の25.4%となっている。



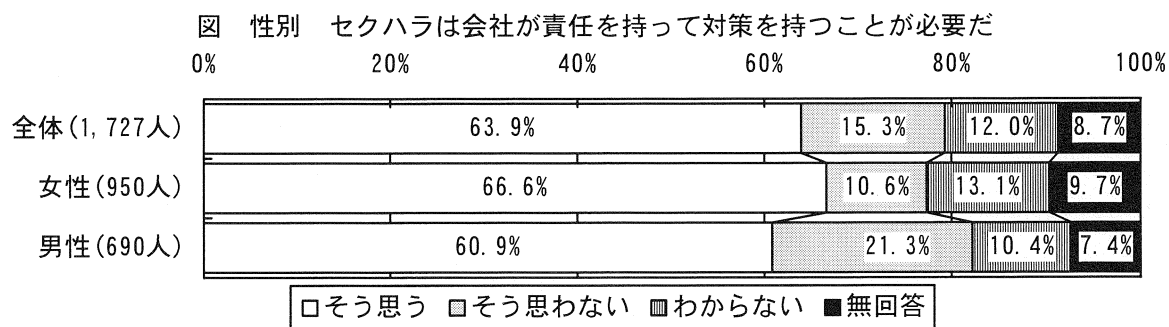
8-4-3 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についての考え方

問 38 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についてあなたはどのようにお考えですか。

（１）セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だ

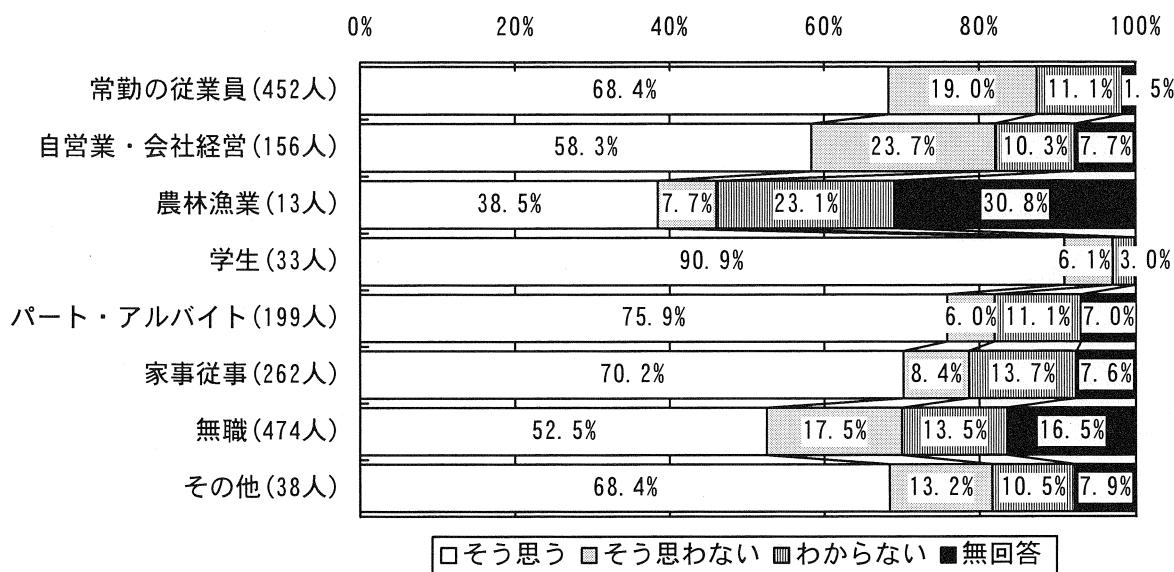
セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だという考え方は、「そう思う」が63.9%で「そう思わない」（15.3%）を48.6ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」は女性が66.6%で男性（60.9%）を5.7ポイント上回っている。



職業別にみると、「そう思う」は「学生」が90.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(75.9%)、「家事従事」(70.2%)となっている。「そう思わない」は「自営業・会社経営」が23.7%で最も高く、次いで「常勤の従業員」(19.0%)となっている。

図 職業別 セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だ

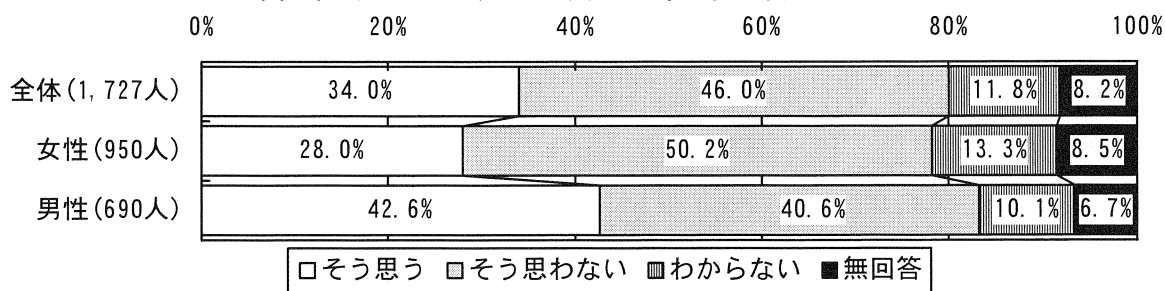


(2) セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う

セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思うという考え方は、「そう思わない」が46.0%で「そう思う」(34.0%)を12.0ポイント上回っている。

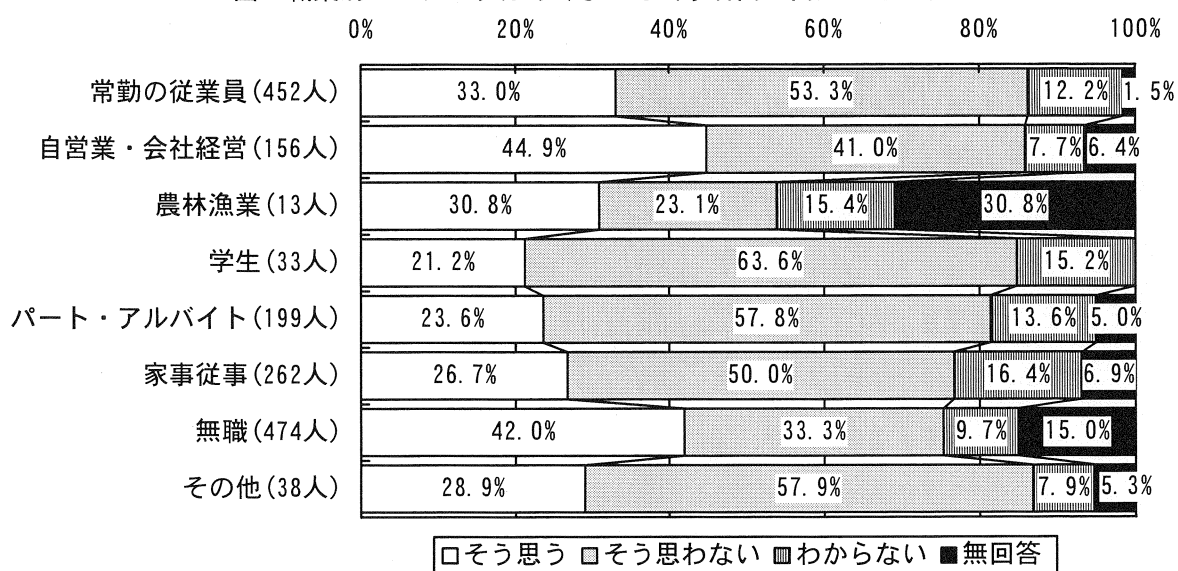
性別でみると、男性は「そう思う」が42.6%、「そう思わない」が40.6%と意見が拮抗しているのに対し、女性は「そう思わない」が50.2%で過半数を超え「そう思う」は28.0%にとどまる。

図 性別 セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う



職業別にみると、「そう思う」は「自営業・会社経営」が44.9%で最も高く、次いで「無職」(42.0%)となっている。「そう思わない」は学生が63.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(57.8%)となっている。

図 職業別 セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う

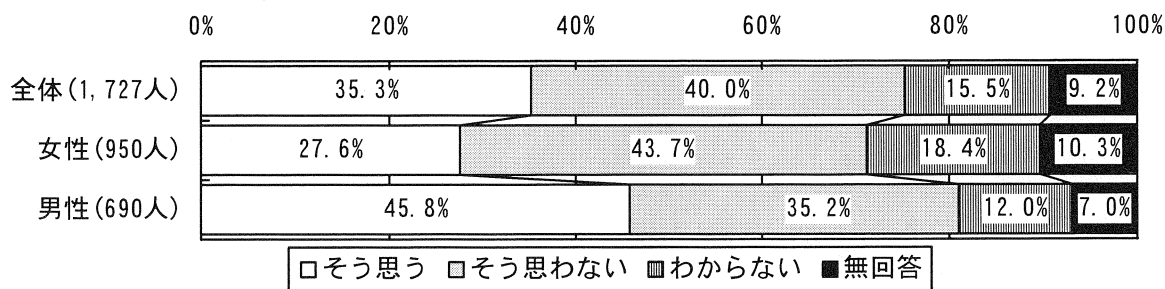


(3) セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思う

セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思うという考え方は、「そう思わない」が40.0%で「そう思う」(35.3%)を4.7ポイント上回っている。

性別でみると、男性は「そう思う」が45.8%で「そう思わない」(35.2%)を上回っているが、女性は「そう思わない」が43.7%で「そう思う」(27.6%)を上回っている。

図 性別 セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思う

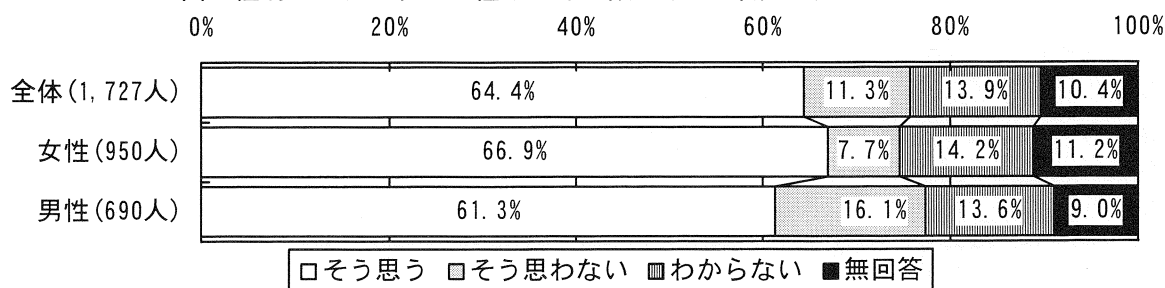


(4) セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要がある

セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要があるという考え方は、「そう思う」が64.4%で「そう思わない」(11.3%)を53.1ポイント上回っている。また、「わからない」が13.9%で「そう思わない」を上回っている。

性別でみると、「そう思う」は女性が66.9%で男性(61.3%)を5.6ポイント上回っている。

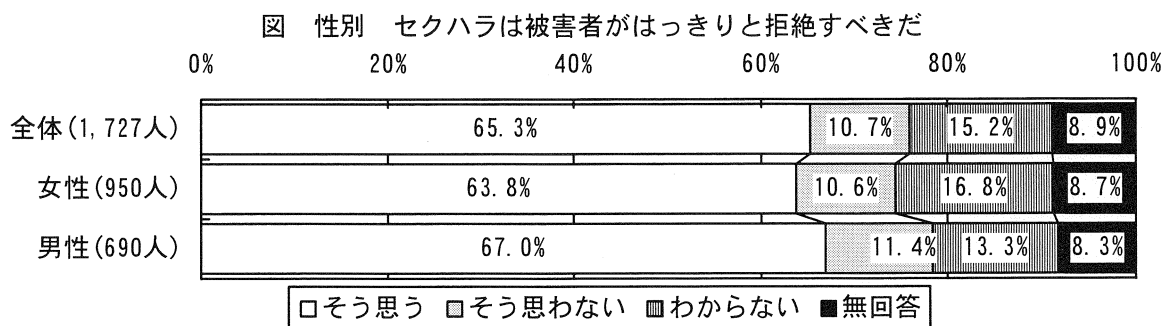
図 性別 セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要がある



（５）セクハラは被害者がはっきりと拒絶すべきだ

セクハラは被害者がはっきりと拒絶すべきだという考え方は、「そう思う」が 65.3%で「そう思わない」(10.7%)を 54.6 ポイント上回っている。また、「わからない」が 15.2%で「そう思わない」を上回っている。

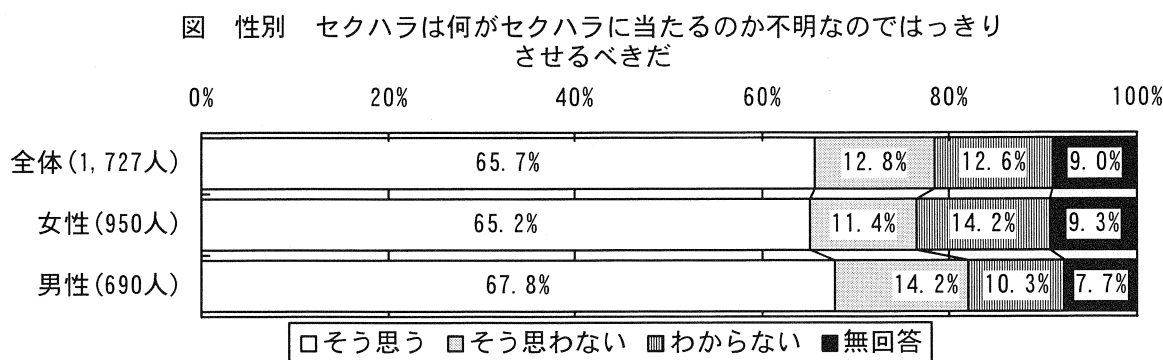
性別でみると、「そう思う」は男性が 67.0%で女性(63.8%)を 3.2 ポイント上回っている。「わからない」は女性が 16.8%で男性(13.3%)を 3.5 ポイント上回っている。



（６）セクハラは何がセクハラに当たるのか不明なのではっきりさせるべきだ

セクハラは何がセクハラに当たるのか不明なのではっきりさせるべきだという考え方は、「そう思う」が 65.7%で「そう思わない」(12.8%)を 52.9 ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」は男性が 67.8%で女性(65.2%)を 2.6 ポイント上回っている。



8－5 行政への期待

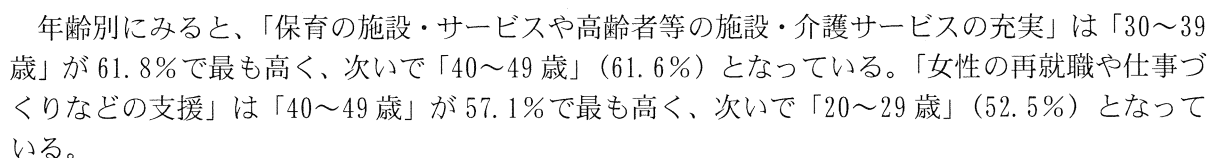
8－5－1 男女共同参画社会の実現のため市が力をいれること

問 39 あなたは男女共同参画社会の実現のために、市がどのようなことに力を入れたらよいと思われますか。【あてはまるもの3つ以内で○】

男女共同参画社会の実現のため市が力をいれることは、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスの充実」が 56.3%で最も多く、次いで「女性の再就職や仕事づくりなどの支援」(41.1%)、「雇用や就労などに関しての企業への働きかけ」(38.2%)となっている。

性別でみると、男女ともに「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスの充実」が最も多く、特に女性が 61.8%で男性(49.6%)を 12.2 ポイント上回っている。次いで、男性では「雇用や就労などに関しての企業への働きかけ」(39.4%)となっているが、女性では「女性の再就職や仕事づくりなどの支援」(46.9%)となっている。

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%



	有効回答数	男女平等に関する啓発活動	女性の活動グループの育成・支援	実講座や講演会などの充	男性の家事や育児、介護の実施	男性の参加を促す事業	雇用や就労などに関し	女性を意識決定の場に積極的に登用する	女性の再就職や仕事づくりなどの支援	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・サービスの充実	国際理解や国際交流に関する事業の実施	その他
全体	1,727	18.0%	10.7%	15.1%	29.2%	38.2%	18.2%	41.1%	56.3%	5.7%	2.6%	
年齢	20～29歳	162	9.9%	8.6%	8.6%	42.0%	44.4%	17.9%	52.5%	57.4%	7.4%	1.9%
	30～39歳	220	9.1%	5.0%	5.9%	40.0%	43.6%	15.9%	51.8%	61.8%	4.5%	3.6%
	40～49歳	245	14.7%	13.5%	9.4%	26.1%	46.9%	18.0%	57.1%	61.6%	4.1%	1.2%
	50～59歳	337	18.7%	10.7%	17.8%	27.0%	45.4%	16.3%	42.4%	54.3%	7.7%	4.2%
	60～64歳	225	20.4%	12.4%	16.9%	32.4%	39.1%	22.2%	34.7%	59.6%	2.7%	3.1%
	65歳以上	451	24.6%	11.5%	21.3%	21.5%	23.9%	19.7%	25.1%	51.2%	6.7%	1.6%

9. 市政への意見・要望

9-1 奈良市政について（自由回答）

問 40 奈良市政について、日頃お気づきの点や感じになっている点をお聞かせください。
（自由回答）

奈良市政について 675 人 (39.1%) の方からご意見やご要望の回答があり、分類すると、「市政」(355 人)、「環境・まちづくり」(315 人)、「保健・医療・福祉」(154 人)、「市役所」(119 人)、「人権・教育・文化」(91 人)、「観光・商業・労働」(82 人)、「災害・安全」(34 人)、「その他」(27 人) となっている。

表 奈良市政について（自由回答）

大分類	中分類	回答数	構成比
市政	財政	131	19.4%
	選挙	57	8.4%
	議員	43	6.4%
	広報・情報公開	37	5.5%
	自治会活動	6	0.9%
	その他	81	12.0%
	計	355	52.6%
環境・まちづくり	道路・交通	137	20.3%
	ごみ、清掃・美化	45	6.7%
	自然・緑化	33	4.9%
	景観	23	3.4%
	まちづくりのイメージ	18	2.7%
	公園	16	2.4%
	土地	9	1.3%
	下水道	5	0.7%
	その他	29	4.3%
	計	315	46.7%
保健・医療・福祉	高齢者福祉	47	7.0%
	児童福祉	45	6.7%
	福祉全般	21	3.1%
	医療費・健康保険料	17	2.5%
	医療機関	11	1.6%
	障がい者福祉	6	0.9%
	保健	4	0.6%
	生活福祉	3	0.4%
	計	154	22.8%
市役所	職員	76	11.3%
	窓口業務	37	5.5%
	その他	6	0.9%
	計	119	17.6%
人権・教育・文化	生涯教育施設	44	6.5%
	学校教育	33	4.9%
	その他	14	2.1%
	計	91	13.5%
観光・商業・労働	観光	48	7.1%
	商業	20	3.0%
	労働	14	2.1%
	計	82	12.1%
災害・安全	防災	18	2.7%
	治安の維持・向上	16	2.4%
	計	34	5.0%
その他	アンケート	16	2.4%
	その他	11	1.6%
	計	27	4.0%
全体		675	100.0%

* 回答者の中には、複数の内容を記述している人もいる。
このため、各分類の総計と全体（回答者数）は一致しない。